

琵琶湖博物館業績目録

14号

2009年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

琵琶湖博物館業績目録

第 14 号

2009 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2010 年 5 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 14

From April 2009 to March 2010

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOYUCHI, Yasufumi)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, May 2010

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長	
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya 5
名誉学芸員	
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo 8
上席総括学芸員	
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo 12
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi 15
用田 政晴	YODA, Masaharu 20
環境史研究担当	
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi 23
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi 27
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi 31
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori 35
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji 38
老 文子	OI, Fumiko 42
生態系研究担当	
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J. 45
松田 征也	MATSUDA, Masanari 51
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki 55
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro 58
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko 61
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi 65
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki 68
碓 登志之	HAZAMA, Toshiyuki 70
臼井 学	USUI, Manabu 73
西村 知記	NISHIMURA, Tomoki 75
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo 77
中井 克樹	NAKAI, Katsuki 80
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke 88
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro 92
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James 94
磯田 能年	ISODA, Takane 97
楊 平	YANG, Ping 99

博物館学研究担当

秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu	102
戸田 孝	TODA, Takashi	105
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	108
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	112
中藤 容子	NAKATO, Yoko	114
大依 久人	OHYORI, Hisato	119
飯住 達也	IIZUMI, Tatsuya	123

嘱託員

斎藤 慶一	SAITO, Keiichi	127
中園 健治	NAKAZONO, Kenji	129
藤岡 千裕	FUJIOKA, Chihiro	130
山田 陽子	YAMADA, Yoko	132

特別研究員

天野 一葉	AMANO, Hitoha	134
植田 文雄	UEDA, Fumio	135
大西 拓	ONISHI, Taku	136
北村 美香	KITAMURA, Mika	137
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	139
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	141
鈴木 誉士	SUZUKI, Takashi	142
中井 大介	NAKAI, Daisuke	143
中尾 博行	NAKAO, Hiroyuki	145
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	147

総合研究・共同研究による印刷物	148
-----------------	-----

2009 年度の研究活動をふりかえって	150
---------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2009年4月から2010年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動
他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動
他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉・上田嘉太郎（2009）対談 今を語る：今さえ、我さえの心を捨て、長い時間軸で考え生きる。すきつと、13, 天理教道友会, 天理市：81-89.
- 川那部浩哉（2009）食いをめぐる生き物の関係。バイオストーリー, 生き物文化誌学会, 11：2-3.
- 川那部浩哉（2009）ごあいさつ。高橋啓一・山中裕子 編, 第17回企画展示展示解説書「骨の記憶—あなたにきざまれた五億年の時—」, 琵琶湖博物館, 草津：I.
- 三谷英里・東出一真・川那部浩哉・中川博次・小俣 篤・守吉 尚・芹田 彰・藤田裕之・塩飽乙理恵・久保田美緒（2009）子どもと大人の寄り合い会議。子どもと川とまちのフォーラムかわら版, 14, 子どもと川とまちのフォーラム, 京都：4-5.
- 川那部浩哉（2009）ごあいさつ。琵琶湖博物館年報, 13, 琵琶湖博物館：1.
- 川那部浩哉（2009）共生、生物多様性。学校運営, 12, 全国公立学校教頭会, 東京：12-15.
- Kawanabe, H. (2009) Connection with and relevance to eco-environmental concerns, policies and education - in the case of Lake Biwa Museum - . *Challenges and Perspectives; - New Role of the Natural History Museum in Response to Global Change - Proceedings of the International Symposium for the 100th Anniversary of National Taiwan Museum -* (ed, by Huang, S.-F., et al.), National Taiwan Museum, Taipei, Taiwan：233-247 (248-259 in Chinese).
- 川那部浩哉（2009）まえがき。橋本道範 編, 琵琶湖博物館研究調査報告書 日本中世魚介類消費の研究—五世紀山科家の日記から—, 25, 琵琶湖博物館：I.
- 川那部浩哉・成谷利彰（2010）月曜考 生態系から多様性保全。北海道新聞：2010年1月1日.
- 川那部浩哉（2010）2009年読書アンケート。みすず, 579, みすず書房, 東京：85-86.
- 川那部浩哉・松田 清・高橋義人（2010）博物館あれこれ。人環フォーラム, 26, 京都大学大学院人間・環境学研究科, 京都：2-13.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 川那部浩哉・西野麻知子・前畑政善（2009年9月10日）琵琶湖における水陸移行帯の悪化が生物学的多様性に与える影響と、県民や県によるその保全・再生運動について。国際古代湖会議, ミレニアムパレスホテル（マケドニア国オーフリド）, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件。

2010年3月20日，琵琶湖の魚は、古来どのように食べられてきたか，琵琶湖博物館特別講演会，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月4日，これからの人間の生きかたを考えるー京都の水源である琵琶湖の魚と環境を材料にしてー，桃山高校三六会，桃稜会館（京都），講演。

2009年4月12日，自然と文化における琵琶湖ー近年の状況からー，花と緑の大津吟行会，俳人協会関西支部，ピアザ淡海（大津），講演。

2009年9月18日，生きものから見た琵琶湖ー流域に住む人々の文化を発展させるためにー，東近江市民大学，八日市文化芸術会館（東近江市），講演。

2009年10月23日，地球環境関西フォーラム「琵琶湖環境ビジネスメッセ2009 生物多様性保全を踏まえた企業活動セミナー」，長浜バイオ大学（長浜），パネルディスカッションコーディネーター。

2009年11月27日，鼎談「竹と琵琶湖」（嘉田由紀子さん・柴田昌三さんと），全国竹の大会滋賀県大会，ピアザ淡海（大津市）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年9月5～17日，マケドニア・フランス，世界古代湖会議出席、古代湖オーフリッド湖博物館との今後に協力に関する打合せ、フランス国立自然史博物館との国際合同企画展・国際集会打合せ。

2009年10月31日～11月8日，中国，世界湖沼会議出席、太湖研究視察。

【館外の活動】

Brasilian Journal of Biology, 編集顧問。

Environmental Biology of Fishes, 編集委員。

Hydrobiologia, 編集顧問。

International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集委員。

生き物文化誌学会, 評議員。

応用生態工学会, 新委員推薦委員会, 委員。

柿田川生態系委員会, シンポジウム現地視察委員。

河川生態学術研究委員会, 委員。

京都市青少年科学センター, 学術顧問。

京都市文化財保護審議会, 委員。

京都新聞社会福祉事業団理事評議員会, 理事。

国際生物学賞委員会, 同審査委員会, 委員。

子どもと川とまちのフォーラム書籍企画会, 顧問。

滋賀県試験研究機関連絡会議, 委員。

滋賀県琵琶湖研究のあり方検討委員会, 委員長。

自然保護助成基金, 理事。

島根大学汽水域研究センター研究推進協議会, 外部委員。

生物多様性科学国際共同計画（DIVERSITAS）科学委員会, 顧問。

生態学琵琶湖賞運営委員, 委員。

地球環境関西フォーラム 100 人委員会，企画委員会委員，同水環境とくらしの調和部会，部会長。
日本学術振興会 21 世紀 COE プログラム委員会委員，同総合評価部会委員。
日本魚類学会，評議員。
日本自然保護協会，評議員。
琵琶湖及び周辺河川環境に関する専門家グループ制度、アドバイザー。
琵琶湖総合保全学術委員会，委員長。
北海道大学総合博物館外部点検評価委員会，委員長。
みどりの学術賞選考委員会，委員。
野生生物保全論研究会，理事。
山階鳥類研究所「日本産鳥類の整備と活用に関する研究」成果報告会及び同外部評価調査会議，委員長。

名誉学芸員

印刷物

【専門分野の著作】

- 布谷知夫 (2009) 滋賀県の博物館事情と今後関西の博物館の『これからを』を考える. 全日本博物館学会ニュース, 90, 全日本博物館学会 : 9.
- 布谷知夫 (2009) 支部会だより滋賀県の博物館の現状. *JMMA 会報*, 52 (14) : 21-22.
- 布谷知夫 (2009) 木材遺物の樹種同定. 守山市播磨田遺跡報告書, 守山市文化財協会.
- 中尾七重・布谷知夫・杉山淳司 (2009) 使用木材種の調査. 重要文化財太田家住宅修理工事報告書, 多良木町 : 69-71.
- 布谷知夫 (2010) 地域住民とともに行う地域研究. *科学*, 80 (3), 岩波出版 : 255-259.

【一般向けの著作】

- 布谷知夫 (2009) 図鑑で名前を調べる. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 86, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 1-2.
- 布谷知夫 (2009) 自然保護運動と研究者関西自然保護機構会誌巻頭言, *関西自然保護機構会誌*, 31 (1) : 1-2.
- 布谷知夫 (2009) 琵琶湖博物館の最初のボランティア. *滋賀民報* : 2009年5月24日.
- 布谷知夫 (2009) 名前に近づくために自然観察のテーマ; 85. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 86, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 1-2.
- 神田哲久・布谷知夫 (2009) 外来カタツムリの観察会. *環境人通信*, (9) 近畿環境館 : 2.
- 布谷知夫 (2009) 生物多様性条約 (COP10) 自然観察のテーマ; 86. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 87, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 1-3.
- 布谷知夫 (2009) 滋賀県タンポポ調査 2010 西日本の予備調査結果. *タンポポ調査西日本 2010 中間報告書*, タンポポ調査 2010・西日本実行委員会 : 15-16.
- 布谷知夫 (2009) タネ飛ばしは大忙し. *博物館による環境と科学のフェスティバル実施報告書*, 北村美香・金尾滋史 編, 博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会 : 43-47.
- 布谷知夫 (2009) 四手井綱英先生を悼む, *関西自然保護機構会誌*, 31 (2), 関西自然保護機構 : 165-166.
- 布谷知夫 (2009) 自然観察の基本自然観察のテーマ; 87. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 88, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 1-3.
- 布谷知夫 (2010) 「楽しい」博物館づくり. *地域連携と県民参画により進める博物館事業実施報告書*, 三重県 : 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 布谷知夫 (2009年5月14日) 文部科学省博物館職員講習会在外研修へのコメント. 文部科学省, 社会教育政策センター, [口頭発表].
- 布谷知夫 (2009年6月10日) 館種を越えた博物館の連携・協力とその可能性について. 全国博物館長会議部会協議「博物館における諸問題について」, 日本博物館協会, 国立オリンピック記念青少年センター, [口頭発表]

布谷知夫 (2009年6月13日) 全日本博物館学会研究大会, 明治大学, [座長].

布谷知夫 (2009年10月18日) 事例報告会でのコメント, 文化ボランティアフォーラム 2009in 滋賀, 次世代の文化力をはぐくむ, 琵琶湖ホール, [口頭発表].

布谷知夫 (2010年2月9日) 三重県立新博物館とティーンズプロジェクト, 関西博物館研究会, 大阪市立生涯学習センター, [口頭発表]

山川千代美・百原 新・布谷知夫・松本みどり・綿野泰行 (2010年1月29日) 古琵琶湖層群の更新統産化石林に基づくスイショウ属とマタセコイア属の湿地林. 日本古生物学会第159回例会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

神田・廣寄由利恵・杉本・安藤・香月・志賀・中井克樹・布谷知夫 (2010年3月7日) 外来カタツムリ観察会の取り組みについて. 関西自然保護機構研究発表会, 大阪市立自然史博物館, [ポスター発表].

鈴木 武, 狩山俊悟・小川 誠・布谷知夫・高畠耕一郎・木村 進 (2010年3月20日) タンポポ調査・西日本2010予備調査からみたカンサイタンポポの分布, 植物分類学会, 愛知教育大学, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金基盤(C)「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」(研究代表者: 黒岩啓子), 共同研究者 (2009~2010年度).

文部科学省科学研究費補助金基盤(C)「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代測定」(代表者: 中尾七重), 共同研究者 (2009年度).

【学会等の役職・運営・論文の査読など】

全日本博物館学会, 役員.

全日本博物館学会, 学会誌編集委員.

関西自然保護機構, 関西自然保護機構会誌, 論文査読, 2件.

全日本博物館学会, 博物館学雑誌, 論文査読, 3件.

【大学の講義・実習, 学生の指導など】

2009年1月11日, 滋賀県立大学集中講義, 滋賀県立大学, 「博物館学概論A」.

2009年8月7日, 国学院大学博物館見学実習, 「琵琶湖博物館の理念と運営, 沿革について」.

【受賞など】

日本古生物学会平成20年度論文賞, 2009年6月26日, 「Paleovegetation reconstruction of fossil forest dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene Kobiwako Group, central Japan.」(Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., Matsumoto, M., and Watano, Y.).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ植物観察会, はしかけ制度, 6件.

わくわく探検隊, 2件.

2010年1月24日, ヨシってどういう植物?, 新春ヨシ笛演奏会, 琵琶湖博物館ホール.

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月5日, 水口子どもの森植物観察会, 水口子どもの森, 講師.

2009年4月18日, 植物観察会, 花緑公園観察会, 講師.

2009年5月29日, 地域に根差した博物館, 栃木県博物館協議会研修会, 栃木県博物館, 講師.

2009年5月30日, 生物多様性と私たち 国、世界は今, Forever オオサンショウウオシンポジウム in 伊賀・青山, 三重県伊賀市阿保青山ホール, 講師.

2009年6月7日, 飛ぶタネのワークショップ, NACS-J 大阪自然観察指導員連絡会総会, 大阪市立自然史博物館, 講師.

2009年6月30日, ヨシと人間, シニア自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月12日, 移入種カタツムリの観察会, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 門真市, 講師.

2009年8月2日, クルクルカラカラタネとばし, 環境と科学の祭典, 彦根ビバシティ (彦根市), 講師.

2009年8月5日, ツル植物を調べよう, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校理科教育研究会, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月8日~11月30日, 三重ティーンズプロジェクトの指導, 三重県立博物館・新博物館整備推進室, 監修者.

2009年8月21日, ヨシと人の暮らし, ヨシ笛サークル「なでしこ」, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月22日, 遺跡の古環境復元と博物館, 守山市歴史学講座, 守山市埋蔵文化財センター, 守山市文化財保護課, 講師.

2009年8月22日, 新博ティーンズプロジェクト博物館ツアーの案内, 三重県立博物館・新博物館整備推進室, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年9月4日, 琵琶湖博物館と生態文化, アジア文化交流情報院, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年10月16日~18日, 自然の観察, 自然観察指導員講習会講師, 愛知県自然観察指導者協議会, 愛知県, 講師.

2009年10月29日, 博物館の紹介, 小学校公開授業, 草津市立志津南小学校, 講師.

2009年11月28日, 「10代と大人との対話」, 三重県ティーンズプロジェクト三重県生活文化部・新博物館推進室, 三重県総合文化センター, コーディネーター.

2009年12月18日, ヨシ群落の特徴, 守山ヨシ笛アンサンブル企画委員会, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年1月23日, 地域について知り学ぶ場としての博物館, 三重県立博物館サポートスタッフ講演会・交流会, 三重県立博物館, 講師.

2010年1月27日, 学びの場としての博物館, 京都市博物館ボランティア養成講座, 京都市子ども文化会館, 講師.

2010年1月30日, ああしよこうしよみんなの博物館, みんなでつくる博物館2009, 三重県生活文化部新博物館整備推進室・三重県立博物館, 三重県津庁舎, 講師.

2010年2月12日, 博物館の連携事業, 兵庫県博物館協会研究会, 兵庫県立美術館, 講師.

2010年2月13日, ヨシと私たちの暮らし, コスモクラブ2月例会, 近江八幡市立男女共同参画センター, 講師.

2010年3月20日, 博物館と市民の連携, 三重県自然文化祭, 菟野市市民会館, 三重県自然文化祭実行委員会, 講師.

2010年3月20日, 生物多様性を観察する, 生物多様性EXPO 関連自然観察会, 韮公園, 環境庁・整備津多様性EXPO 実行委員会, 講師.

2010年3月21日, 植物のタネと実, 長岡京市市民文化会館, 講師.

視察対応

2009年10月20日, 科学未来館, 琵琶湖博物館.

【展示活動】

他博物館・機関の活動

三重県生活文化部新博物館整備推進室, 2008年8月~2010年3月, 三重県立新博物館の展示・建築運営に対する助言, 監修者.

南種子町教育委員会, 2009年4月1日～2011年3月, 南種子町立博物館の展示・建築・運営に対する助言, 企画委員会委員.

滋賀県生活福祉部, 2009年6月～2011年3月, 滋賀県立平和祈念館(仮称)の運営に対する助言, 企画委員会委員.

【企画調整活動】

JICA 博物館集中コース, 地域博物館の役割, 講師, 2009年10月8日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館集中コース専門研修, 市民活動と博物館, 講師, 2009年11月9日, 琵琶湖博物館.

JICA 中東博物館コース研修, 地域博物館の役割, 2010年2月26日, 琵琶湖博物館.

JICA 中国環境教育, 琵琶湖博物館の概要と環境に関する考え方, 2010年3月4日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年4月1日～2014年3月31日, 名誉学芸員.

【館外の活動】

和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会, 委員・会長代理.

タカラフォールディング助成評価委員会, 委員.

花王・コミュニティミュージアム・プログラム選考委員会, 委員.

滋賀県棚田等保全検討委員会, 委員.

しが文化芸術学習支援センター運営委員会, 委員.

国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会, 委員.

三重県立新博物館検討委員会, 監修員.

三重県地域連携県民参画により進める博物館づくり事業, 監修員.

滋賀県生き物調査委員会, 植物部会長.

南種子博物館建設委員会, 委員.

南種子町博物館建設プロポーザル委員会, 委員長.

守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会, 委員.

滋賀県 COP10 委員会, 委員.

水源の里まいばら元気みらいづくり小冊子作成委員会, 委員長.

関西自然保護機構, 運営委員.

滋賀県立平和祈念館検討委員会, 委員.

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。

2009年度は、総合地球環境学研究所:プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(代表者: 内山純蔵)のコアメンバーとして、琵琶湖ワーキンググループ、中国ワーキンググループで主に新石器化の景観形成史について研究を進めた。さらに、文科省科研費「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」(代表者: 中村慎一)に加わり田螺山遺跡のコイ科魚類咽頭歯遺体の分析を行った。これらの研究プロジェクトで、長江流域の新石器時代遺跡から出土する咽頭歯遺体の調査を実施し、日本語版と中国版の報告書を執筆した。また、中国社会科学院考古学研究所との共同研究で、河南省の贾湖遺跡、広西省の顶蛳山貝塚などの咽頭歯遺体の調査を実施した。

印刷物

【学術論文】

- 中島経夫 (2009) コイ科魚類の咽頭歯と考古学—フナやコイを対象とする縄文・弥生時代の淡水漁撈. *考古学研究*, 56(1) : 56-66.
- Nakajima, T., Nakajima, M., and Yamazaki, T. (2010) Evidence for fish cultivation during the Yayoi Period in western Japan. *Int. J. Osteoarchaeology*, 20 : 127-134.
- 中島経夫・中島美智代・孫国平・中村慎一 (2010) K3 魚骨ピット中のコイ科魚類咽頭歯. 中村慎一 編, *浙江省余姚田螺山遺跡の学際的総合研究(2006~2009年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究報告書)*:125-143.

【一般向けの著作】

- 中島経夫 (2009) 歯はすぐれもの. *おりずる*, 74, 財団法人おりずる会 : 6.
- 中島経夫 (2009) 「魚の歯から見える世界」と「はしかげさん」. *うみっこ通信*, 2, 琵琶湖博物館 : 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中島経夫 (2009年7月24日) 咽頭歯遺存体から見える東アジア稲作地帯の新石器時代における景観. 総合地球環境学研究所プロジェクトNEOMAP 景観セミナー, 大谷会館(京都市), [口頭発表].
- 中島経夫 (2009年12月4日) 遺跡出土の咽頭歯からわかったこと. 琵琶湖博物館領域会議, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中島経夫 (2010年3月11日) コイ科魚類の咽頭歯: 咽頭歯からどんなことが言えるのか. 滋賀県水産試験場勉強会, 滋賀県水産試験場(彦根市), [口頭発表].
- Nakajima, T. (2010年3月16日) The Landscape of Marshy and Shoreline Eco-tone from the Yantze River Basin to the Western Japan during the Neolithic Age. Landscape Workshop of Neolithisation and Modernisation : Landscape History on East Asian Inland Seas, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto [口頭発表].

中島経夫（2010年2月19日）咽頭歯からわかること．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「コイ科魚類咽頭歯の研究」，（2009年度）．

総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：文化的景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵），コアメンバー（2005～2011年度）．

文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)(海外)「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」（研究代表者：中村慎一），研究協力者（2007～2009年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ制度，担当．

2009年11月12日，琵琶湖の魚たちのおいたち：魚と人のかかわりの歴史，指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講演．

2010年3月13日，コイ・フナを利用した文化を探る，新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』，琵琶湖博物館，講演．

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月25日，琵琶湖の魚類相について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講師．

2009年6月26日，咽頭歯遺存体から見える東アジア稲作地帯の新石器時代における景観，滋賀県総合教育センター，教育研修，琵琶湖博物館，講演．

2009年8月8日，魚からみた環境，吹田市立博物館，シンポジウム「吹田の自然物語」，吹田市立博物館（吹田市），講演．

2009年8月26日，琵琶湖の環境，仏教スカウトベンチャーフォーラム，比叡山ホテル（大津市），講演．

2009年9月5日，琵琶湖博物館うおの会について，生物多様性シンポジウム「地球の命 つないでいこう」 in 四日市，四日市，講演．

2009年9月26日，琵琶湖の魚類相について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講師．

2010年1月14日，琵琶湖博物館はしかけ制度とうおの会，岐阜県ネイチャーセンター，生涯学習研修会，岐阜県森林文化アカデミー（美濃市），講演．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館うおの会ウェブサイトの更新，管理．

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館魚類標本の登録（登録件数：1,882点），管理（52,670点）．

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年10月15日～22日，中華人民共和国北京市中国社会科学院考古学研究所，中国新石器時代遺跡から出土する

咽頭歯遺体の調査.

上席総括学芸員

研究部生態系研究担当

研究関連のうち論文関係では、これまでに自分自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく共同研究者とともに執筆活動を進めてきた。その結果、2009年度には論文2編が公表され、現在、論文3編が再校閲稿中である。水田の総合研究では、これまでに得られた成果の一部を日本生態学大会（2010年3月16～18日；東京大学）において企画集会：「普通種がいなくなるときの水田地帯の生物多様性」の中で「琵琶湖周辺の水田地帯（水路・水田）が魚類群集の保全に果たす役割」（口頭発表）や「琵琶湖周辺の水田地帯に遡上する魚類の日周変化」（ポスター発表）等で公開・発表した。

事業関連では、当館主催事業として「新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』」（2009年12月～2010年3月）を企画し、県内試験研究機関の協力を得て実施した。さらに、大学、企業、その他さまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の現在の由々しき実態と外来種（魚類）の生態系へ及ぼす影響、今後のヒトと自然の望ましいあり方について解説してきた。また、琵琶湖流域における「湖と人間」の関係、足跡を世界に紹介する英語単行本の発刊に向け、企画プロジェクトを琵琶湖環境科学研究センター等と連携して立ち上げ、現在、進行中である。また、「新たな交流の方向性」のまとめ担当として、当館の中長期計画である「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するための既存交流事業を展開するための方策を取りまとめた。

印刷物

【学術論文】

- 金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・沢田裕一（2009）ニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の初期成長の場としての水田の有効性. *日本水産学会誌*, 75 : 191-197.
- Yamazaki, M., Ohtsuka, T., Kusuoka, Y., Maehata, M., Obayashi, H., Imai, K., Shibahara, F. and Kimura, M. (2010) The impact of nigorobuna crucian carp larvae/fry stocking and rice-straw application on the community structure of aquatic organisms in Japanese rice fields. *Fishery Science*, 76 : 207-217.

【一般向けの著作】

- 前畑政善（2009）湖岸より3 余呉湖にも、うまい魚. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年4月18日.
- 前畑政善（2009）湖岸より7 環境に「優しい」でいいのか. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年5月16日.
- 前畑政善（2009）湖岸より11 水田は魚のゆりかご. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年6月13日.
- 前畑政善（2009）湖岸より15 外来生物に思うこと. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年7月11日.
- 前畑政善（2009）湖岸より19 道路にいた小鳥のヒナ. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年8月8日.
- 前畑政善（2009）湖岸より23 不思議な小アユの生態. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年9月5日.
- 前畑政善（2009）湖岸より27 生き物のにぎわい取り戻せ. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年10月3日.
- 前畑政善（2009）湖岸より31 琵琶湖の珍味 ビワマス. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年10月31日.
- 前畑政善（2010）田んぼへやってくる魚たちと“フィールドレポーター”. *うみっこ通信*, 3, 琵琶湖博物館：1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Hata, H., Nakajima, M., Takeuchi, Y., Yasugi, M., Asiwa, H., Nakae, M., Yamaoka, K., Kohda, M., Kitamura, J., Takahashi, S., Maehata, M. and Hori, M. (2009年5月31日～6月2日) Laterality of fish: its universality, secretion and origin. インド太平洋魚類学会議, オーストラリア, [ポスター発表].
- Kawanabe, H., Nishino, M. and Maehata, M. (2009年9月10日) Effects of land-water ecotone degradation on biological diversity in Lake Biwa and its conservation/restoration movements and plans by people and local government. The 5th International Society of Speciation in Ancient Lakes, Ohrid (Macedonia), [招待講演・口頭発表].
- 前畑政善 (2009年9月20日) マザーレーク 21 計画の見直しと新計画の方向性について. 滋賀大学環境総合センターシンポジウム, 滋賀大学流域政策研究フォーラム, 草津まちづくりセンター (草津市), [パネリスト].
- 鈴木規慈・畠山絵美・高久宏佑・原田泰志・前畑政善 (2009年10月10日) ため池のカワバタモロコ局所個体群間における生活史変異. 日本魚類学会, 東京海洋大学, [口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・沢田裕一 (2009年10月10・12日) 琵琶湖東部のエリ漁で採集される魚類群集の季節変化. 日本魚類学会, 東京海洋大学, [口頭発表].
- 金尾滋史・舟尾俊範・田和康太・前畑政善・沢田裕一 (2010年3月16～18日) 琵琶湖周辺の水田地帯に遡上する魚類の日周変化. 日本生態学会第57大会, 東京大学, [ポスター発表].
- 前畑政善・金尾滋史・水野敏明・大塚泰介 (2010年3月18日) 琵琶湖周辺の水田地帯 (水路・水田) が魚類群集の保全に果たす役割. 日本生態学会第57大会, 企画集会「普通種がいなくなるときの水田地帯の生物多様性」, 東京大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水田地帯、内湖の魚類の生態」, (2009年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善), 総括・魚類調査 (2007～2011年度).
- 農林水産省 平成21年度「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」 「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稲栽培技術の開発研究」(研究代表者:藤岡康弘), 研究担当者 (2009～2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本魚類学会, 自然保護委員会委員, 2001年6月～.
- 淡水魚保全研究会, 常任理事, 2004年10月～.
- Zoology, 査読, 2件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2009年4月1日～2010年3月31日, 金尾滋史 (滋賀県立大学大学院博士過程), 学位論文指導.
- 2009年4月1日～2010年3月31日, 鈴木規慈 (三重大学大学院博士過程), 論文等指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館水族展示室, 10件.

フィールドレポーター制度，副担当。

2009年4月19日，“飼育の日”水族展示バックヤードミニツアー，琵琶湖博物館水族展示，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月6日，ザリガニの飼い方，生き物飼い方講座，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月25日，琵琶湖の魚と環境・水族展示バックヤード案内，滋賀県立大学環境科学部，琵琶湖博物館，講師。

2009年6月2日，琵琶湖の博物館の概要説明，神姫観光，琵琶湖博物館，講師。

2009年6月26日，琵琶湖の博物館の概要説明，盆栽クラブ，琵琶湖博物館，講師。

2009年7月1日，琵琶湖の魚と環境，武庫川女子中学校，琵琶湖博物館，講師。

2009年7月11日，学芸員の仕事，琵琶湖博物館の特徴など，大阪成蹊大学，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月4日，琵琶湖の魚一魚から環境を考える，日野町教育委員会，琵琶湖博物館，講師。

2009年7月20・21・23日，淡水魚入門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大阪NPOプラザ（大阪市），講師，3件。

2009年8月3・5・26日，淡水魚入門講座 野外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大戸川（大津市），講師。

2009年9月3日，琵琶湖の環境と魚一魚から環境を考える，立命館大学，立命館大学（草津市），講師。

2009年9月6日，琵琶湖生態系の変化について一魚から環境を考える，滋賀県青少年団体連絡協議会，琵琶湖博物館，講師。

2009年9月13日，琵琶湖博物館の理念と展示、交流活動について，南山大学人文学部，琵琶湖博物館，講師。

2009年10月16日，博物館の理念、およびガイドンス，関西電力本店お客様サービスセンター，琵琶湖博物館，講師。

2009年11月5日，琵琶湖の生態系の変化一魚から環境を考える，都道府県指定都市教育センター所長協議会，琵琶湖博物館，講師。

2009年11月7日，琵琶湖の魚や生きものについての話，市民生活共同組合ならコープ せいきょう子ども新聞「にじのはし」，琵琶湖博物館，講師。

2009年11月26日，魚はなぜ田んぼをめざすのか，平成21年度農村環境技術者研修 農村自然再生活動地方研修会，（社）農村環境整備センター，ホテルニューオウミ（近江八幡市），講師。

2010年1月24日，魚と環境、琵琶湖総合保全，アサヒスーパードライはうまい，アサヒビール滋賀支社，琵琶湖博物館，講師。

2010年2月11日，琵琶湖博物館の理念と運営について，京都文教大学，琵琶湖博物館，講師。

2010年3月24日，琵琶湖の魚と環境，東海シニア自然大学，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2009年4月10日，琵琶湖博物館の概要説明，観音寺市議会議員，琵琶湖博物館。

2009年5月29日，琵琶湖博物館の概要説明，全国都市教育長協議会，琵琶湖博物館。

2009年6月7日，琵琶湖博物館の展示説明，岡山針科学研究所，琵琶湖博物館。

2009年8月4日，琵琶湖博物館の交流活動説明，京都文教大学，琵琶湖博物館。

2009年10月25日，琵琶湖の環境保全への取り組み，法政大学キャリアデザイン学部・日本国際湿地保全連合・東京農業大学，琵琶湖博物館。

2009年11月6日，琵琶湖博物館の概要、琵琶湖の環境保全への取り組み説明，韓国国会議員環境視察，琵琶湖博物館。

2010年1月6日，琵琶湖博物館の「はしかけ」制度について解説，岐阜県立森林文化アカデミー，琵琶湖博物館。

2010年3月4日，琵琶湖博物館の運営と概要について解説，京都市内博物館施設連絡会・京都市教育委員会，琵琶湖博物館。

湖博物館.

メディアへの協力

2009年7月28日, 京都新聞, 「魚のゆりかご水田」について取材, (2009年7月10日取材).

2009年8月3日, 朝日放送テレビ, オオクチバス(水族展示室)の撮影, (2009年7月27日取材).

2009年11月27日, FM滋賀, 「SAVE THE GREEN! エコネット」への電話, 生出演.

2010年3月22日, 関西テレビ, 「淀川 2009-2010 ～知られざる生命(いのち)の営み～」の監修, (2010年3月10日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育委託業務の管理.

タイリクバラタナゴ活魚約200個体(水族展示用), 収集.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

C展示室繁忙期対応, 3件.

水族企画展「バックボーンをができるまで」, ビデオ展示協力.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 水族展示の紹介, 講師, 2009年4月15日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究部代表者会議, 委員, 2009年4月1日～2010年3月31日.

市民公開講座「新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』」, 企画実施世話人, 2009年4月～2010年3月.

英語本「Lake Biwa - relationship between human and nature」(仮)編集委員会, 主担当, 2009年4月～2010年3月.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年4月1日～2010年3月31日, 琵琶湖博物館広報交流サービス事業「新たな交流のあり方検討委員会」, 主担当.

2009年4月1日～2010年3月31日, 滋賀県試験研究機関連絡会議, 幹事.

【館外の活動】

2003年11月～, 大津市立逢坂小学校, 逢坂小学校エコスクール委員会, 委員.

2006年7月～, 草津市立笠縫東小学校, 笠縫東小学校エコスクール支援委員会, 委員.

2002年9月～, 滋賀県農政水産部農村振興課, みずすまし専門部会(生態系保全専門部会), 部会員.

2000年5月～, 滋賀県琵琶湖環境部, 自然環境保全課滋賀県生きもの総合調査委員会, 委員(魚貝類部会長).

2003年5月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 移入種問題検討委員会, 委員(水生生態系部会部会長).

2008年6月～2010年6月, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 指定希少野生動物種および指定外来種に関する選

定専門委員.

2007年6月～, 滋賀県農政水産部農村振興課, 農村まるごと保全推進委員会, 委員.

2009年8月1日～2011年7月31日, 琵琶湖総合保全学術委員会, 委員.

2008年2月～, ゆりかご水田ネットワーク顧問.

2003年5月～, (社)日本動物園水族館協会, 種保存委員会(技術部会 人工繁殖技術検討委員会), 委員.

2007年7月～, 農村整備センター, 水口頭首工(野洲川)改良工事にともなう稀少種・ハリヨの保全に関するアドバイザー.

2007年8月～2009年8月, 琵琶湖総合保全学術委員会, 委員.

2003年8月～, 国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所, 環境アドバイザー.

2004年4月～, 国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所, 丹生ダム環境保全対策懇談会, 委員.

2008年5月～, 国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所, 琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度, 委員.

2009年7月1日～2012年6月30日, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2007年6月～, 環境省自然環境局, 絶滅のおそれのある動植物種の生息域外保全計画動物分科会, 検討員.

2004年8月～, 環境省自然環境局, 絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会, 検討員(淡水魚類作業部会).

上席総括学芸員

研究部長

研究部博物館学研究担当

琵琶湖博物館では、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓と中世山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的研究や琵琶湖特別民俗調査の成果である民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究を中心的な研究テーマにしている。2009年度は、特に湖底遺跡や湖上交通および山岳寺院の調査・研究成果をとりまとめて、『湖と山をめぐる考古学』と題する本を2009年9月に刊行した。

これは、これまでの古墳時代を除く考古学的なテーマに沿った論文集であり、4編の論文を新たに書き下ろし、全22編からなる。その他、中日新聞の連載コラム『湖岸より』のとりまとめを行い、13回にわたって執筆も担当した。また、10数年間にわたって整理調査作業を行った琵琶湖博物館民具資料を用いた科学研究費補助金事業による方法論開発研究も、2年目の調査研究が継続中である。

その他、中国・福建省の客家土楼群、中国・江蘇省太湖周辺、台湾・中部、北海道利尻・礼文島などでの博物館や遺跡の調査を行い、金山城跡や荒神山古墳の調査指導委員会等にも参画した。

研究部長としては、科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に取り組み、全申請書類に目を通して修正事項を指摘するなどしながら採択率の向上にも努め、また今後の博物館における研究の方向についての具体的方策を年度末にまとめた。一方で、滋賀県環境科学研究センター、滋賀県立大学との機能統合、あるいは統合的研究の推進協議・検討を行ってきた。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2009）湖と山をめぐる考古学。サンライズ出版：448p.

【専門分野の著作】

用田政晴（2009）琵琶湖博物館における技術と民具の保存・継承。日本民具学会第34回大会研究発表要旨集：12-13.

用田政晴（2009）私たちは考古学界のリーダー・近藤義郎先生を失う。日本考古学協会会報，168：52.

【一般向けの著作】

用田政晴（2009）湖岸より1 思い出ひとつ旅立ちの時。中日新聞，中日新聞社：2009年4月4日.

用田政晴（2009）湖岸より5 実物資料は雄弁に語る。中日新聞，中日新聞社：2009年5月2日.

用田政晴（2009）湖岸より9 師の研究姿勢に感銘。中日新聞，中日新聞社：2009年5月30日.

用田政晴（2009）湖岸より13 今も生きる帆布の技。中日新聞，中日新聞社：2009年6月27日.

用田政晴（2009）湖岸より17 時代を超えた共通項。中日新聞，中日新聞社：2009年7月25日.

用田政晴（2009）湖岸より21 住職が船奉行を務めた寺。中日新聞，中日新聞社：2009年8月22日.

用田政晴（2009）湖岸より25 この夏も想う戦争の傷。中日新聞，中日新聞社：2009年9月19日.

用田政晴（2009）湖岸より29 日本の国境と時代区分。中日新聞，中日新聞社：2009年10月17日.

用田政晴（2009）湖岸より33 リーダーを失い戸惑う。中日新聞，中日新聞社：2009年11月14日.

用田政晴（2009）湖岸より37 博物館のあるべき姿。中日新聞，中日新聞社：2009年12月12日.

用田政晴（2010）湖岸より41 学芸員の理想と博物館の現実。中日新聞，中日新聞社：2010年1月16日.

用田政晴（2010）湖岸より45 琵琶湖の祖型 中国「太湖」。中日新聞，中日新聞社：2010年2月13日.

用田政晴 (2010) 湖岸より 49 館外での技術保存と継承. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010 年 3 月 13 日.

用田政晴 (2010) 「近江ことば いまむかし」に思う. *フィールドレポーター掲示板*, 58, 琵琶湖博物館: 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴 (2009 年 8 月 21 日) 古墳とは何かー近江における古墳研究の前提ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

用田政晴 (2009 年 11 月 28 日) 王の湖・武士の湖. 第 93 回滋賀県埋蔵文化財センター研究会・講演会, コラボしが 21 (大津市), [口頭発表].

用田政晴 (2009 年 12 月 5 日) 琵琶湖博物館における技術と民具の保存・継承. 日本民具学会第 34 回大会基調報告, 京都造形芸術大学 (京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「湖と山をめぐる考古学」, (2009 年度).

日本学術振興会科学研究費補助金事業「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」(研究代表者: 用田政晴), 研究代表者 (2009 年度).

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」(研究代表者: 用田政晴), (2009 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009 年度前期, 滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科, 「日本考古学」.

2009 年 5 月 31 日, 京都造形芸術大学, 「博物館学」.

2009 年 7 月 3 日, 同志社大学, 「文化政策論」.

2009 年 9 月 18 日, 関西大学, 「博物館学」.

2009 年 12 月 8 日, 愛知学院大学, 「博物館学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12 件.

2009 年 8 月 1 日, 研究とは, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2009 年 10 月 24 日, 古い民家のおけ風呂を見にいこう, 琵琶湖博物館見学会, 彦根市肥田町.

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 7 月 21 日, 博物館のつくられかた, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講義.

2010 年 3 月 13 日, 琵琶湖をめぐる古墳と古墳群, 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講演.

視察対応

2009年11月25日，資料調査，ロシア・ハバロフスク郷土史博物館，琵琶湖博物館。

2010年1月30日，展示案内，いちょう会，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸員個人ページ（用田政晴），管理・運営，更新多数。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民具資料整備，写真撮影・編集。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年度，琵琶湖博物館常設展示（B展示室）維持管理，担当。

2009年10月26日，展示交流員研修「安土城・瓢箪山古墳・大中ノ湖南遺跡」，安土町。

【企画調整活動】

新任職員等研修，研究活動について・B展示室，講師，2009年4月14・15日，琵琶湖博物館，2件。

JICA 博物館学集中コース，博物館案内・研究部の概要説明，講師，2009年10月13日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理，2009年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年5月25日～29日，中国 福建省，博物館・遺跡・民俗調査。

2009年7月22日～25日，台湾，博物館・民俗調査。

2009年11月5日～10日，中国 江蘇省，博物館・遺跡・民俗調査。

【館外の活動】

2009年度，金山城跡調査指導委員会，委員長。

2009年度，安土城考古博物館展示企画委員会，委員。

2009年度，荒神山古墳調査検討委員会，委員。

総括学芸員

研究部環境史研究担当

(兼) 事業部長

本年度は、7月から11月の間開催された第17回企画展示の準備、開催中の運営、終了後の片づけなどに多くの時間を割いたが、入場者数は7万人を超え、これまでの企画展示では2番目に多い数となった。企画段階から博物館職員以外の人といっしょに企画してきたことが功を奏したと思われる。このほか、毎月の特別講演会の準備と運営にも力を注いだ。この講演会では、これまで琵琶湖博物館では取り上げてこなかったようなテーマが多く、新しい琵琶湖博物館の利用者を開拓できたと思われる。さらに、1月にはギャラリー展示「古生物の復元—科学と芸術の出会い—」を企画・開催した。

研究面では、本年度より科学研究費補助金基盤(C)「日本列島におけるヒト出現期の人間—環境系復元」が採択され3年間の研究がはじまった。これに加え、琵琶湖博物館の共同研究2件と専門研究を行った。総合地球環境学研究所プロジェクト研究「日本列島における人間—自然相互関係の歴史的・文化的検討」の一環として2007年と2008年に調査を行った北海道におけるナウマンゾウ化石産出地の調査報告を編集し、出版することができた。しかし、学術論文はこの報告書に掲載した論文のみであり、来年度以降は研究面においても実績をあげる必要がある。

印刷物

【学術論文】

高橋啓一（2009）ナウマンゾウ産状の再検討. *化石研究会会誌特別号*, 4, 化石研究会：71-75.

【一般向けの著作】

高橋啓一（2009）湖国の化石を訪ねる 21 誕生したころの琵琶湖. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社：2009年4月8日.

高橋啓一（2009）湖岸より 2 多種多様な学芸員の仕事. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年4月11日.

高橋啓一（2009）湖国の化石を訪ねる 22 日本で進化アケボノゾウ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社：2009年4月15日.

高橋啓一（2009）湖国の化石を訪ねる 23 マンモスと同じグループ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社：2009年4月22日.

高橋啓一（2009）湖国の化石を訪ねる 24 龍骨と呼ばれたゾウ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社：2009年4月29日.

高橋啓一（2009）湖岸より 6 視点を変え視野を広げる. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年5月9日.

高橋啓一（2009）湖国の化石を訪ねる 21 ツノ先が三つ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社：2009年5月20日.

高橋啓一（2009）湖岸より 10 耳の穴はリサイクル!?. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年6月6日.

高橋啓一（2009）湖岸より 14 非常識な古生物学の世界. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年7月4日.

高橋啓一・山中裕子（2009）第17回企画展示解説書「骨の記憶 - あなたにきざまれた五億年の時-」. 琵琶湖博物館：61p.

高橋啓一（2009）湖岸より 18 太古の命をはぐくんだ湖. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年8月1日.

高橋啓一（2009）湖岸より 22 180万年変わらぬ環境. *中日新聞*, 中日新聞社：2009年8月30日.

- 高橋啓一 (2009) 湖岸より 26 地形観察に好適な湖西. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年9月26日.
- 高橋啓一 (2009) 湖岸より 30 日本人の祖先の生活環境は. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年10月24日.
- 高橋啓一 (2009) 湖岸より 34 理屈は不要, 楽しんで. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年11月21日.
- 高橋啓一 (2009) 湖国の化石を訪ねる 52 化石を楽しむ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年12月16日.
- 高橋啓一 (2009) 湖岸より 38 「君が代」と「さざれ石」. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年12月19日.
- 高橋啓一 (2009) 湖岸より 42 トラが残してくれたもの. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年1月23日.
- 高橋啓一 (2010) 湖岸より 46 博物館を支える大きな力. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年2月20日.
- 高橋啓一 (2010) 湖岸より 50 “夢の大地” 展示会へどうぞ. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年3月20日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 北川博道・瀬戸浩二・高橋啓一 (2009年6月29日) ナウマンゾウ化石の¹⁴C年代とその課題. 日本古生物学会 2009年年会, 千葉大学 (千葉県), [口頭発表].
- 高橋啓一 (2009年9月18日) 古琵琶湖層から発見された脊椎動物化石の意義と課題. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け」, (2009年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者 (2007~2009年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖周辺のポーリングコアから見た琵琶湖の成立」(研究代表者: 井内美郎), 共同研究者 (2008~2010年度).
- 文部科学省科学研究費補助金基盤(C)「日本列島におけるヒト出現期の人間-環境系復元」(研究代表者: 高橋啓一), 研究代表者 (2009~2011年度).
- 総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討」(研究代表者: 湯本貴和), プロジェクトメンバー (2006~2010年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会, 評議員, 2007年8月~2011年7月.
- 日本第四紀学会, 博物館連絡委員, 2007年8月~2009年8月.
- 日本第四紀学会, 論文賞・奨励賞受賞者候補者選考委員, 2010年2月1日~2010年7月31日.
- 化石研究会, 事務局長, 2003年6月~.
- 化石研究会誌特別号4号, 査読および編集.
- 地質学雑誌掲載論文の査読, 1件.
- 国際第四紀学連合 INQUA 小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」(代表: 小野 昭), (2007年度~).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12 件。

ほねほねくらぶ，はしかけ制度，担当。

2009 年 4 月～12 月，琵琶湖博物館特別講演会，琵琶湖博物館，運営，12 件。

2009 年 7 月 26 日，夏休み自由研究講座，博物館講座，琵琶湖博物館，運営。

2009 年 8 月 1 日，琵琶湖博物館の事業について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 10 月 4 日，観察会，化石の観察会，三重県伊賀市，案内。

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 6 月 13 日・14 日，化石研究会総会・学術大会，鶴見大学，運営。

2009 年 7 月 30 日，琵琶湖の歴史，滋賀県立膳所高等学校，スーパー・サイエンス・ハイスクール，琵琶湖博物館，講義。

2009 年 8 月 3 日，古琵琶湖の化石が教える地球のリズム，職員教養研修，草津税務署，講師。

2009 年 8 月 4 日，古琵琶湖の化石が教える地球のリズム，滋賀県総合教育センター，理科教育講座，講師。

2009 年 8 月 5 日，第 17 回企画展示解説，第 33 回自然調査ゼミナール，第 33 回自然調査ゼミナール事務局，講師。

2009 年 8 月 15 日，化石のレプリカ作り体験学習，プリンスホテル，講師。

2009 年 8 月 23 日，第 68 回特別展関連特別講演会，福井市自然史博物館，講師。

2009 年 8 月 28 日～31 日，日本第四紀学会 2009 年大会，琵琶湖博物館，運営。

2009 年 9 月 13 日，特別展関連講演会，北海道開拓記念館，講師。

2009 年 10 月 1 日，第 17 回企画展示説明，志津南小学校，講師。

2009 年 10 月 5 日，第 17 回企画展示解説，JICA 研修，講師。

2009 年 11 月 14 日，問題解決へのアプローチの方法，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講義。

2009 年 11 月 21 日，大地・環境学習，甲賀市立甲西北中学校，講師。

2010 年 1 月 29 日～31 日，日本古生物学会第 159 回例会，琵琶湖博物館，運営。

視察対応

2009 年 8 月 6 日，琵琶湖博物館の展示説明，高松宮妃殿下。

2009 年 8 月 26 日，琵琶湖博物館の説明，東北学院大学。

2009 年 9 月 27 日，琵琶湖博物館の説明，京都女子大学文学部国文学科 4 回生。

2009 年 10 月 18 日，第 17 回企画展示説明，嘉田知事。

2009 年 11 月 18 日，琵琶湖博物館の説明，甲良西小学校 PTA 尼子支部。

メディアへの協力

2009 年 6 月 18 日，十勝毎日，ナウマンの足跡と確定，インタビュー（2009 年 6 月 17 日取材）。

2009 年 7 月 10 日，KBS「知っとこ滋賀」第 17 回企画展示について，インタビュー（2009 年 7 月 10 日生放送）。

2009 年 7 月 18 日，京都新聞，骨でたどる生物の進化，インタビュー（2009 年 7 月 17 日取材）。

2009 年 7 月 31 日，フジテレビ「とくダネ！プレミアム」第 17 回企画展示について，インタビュー（2009 年 7 月 30 日取材）。

2009 年 8 月 6 日，J-TV，第 17 回企画展示について，説明。（2009 年 8 月 5 日取材）。

2009 年 8 月 15 日，讀賣新聞，市民研究家が「懸け橋」，インタビュー（2009 年 8 月 2 日取材）。

2010 年 1 月 10 日，京都新聞，古代生物に興味津々，インタビュー（2009 年 1 月 9 日取材）。

2010 年 1 月 26 日，京都新聞，アケボノゾウ研究に触れて，インタビュー（2009 年 1 月 26 日取材）。

2010 年 3 月 26 日，NHK ハイビジョン特集 世紀の大発見 謎の小型人類 ～もうひとつの“指輪物語” ，資料提供（2010 年 3 月 14 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開，担当.
哺乳類標本データベース公開，担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石資料，受入・貸出.
脊椎動物資料，受入・貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.
2009年7月18日～11月23日，第17回企画展示，展示制作・運営.
2009年7月～11月，イオンモール，企画展示紹介，展示制作.
2010年1月3日～1月31日，ギャラリー展示，制作・運営.

【企画調整活動】

新任職員等研修，博物館について・A展示室紹介，講師，2件，2009年4月14・15日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年～，図書選定委員.

【館外の活動】

2007年～2010年，The Vth International Conference on Mammoths, Scientific Committee.
2009年，三重県立博物館御弊川ミエゾウ足跡化石調査委員.
2009年7月28日～2012年3月31日，滋賀県立大学環境人材育成プログラム開発・実証委員会委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元とその年代」と、共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」を軸に、野外調査と化石同定、データ解析から論文作成等の研究活動を行ってきた。また、そのほか下記のような研究も進めてきた。

1. 中部中新統二上層群産植物化石群の組成（共同研究者：石田志朗）

中新統二上層群は火山噴出物からなる陸成層で、瀬戸内区で最も年代が新しいとされる。本調査地域の二上層群は、厚さ約250mの凝灰岩・火砕岩、礫岩、砂岩、泥岩などで構成され、下位の屯鶴峯火砕岩と上位の香芝累層に分かれる。植物化石の包含層は、香芝累層のうち香芝泥岩層と香芝凝灰岩層で、それらに介在する十丈坊火山灰のフィッシュン・トラック (F.T) 年代が、それぞれ14.5±9 Ma、13.9±7 Maであることから、植物化石群の年代は約14 Maと考えられる。今回産出した植物化石のほとんどが印象化石であり、白色細粒の凝灰岩層中に巻き込まれた状態で散在していた。香芝凝灰岩から産した植物化石から、単子葉植物、シダ植物1種、針葉樹2科2属2種、広葉樹3科4属7種を確認した。主な植物化石は、*Taiwania*、*Calocedrus*、*Castanopsis*、*Cyclobalanopsis*、*Sycopaia*であり、日本の中新世前期～中期の台島型化石植物群である能登の狼煙フローラの構成種に類似する。台島型化石植物群の特徴種である*Liquidambar* や*Comptonia* は産出していない。中期中新世（16～12 Ma）の時代では、酸素同位体比曲線から14.5～14 Maにかけて気候が寒冷化する傾向が見られるが、今回の二上層群の植物化石は、全縁葉の葉が多産し、ヘラシダやシイ、アカガシ亜属など温暖な地方に生育する植物が含まれ、寒冷な要素は見られなかった。

2. 鮮新統古琵琶湖層群上野層および伊賀層の材化石群集

古琵琶湖層群上野層・伊賀層において、材化石を中心とした大型植物化石組成を明らかにした。上野層上部は塊状無葉理の泥層やシルト層が堆積する湖沼・湿地に堆積したもので、伊賀層下部は細粒砂とシルトの互層からなるトラフ型斜交層理やリップルが見られる河川の堆積物であり、次第に水深の浅い湖沼が存在する環境へ変化すると推定した。上野層上部から産出した材化石は、針葉樹類では2科1属2タイプで、マツ科トウヒ属、ヒノキ科スギ型タイプ、ヒノキ型タイプである。被子植物は1科1属で、カバノキ科ハンノキ属である。伊賀層下部からは、針葉樹類はマツ科モミ属、トウヒ属、ヒノキ科スギ型タイプ、ヒノキ型タイプである。被子植物は4科3属で、ツゲ科ツゲ属、マンサク科、ニレ科ケヤキ属、カバノキ科ハンノキ属である。伊賀層では材化石以外にI-12、I-13層準にヒシ属の果実が密集して産出し、ハス科の地下茎の化石が産出した。伊賀層下部の堆積時には、水生植物が生育するような止水域が存在したと考えられ、堆積環境と化石から推定した古環境は矛盾しない。

印刷物

【学術論文】

山川千代美 (2010) 北海道忠類晩成のナウマンゾウ化石産地から産出した大型植物化石. 化石研究会会誌特別号, 4, 化石研究会: 63-69.

【専門分野の著作】

山川千代美・飯住達也・大依久人 (2010) 「滋賀県立琵琶湖博物館—『湖と人間』をテーマに、体験しながらともに

考え、成長する博物館―」行ってみよう科学探検. *理科教室*, 663 (53), 科学教育研究協議会 編, 日本標準刊: 62-63.

【一般向けの著作】

- 山川千代美 (2009) 琵琶湖なしでは、生きられない! [第2話]. *poplead*, 18, 株式会社エヌイーエフ: 32.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 34 サイクロカリアの果実. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年7月23日.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 35 寒冷気候の指標. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年7月29日.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 36 シリプトビシ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年8月5日.
- 裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・中島経夫・里口保文 編 (2009) *うみっこ通信*. 2, 琵琶湖博物館: 4p.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 49 木の幹の化石. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年11月25日.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 50 コンプトニアの葉. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年12月2日.
- 山川千代美 (2009) 湖国の化石を訪ねる 51 マツボックリ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社: 2009年12月9日.
- 裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・前畑政善・ロビン・ジェームズ・スミス 編 (2010) *うみっこ通信*. 3, 琵琶湖博物館: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 山川千代美・石田志朗 (2008年6月27日) 中部中新統二上層群産植物化石群. 日本古生物学会 2009年年会・総会, 日本古生物学会, 千葉大学, [ポスター発表].
- Matsumoto, M., Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., (2009年9月12・13日) Anatomical study and paleovegetation of a fossil forest composed of *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene, Kobiwako Group, central Japan. International Symposium on Paleontology in Chaoyang, China, The organizing Committee of the Symposium on Paleontology in Chaoyang, China, [ポスター発表].
- 山川千代美・南澤 修・松本みどり・百原 新 (2009年7月17日) 古琵琶湖層群畑層から産出した大型植物化石からみた古環境. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 山川千代美・百原 新・布谷知夫・松本みどり・綿野泰行 (2010年1月31日) 古琵琶湖層群の更新統産化石林に基づくスイショウ属とメタセコイア属の湿地林. 日本古生物学会第59回例会, 日本古生物学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「後期鮮新世の湿地林におけるメタセコイアとスイショウの関係」, (2009年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」(研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者 (2007~2010年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖北西地域安曇川河床の化石林の古植生復元とその年代」(研究代表者: 山川千代美), 研究代表者 (2009年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会 2009年大会, 実行委員・巡検係, 2009年8月29日~8月31日.
- 日本古生物学会第59回例会, 大会実行委員, 2010年1月29日~1月31日.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

千葉大学理学研究科・地球生命圏科学専攻・地球科学コース（若山雄之介），卒業論文指導「現生ヒシ属果実の分類の再検討および化石ヒシ属果実の研究」。

【受賞など】

日本古生物学会平成 20 年度論文賞，2009 年 6 月 26 日，「Paleovegetation reconstruction of fossil forest dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene Kobiwako Group, central Japan.」
(Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., Matsumoto, M., and Watano, Y.).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館 A 展示室，10 件。

2009 年 8 月 6 日，琵琶湖博物館の広報戦略，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 10 月 4 日，化石観察会，観察会，三重県伊賀市出後の服部川河床，担当。

2010 年 2 月 14 日，地学研究発表会，研究交流，滋賀大学サテライト，担当。

他の博物館・機関等主催事業

2009 年 8 月 4 日，日野町の地質と化石，日野町教職員夏季研修会，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 8 月 11 日，琵琶湖の生き立ちと湖周辺の植物，平成 21 年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

NHK・びわ湖放送，生中継等，受入れ・調整，2 件。

雑誌掲載対応，110 件。

FM 滋賀「滋賀プラスワンインフォメーション」，2 件。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館インターネットページへの情報提供・更新。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

芦辺層群産植物化石標本，同定。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「古生物の復元－科学と芸術が会うところ－」，担当。

【企画調整活動】

事業に関する資料提供・記者発表，64 件。

琵琶湖博物館カレンダー付き魚ポスター、チラシの作成，

県内旅館・ホテル等への広報活動チラシ・ポスター配布，2件.

京都駅前観光キャンペーンの参加，2件.

‘09 ベースボールクリスマス in 立命館大学くさつキャンパスでの広報活動参加，2009年12月.

【研究部関連事業】

研究成果・研究部関連事業等の記者発表，8件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年度，琵琶湖博物館子ども向け情報誌，編集委員.

2009年度，広報戦略会議，メンバー.

【館外の活動】

2009年4月～2010年3月，大津市科学館運営協議会，委員.

専門学芸員

研究部環境史研究担当サブグループリーダー

(兼) 総務部企画調整課

日本における鮮新-更新世の堆積層を対象に、挟在する火山灰から広域層序と過去の爆発的火山噴火活動について、堆積物から過去の堆積環境変化についてを研究対象としている。とくに最近では、琵琶湖の環境変動史について検討を始めている。

今年度は、2つの大きなギャラリー展示と、第四紀学会の開催を行い、学会発表を中心に成果発表としたため、文章での成果公表は少ない。第四紀学会の開催については、滋賀県での初めての開催であり、その事務局を行った他、大会シンポジウムの企画・運営、巡検の企画に関わり、巡検案内書の執筆を行った。大会シンポジウムでは、湖沼堆積物を対象とした古環境変動を明らかにする研究をテーマに行い、琵琶湖堆積物の研究に関わる方々に発表いただき、学会誌の特集号を編纂している。この特集号の編纂は共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」（研究代表者：井内美郎）の成果の一つでもあり、また、里口が執筆担当をしている論文と共同研究者が執筆した論文は、共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」（研究代表者：里口保文）の成果である。これらの論文は、来年度に出版される予定である。

ギャラリー展示は、年度初めに「ギャラリー展示『百年前の大震災ー姉川地震に学ぶその備えー』」を滋賀県防災危機管理局と共同で開催した。この展示は、姉川地震から100年目の年に、地震防災について考えてもらおうと企画し、防災危機管理局、産業技術総合研究所地質調査総合センターの協力で、展示作成を行った。なお、この展示企画については、行政、博物館、研究者の三者による連携と、県内で数カ所の巡回展を行う事を意図して行った。その結果、後援として産業技術総合研究所地質調査総合センター、彦根地方気象台、湖南広域消防局が、協賛としてイオンモール草津にご協力いただいた。巡回する関連展示は、県内6箇所にておこなった。この展示を準備する上で、琵琶湖博物館が保管する姉川地震の震災時の画像について、内容調査および現在の場所での調査を実施した。二つめのギャラリー展示は、地域で活動する鉱物や化石の愛好家である湖国もぐらの会の方々が主体となって展示する第三弾の「ギャラリー展示『鉱物・化石展 2010 ぼくらは大地に夢を掘る』」を開催した。この展示は、去年度から実行委員会を設けて準備をしてきた。今回は子ども達の展示を新たな試みとして行った他、採集対象地域を全国に広げた。毎回、展示への参加人数は増えてきており、今回は約100名の関係者が集まった。なお、この展示は5月9日まで行われる。

その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行った他、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【学術論文】

里口保文 (2010) 忠類ナウマンゾウ発掘地点の堆積環境とその変化. 化石研究会会誌特別号, 4, 化石研究会: 47-51.

【一般向けの著作】

里口保文 (2009) 琵琶湖なしでは、生きられない! [第1話]. *poplead*, 17, 株式会社エヌイーエフ: 28.

里口保文 (2010) 百年まえの大震災. *うみっこ通信*, 2, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 里口保文（2009年4月17日）琵琶湖の成立と水位変動：これからの研究にむけて．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 森野祐助・三田村宗樹・里口保文（2009年8月28日）三重県伊賀市喰代地域における古琵琶湖層群上野累層の層序の再検討．日本第四紀学会2009年大会，日本第四紀学会，琵琶湖博物館，[ポスター発表]．
- 里口保文（2009年8月30日）湖沼堆積物の百万年スケール層序と編年：琵琶湖を例にして．日本第四紀学会2009年大会，日本第四紀学会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．
- 里口保文・高橋啓一・竹村恵二・高原 光・井内美郎（2009年8月30日）シンポジウム「古環境変動へ貢献する湖沼堆積物研究の役割」．日本第四紀学会2009年大会，日本第四紀学会，琵琶湖博物館，[企画・世話人]．
- 里口保文（2009年9月6日）古琵琶湖層群と東海層群における Gauss chron 初期のテフラ．日本地質学会第116年学術大会，日本地質学会，岡山理科大学（岡山県岡山市），[口頭発表]．
- 里口保文（2009年9月6日）「地域間層序対比と年代層序スケール」セッション．日本地質学会第116年学術大会，日本地質学会，岡山理科大学（岡山県岡山市），[世話人・座長]．
- 里口保文・小松原 琢（2009年9月12日）姉川地震の震災写真を使った展示による防災アピール．第26回歴史地震研究発表会，大津ふれあいプラザホール（大津市），[口頭発表]．
- 里口保文（2010年1月31日）鮮新-前期更新世の広域テフラ層による時間指標層としての確度と分解能．日本第四紀学会シンポジウム「第四紀の開始期の環境変動とテクトニクス：第四紀の新定義を検証する」，日本第四紀学会，早稲田大学（東京都新宿区），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群と東海層群の層序対比」，（2009年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2008年〜）．
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」（研究代表者：井内美郎），共同研究者（2008年〜）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本地質学会，代議員（全国区），2007年4月〜2010年4月．
- 日本地質学会，生涯教育委員会委員，2009年度．
- 日本地質学会，地質学雑誌，査読，2件．
- 日本第四紀学会，評議員，2009年9月〜
- 日本第四紀学会，テフラ・火山研究委員会委員，2009年度．
- 日本第四紀学会，第四紀研究編集委員，2007年9月〜．
- 日本第四紀学会，2009年大会事務局長，2009年．
- 日本堆積学会，事務局員（HP担当），2008年1月〜．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11 件。

2009 年度，水はしかけ，はしかけ制度，運営。

2009 年 5 月 10 日，研究者による展示解説，ギャラリー展示関連行事，琵琶湖博物館，企画・調整，2 件，（小松原 琢氏による展示解説）

2009 年 5 月 17 日，琵琶湖に地震がやってくる？，ギャラリー展示関連行事，琵琶湖博物館，企画・調整，2 件，（寒川 旭氏による講演）

2009 年 5 月 31 日，气象台の人による展示解説，ギャラリー展示関連行事，琵琶湖博物館，企画・調整，2 件，（彦根地方气象台の方による展示解説）。

2009 年 8 月 20 日，地層の見方講座，観察会，みなくち子どもの森，実習・講義，（みなくち子どもの森自然館の小西氏と共同）。

2009 年 12 月 5 日，火山灰からみた琵琶湖の生い立ち，新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 5 月 28 日，地震による災害の解説と実験，大津市立葛川中学校，体験学習，琵琶湖博物館，解説。

2009 年 7 月 21 日，琵琶湖の生い立ち，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 7 月 22 日，琵琶湖の生い立ち，志津南市民センター，琵琶湖博物館，講義。

2009 年 7 月 27 日・28 日，課題研究，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，研究相談。

2009 年 8 月 11 日，長い時間で見えた環境変化，滋賀県教育委員会，教員環境研修（高等学校教員向け），琵琶湖博物館，講義。

2009 年 8 月 18 日，地層の見方講座，滋賀県教育センター，教員研修，みなくち子どもの森（甲賀市），実習・講義，（みなくち子どもの森自然館の小西氏と共同）。

2009 年 8 月 30 日，琵琶湖堆積物がつむぐ過去から未来へのメッセージ，日本第四紀学会 2009 年大会普及講演会，琵琶湖博物館，世話人，（里口保文・高橋啓一・竹村恵二・高原 光・井内美郎による共同企画）。

2009 年 9 月 26 日，琵琶湖の自然史，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講義。

2009 年 12 月 8 日，大地のつくり～古琵琶湖層の火山灰はどこから～，滋賀大学附属小学校，滋賀大学教育学部附属小学校（大津市），発表へのコメント・講義。

2009 年 12 月 12 日・2010 年 1 月 9 日，班ごとの学習担当，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，指導・助言，2 件。

メディアへの協力

2009 年 4 月 26 日，京都新聞，ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」，取材対応，（2009 年 4 月 25 日取材）。

2009 年 4 月 29 日，びわ湖放送，とっておき滋賀 545，取材対応・コメント出演，（2009 年 4 月 25 日取材）。

2009 年 4 月 30 日，びわ湖放送，くらし Safety，取材・コメント出演，（2009 年 4 月 25 日取材）

2009 年 5 月 4 日，産経新聞，ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」，取材対応，（2009 年 4 月 29 日取材）。

2009 年 5 月 7 日，ZTV 大津放送局，DAILY! かわら版，取材対応，（2009 年 4 月 29 日取材）。

2009 年 5 月 8 日，NHK 大津放送局，おうみ発 6 1 0，取材対応，（2009 年 4 月 29 日取材）。

2009 年 5 月 10 日，中日新聞，ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」，取材対応，（2009 年 5 月 9 日取材）。

2009 年 5 月 10 日，読売新聞，ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」，取材対応（2009 年 5 月 8 日取材）。

2009 年 5 月 21 日，びわ湖放送，くらし Safety，取材・コメント出演，（2009 年 5 月 17 日取材）。

2010 年 3 月 15 日，ギャラリー展示「鉱物・化石展 2010 ぼくらは大地に夢を掘る」の開催について，資料提供。

2010年3月25日, 京都新聞, ギャラリー展示「鉱物・化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る」紹介, 取材対応,
(2010年3月20日取材).

2010年3月31日, ZTV (ケーブルテレビ), ギャラリー展示「鉱物・化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る」紹介,
取材対応, (2010年3月31日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

姉川地震当時の災害写真内容修正, 説明文の修正, 53件.

琵琶湖博物館個人管理ページ (里口保文), 管理・運営, 更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石・鉱物、堆積物, プレパラート資料管理, 管理担当.

古琵琶湖層群等火山灰試料提供受け入れ, 受け入れ担当, 約1200件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, ギャラリー展示 (百年前の大震災) 展示説明, 3回.

展示室繁忙期対応, 見回り, 2回.

2009年4月25日～6月7日, ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」, 企画・調整・運営
(滋賀県防災危機管理局と共催).

2010年3月20日～5月9日, ギャラリー展示「鉱物化石展2010 ぼくらは大地に夢を掘る」, 企画・調整・運営主
担当 (湖国もぐらの会と共催).

他博物館・機関の活動

長浜市尊称寺町自治会, 2009年7月25日, パネル展示, 展示協力.

関西地震防災研究会, 2009年8月8日, 「湖国の地震防災を考える 百年前の姉川地震が語るもの」シンポジウム
における姉川地震の展示, 展示協力.

虎姫町, 2009年8月14日, 「メモリアル100TORAHIME ～姉川地震百年～」の中の姉川地震展示, 展示
協力.

長浜市, 2009年8月17日～8月31日, 「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」, 企画・展示協力.

イオンモール草津, 2009年9月9日～9月23日, 「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」, 企画・展示協力.

高島市, 2009年11月20日～12月6日, 「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」, 企画・展示協力.

【企画調整活動】

研究部連絡調整, 連絡調整担当, 2009年度.

業績目録担当, 編集, 2009年度.

主任学芸員

研究部環境史研究担当

（兼）事業部展示担当

まず、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化—景観の形成史—」（研究代表者内山純蔵氏）に関して、「寺辺」の殺生禁断に関する論考が『東アジア内海文化圏の景観史と環境 第1巻 水辺の多様性』（昭和堂）に掲載された。これは、殺生禁断とされた「寺辺」という心理的景観がどのように設定されたのかという問題について、寺院からの視界との関連性をGISという手法を用いて追究したものである。

次に、科学研究費補助金基盤研究(C)「日本中世における内水面の環境史的研究」（研究代表者：橋本道範）、琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—」（研究代表者：橋本道範）、科学研究費補助金基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者：水野章二）に関して、『賀茂社諸国神戸記』のうち、中世前期の堅田漁撈についての基礎史料を翻刻して紹介した小論を投稿した。この史料は、これまで利用されてはいたものの本格的には紹介されていなかったもので、堅田の貢納、漁撈保障、漁法、漁業権について分析することが可能となる重要史料である。

なお、事業に関わるが、トピック展示「移ろう大地を把握する—自然のリズムと中世の人々—」の実施も特筆したい。これは、昨年度の成果「日本中世における水辺の環境と生業」を受けたもので、水域と陸域とが交差する推移帯の荘園制的支配システムがどのように構築されていたのかを重要文化財に指定された東寺文書を用いて紹介したものである。特に、陸域から水域へと変化したときの耕作権取り消しのシステムについて取り上げたが、これらの内容については、他の地域の事例検討を含めて再来年度以降さらに解明をしたいと考えている。

最後に、すでに終了した総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類の展開を軸にしたその環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫）歴史班の成果を『琵琶湖博物館研究調査報告書第25号 日本中世魚介類消費の研究—一五世紀山科家の日記から—』としてとりまとめることができた。これは15世紀の貴族で、天皇の食事を担当する部局の長を世襲した山科家の当主・家司の日記類から魚介類記事を抜き出して分析を加え、魚介類ごとの消費のあり方を詳細に検討したものである。この報告書の中で橋本は、中世の飲食行為、贈答行為に関する研究史を整理し、料理史研究の問題点や消費研究の重要性を指摘した。現在はこの報告書の成果に基づいて、(仮)「日本中世の魚介類消費と漁撈秩序」をテーマとした論考を執筆中である。

印刷物

【専門分野の著作】

橋本道範（2010）寺辺殺生禁断試論—宗教的戒律のつくる景観—。内山純蔵・カティ・リンドストロム 編，東アジア内海文化圏の景観史と環境 第1巻 水辺の多様性，昭和堂，京都：145-169.

橋本道範 編（2010）琵琶湖博物館研究調査報告 第二五号 日本中世魚介類消費の研究—一五世紀山科家の日記から—。滋賀県立琵琶湖博物館，草津：176p.

橋本道範（2010）日本中世の魚介類消費と一五世紀の山科家。橋本道範 編，琵琶湖博物館研究調査報告 第二五号 日本中世魚介類消費の研究—一五世紀山科家の日記から—，滋賀県立琵琶湖博物館，草津：7-16.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

橋本道範（2009）「環境史」研究の可能性について—佐野静代氏の業績の検討から—。歴史科学，196。大阪歴史科学協議会：42-52.

橋本道範 (2009) 平安時代末期・鎌倉時代の呂久. 呂久町史編纂委員会 編, 呂久町史 通史編, 瀬戸内市, 岡山県 : 199-240.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範 (2009年8月21日) 琵琶湖の寺辺殺生禁断試論—宗教的戒律のつくる景観. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

総合地球環境学研究所 4-4 プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(研究代表者: 内山純蔵), メンバー (2005~2011年度).

科学研究費補助金基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者: 水野章二), 共同研究者 (2006~2009年度).

科学研究費補助金基盤研究(C)「日本中世における内水面の環境史的研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2007~2010年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 3件.

2009年5月9日, むかしのしょうぶ くさあわせ—みつけて・とって・しょうぶする—屋外展示たんけん〜春の野草みつけ〜, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講演.

2010年2月27日, 中世琵琶湖の殺生禁断, 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講演.

メディアへの協力

2009年6月24日, 京都新聞社, 中世の営み「東寺文書」で紹介, 取材対応, (2009年6月23日取材).

2009年7月11日, 朝日新聞社, 洪水多発 移ろう水辺, 取材対応, (2009年7月8日取材).

2009年12月11日, びわ湖放送, ニュースワイド「キャッチ」, 取材対応, (2009年12月8日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

特別観覧, 対応, 4件.

定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫), 実施, 11回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年6月23日~7月12日, トピック展示「移ろう大地を把握する—自然のリズムと中世の人々—」, 企画・運営.

2010年1月3日~2月7日, お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!？」歴史資料の部, 補助.

2009年4月28日~5月24日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第6回, 補助.

2009年5月26日~6月21日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第7回, 補助.

2009年7月14日～10月18日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!—企画展示関連企画 骨の記録」第8回, 補助.

2009年10月20日～11月15日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!—企画展示関連企画 骨の記録」第9回, 補助.

2009年11月17日～12月20日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第10回, 補助.

2009年12月22日～2010年1月24日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第11回, 補助.

2010年1月26日～2月28日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第12回, 補助.

2010年3月2日～3月28日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第13回, 補助.

2010年3月30日～5月9日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第14回, 補助.

B展示室陳列替え, 補助, 10件.

モーニングレクチャー, 講義, 2回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

展示交流員研修, 企画・運営.

主任学芸員

研究部環境史研究担当

(兼) 事業部交流担当

花粉化石群集の組成変化、堆積物の分析、または遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて過去数十万年から現在にかけての自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は近江はもとより、南部アフリカ、南米、アジア各国を対象に、フィールド科学の立場から「人為的環境の成立過程」の復原を行っている。

本年度は、自己が研究代表をつとめる科研費や民間助成を獲得し、開始年度に該当するものがいくつかあり、その現地調査の準備等を行った。また、継続プロジェクトに関する成果では、現在査読中も含めて4本程度の論文を作成し、そのうち2本が年度内に公表された。またプロジェクトに関する学会・研究会での研究発表では、8月の国際歴史地理学連合（京都）や1月の国際ワークショップ（京都）をはじめ、国内の主要な学会等やプロジェクトの研究会等で9回程度の成果の一部を公表してきた。

海外の現地調査は、継続中のインド北東部、バングラデシュ、ネパールにおいて実施するとともに、新たなフィールドとしてミャンマーの予備調査を実施した。これらの海外調査は、異分野との共同研究であり、自己の専門性を意識しつつ、フィールドの一次データを重視した「地に足のついた地域研究」を継続して実施する予定である。また、学会役員や、大学での非常勤講師なども継続して実施した。

これらの研究は環境史研究領域を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった研究領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。したがって、自然科学的方法論を手段としつつ、人文・社会科学の諸分野などとの異分野との共同研究から、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆきたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

- 宮本真二・安藤和雄・アバニィ クマール バガバティ (2009) ヒマラヤ地域における民族移動と土地開発過程。
ヒマラヤ学誌, 10, ヒマラヤ研究会, 京都: 1-9.
- Miyamoto, S. (2010) Late Pleistocene Sedimentary Environment of the “Homeb Silts” Deposit, along the middle
Kuiseb River in the Namib Desert, Namibia. *African Study Monograph Supplementary Issue*, 40 : 51-66.

【専門分野の著作】

- 宮本真二 (2010) ヒマラヤ地域における民族移動と土地開発過程 (総合地球環境学研究所・地球研プロジェクト D-03).
奥宮清人 編著, 人の生老病死と高所環境—「高地文明」における医学生理・生態・文化適応 2007年~2009
年度本研究中間報告書, 総合地球環境学研究所, 京都: 64-72.
- 宮本真二 (2010) 人文地理学会歴史地理研究部会 112 回要旨 (記録). *人文地理*, 62 (1) : 94-96.
- 小野映介・宮本真二・上中央子 (2009) 津軽平野、浅瀬石川扇状地に立地する前川遺跡周辺の地形・地質. *青森県
埋蔵文化財調査報告書 第475集 前川遺跡 (第二分冊)*, 青森県教育委員会: 30-34.
- 宮本真二 (2009) ヒマラヤの斜面崩壊. *News Letter North East*, 2, 総合地球環境学研究所: 2.
- 宮本真二 (2009) 文献紹介. *News Letter North East*, 3, 総合地球環境学研究所: 3.
- 宮本真二 (2009) いったい、高所には、いつから、人が定着しはじめたのだろうか?. *Highlanders*, 5, 総合地球
環境学研究所: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 宮本真二 (2009年5月24日) アフリカと南アメリカの半乾燥地域における環境変動期の対比. 日本アフリカ学会第46回学術大会, 東京農業大学(東京都), [口頭発表].
- Miyamoto, S., Ando, K. and Abani Kumar BHAGABATI (2009年8月25日) Agricultural Land Formation Process and Deforestation in the Himalayas. 14th International Conference of Historical Geographers, 2009, Kyoto (京都市), [口頭発表].
- 宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド セリム (2009年10月25日) バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域における地形環境変遷と屋敷地の形成過程. 2009年日本地理学会秋季学術大会, 琉球大学(中頭郡西原町), [口頭発表].
- 宮本真二 (2009年10月29日) ヒマラヤの土地開発史と現在の自然災害問題. 第3回高地文明研究会(高所プロジェクト全体会議), 総合地球環境学研究所(京都市), [口頭発表].
- 宮本真二 (2009年11月8日) 問題提起. 第118回人文地理学会歴史地理研究部会, 名古屋大学(名古屋市), [運営・口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄・内田晴夫・アバニィ クマール バガバティ・ムハマッド セリム (2009年11月9日) ブラマプトラ川流域の高所と低所における土地開発過程, 2009年人文地理学会大会, 名古屋大学(名古屋市), [口頭発表].
- 宮本真二 (2009年11月28日) コメント発表: 環境史からみた災害. 2009年立命館地理学会大会, 立命館大学, [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄・内田晴夫・アバニィ クマール バガバティ・ムハマッド セリム (2010年1月30日) ブラマプトラ川流域の高所～低所における民族移動と土地開発. 第135回生存圏シンポジウム, 第5回国際研究集会「南アジアの気象環境と人間活動に関する研究集会」, 京都大学東南アジア研究所(京都市) [口頭発表].
- 宮本真二 (2010年3月28日) 地域博物館での地理学の役割: 琵琶湖博物館を素材として. 2010年日本地理学会春季学術大会, 法政大学(東京都), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「土地開発史の復原」, (2009年度).
- 文部科学省科学研究費基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」(研究代表者: 水野章二), 研究分担者 (2006～2009年度).
- 滋賀大学環境総合研究センター・プロジェクト研究「水辺における「二次的自然」とその維持管理の地域システムに関する研究」(研究代表者: 佐野静代), 研究分担者 (2008～2010年度).
- 文部科学省科学研究費基盤研究(A)「ベンガル湾縁辺における自然災害との共生を目指した在地ネットワーク型国際共同研究」(研究代表者: 安藤和補), 連携研究者 (2009～2012年度).
- 総合地球環境学研究所・プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境—「高地文明」における医学生理・生態・文化適応—」(研究代表者: 奥宮清人), プロジェクトメンバー (2006～2011年度).
- 総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器と現代化: 景観形成史」(研究代表者: 内山純蔵), プロジェクトメンバー (2006～2011年度).
- 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「アジア・モンスーン地域における民族移動に伴う「土地開発史」の再検討」(研究代表者: 宮本真二), 研究代表者 (2009～2012年度).
- 東京地学協会研究調査助成金「ベンガル・デルタの微地形発達と土地開発史の対応関係の解明」(研究代表者: 宮本真二, 研究代表者 (2009年度).

文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究」(研究代表者:小野映介), 研究協力者(2009~2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境史研究会, 企画・運営, 2003年~.

人文地理学会, 地理学文献目録編集員・雑誌担当委員, 2006年7月~.

人文地理学会, 歴史地理研究部会世話人, 2007年11月~.

人文地理学会, 編集員会, 2008年11月~.

総合地球環境学研究所, 共同研究員, 2005年7月~.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2010年1月6・7・8日, 滋賀県立大学集中講義, 「自然地理学」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件

はしかけ制度の運営に関すること, 主任.

夏休み相談室に関すること, 副主任.

2010年2月6日, 遺跡の立地条件を探る, 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講演.

視察対応

2010年2月17日, 中学地理副読本について, 日本文教出版, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ(宮本), 更新.

【企画調整活動】

新人職員等研修, 講師, 2009年4月21日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

電子顕微鏡の維持管理, 主任.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年6月26日~7月1日, ネパール連邦民主共和国, 現地調査・資料収集.

2009年8月1日~8月17日, バングラデシュ人民共和国, 現地調査・資料収集.

2009年9月8日~9月24日, インド共和国, 現地調査・資料収集.

2009年11月16日~11月26日, ミャンマー連邦, 現地調査・資料収集.

2009年12月5日~12月24日, ネパール連邦民主共和国, インド共和国, 現地調査・資料収集.

2010年3月13日～3月25日，ネパール連邦民主共和国，現地調査・資料収集.

学芸員

研究部環境史研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

2008年度から、科学研究費補助金基盤研究(C) (一般)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」(2008～2011年度)の共同研究者として、それに伴う研究・調査を進めた。滋賀県近江八幡市に所在する鋳物問屋の資料には、在来近江の犁の鋤先についての製品カタログがあり、そこには、在来近江の犁の鋤先についての呼び名、寸法、販売先などが描かれている。これらの記述と現物の資料とを照らし合わせることで、近代犁が普及する以前の近江在来の犁の鋤先の分布および地域的な特徴を明らかにすることができる。来年度以降も継続研究を行っていきたい。

また、11月には、東近江市在住の桶職人2人と、竜王町在住の桶職人1人に、桶風呂の製作を共同で行っていただき、桶風呂の製作技術の継承に取り組んだ。

2009年度は、資料活用グループに在籍し、燻蒸とIPM(有害虫生物管理)を担当した。通常業務に加えて、館内向けのカビについての調査報告会を生物環境調査担当の嘱託職員とともに企画し、館内から20数名の参加のもと実施し、琵琶湖博物館内におけるIPM意識の向上に努めた。

後半からは、「絵図情報の統合による集落の環境民俗建築学的研究—滋賀県湖東の集落を事例として—」というタイトルで、博士論文のとりまとめを行った。現在、来年度早い時期での審査を受けるべく作業の仕上げを行っている。

印刷物

【専門分野の著作】

老 文子 (2010) 愛東の桶風呂. 東近江市史「愛東の歴史」, 東近江市史編纂室: 499.

【一般向けの著作】

老 文子 (2009) 桶風呂のはなし. かがくのとも付録, 福音館書店: 4-5.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

老 文子 (2007) 力石の歴史. 防災・耐震・まちづくりフォーラム 2006, 木造伝統構法彦根研究会: 19-21.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

老 文子 (2009年9月18日) 滋賀県の民家における入浴形態の変遷. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「近代軍事・徴税制度の成立と間取り図」, (2009年度).

文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への

試み」(研究代表者：用田政晴)，共同研究者 (2008～2011 年度)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12 件。

2009 年 5 月 16 日，フィールドレポーター交流会 みちしるべ今昔調査，琵琶湖博物館，コメンテーター。

2009 年 8 月 4 日，琵琶湖博物館の資料の保存・管理の状況，博物館実習，琵琶湖博物館，講義・実習指導。

2009 年 10 月 24 日，古い民家のおけ風呂を見にいこう，琵琶湖博物館見学会，彦根市肥田町，主担当。

2010 年 2 月 27 日，循環型の暮らし方ー桶風呂の文化史ー，新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 9 月 17 日，農家の循環型の暮らしと桶風呂，京都府女性の船「ステップあけぼの」綴喜支部，琵琶湖博物館，講演。

2009 年 9 月 26 日，民家の歴史とその調査方法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講義。

2009 年 10 月 10 日，農家の循環型の暮らしと“ゴエモン風呂”，浅井歴史民俗資料館・あざい歴史の会，歴史講座，講師。

2009 年 10 月 21 日，農家の循環型の暮らし方と“桶風呂”，多賀町教育委員会，平成 21 年度多賀町「町民大学」，多賀町中央公民館，講師。

2009 年 12 月 12 日・2010 年 1 月 9 日，班ごとの学習担当，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，指導・助言，2 件。

2010 年 2 月 5 日，富江家にみる昔の暮らし，近江八幡市立島小学校・沖島小学校，琵琶湖博物館，説明。

視察対応

2009 年 6 月 17・18 日，愛知県史編纂にともなう滋賀県の桶風呂調査の案内・琵琶湖博物館所蔵桶風呂の見学案内，愛知県史編さん室，琵琶湖博物館。

2010 年 2 月 10 日，琵琶湖博物館収蔵民俗資料の整理方法について，栃木県立博物館，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2009 年 4 月，金融広報中央委員会，桶風呂文化に魅せられて 第 8 回 将来へのまなざし，暮らし塾 きんゆう塾 vol. 8，琵琶湖博物館撮影協力・資料提供・インタビュー，(2009 年 2 月 2 日取材)。

2009 年 5 月 30 日，京都新聞，古い道標 文化財保存を 琵琶博登録市民ら県内 259 基調査，資料提供・琵琶湖博物館撮影協力・インタビュー，(2009 年 5 月 16 日取材、2009 年 5 月 21 日電話取材)。

2009 年 6 月 6 日，びわこ放送，ときめき滋賀's ～水と暮らし～，C 展示室富江家内にて、桶風呂について説明，(2009 年 6 月 6 日出演)。

2009 年 6 月 7 日，(株)滋賀民報社，ときめき訪問 滋賀の人，琵琶湖博物館撮影協力・資料提供・インタビュー，(2009 年 5 月 8 日取材)。

2009 年 10 月 28 日，関西テレビ，ニュースアンカー，撮影協力・資料提供・インタビュー，(2009 年 10 月 24 日取材)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ資料利用紹介，内容更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理，管理運営，資料の受け入れ，5件.

環境資料整理，収蔵庫管理.

考古収蔵庫管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

富江家展示管理，展示修理・交換，20件.

2009年7月3日，耐震診断の調査の補助.

【企画調整活動】

新任職員研修，資料保存について・B展示室紹介・C展示室紹介，2009年4月14・21・22日，琵琶湖博物館，3件.

【研究部関連事業】

研究セミナーの運営と広報，主担当.

特別研究セミナーの関係各機関への広報，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年度，滋賀県博物館協議会，広報委員.

【館外の活動】

2009年度，彦根市史編纂委員会，委員.

総括学芸員

研究部生態系研究担当グループリーダー
(兼) 事業部資料活用担当

In 2009 I was again leader and chief administrator of a Comprehensive Research Project at the Lake Biwa Museum, the goal of which is to explore the biodiversity and systematics of the biota of Lake Biwa and its surrounding watershed. I personally hosted cooperative researchers from Yokohama, Sapporo, Korea, and Germany and assisted their respective surveys of earthworms, freshwater bryozoans, gastrotrichs, and copepods. In addition, I served as the host of a graduate student from Osaka University who is also studying gastrotrichs within this project. From this project, two papers on earthworms and digenean flukes were submitted for publication with me as coauthor, the former actually being published by the end of March (otherwise, I was coauthor of some online resources for Ascothoracida species). Within a large project funded by the Environment Ministry, I was nominal co-leader of research on the biodiversity of small organisms in rice fields. In particular, I assisted in field surveys and arranged for the identification of copepods, earthworms, and aquatic microdrile oligochaetes. I presented or was co-presenter of several talks and posters at two international meetings, one on speciation in ancient lakes (Ohrid, Macedonia) and the other on carcinology (Tokyo, Japan). Finally, as a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission.

2009年度の主な作業は、研究代表者・事務担当者として、琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」の代表および管理を行なった。横浜、札幌、韓国、ドイツからの共同研究者を受け入れ、フィールド調査（ミミズ、淡水性のコケムシ、イタチムシ、カイアシ類の採集）を行った。また、本総合研究の一環として、イタチムシを研究している大阪大学の大学院生を特別研究員として受け入れた。本総合研究の成果になった2本の論文の共著者になり、そのうち1本が年度末までに出版された。また、囊胸類の分類学的な専門研究の成果について、インターネット上の種類一覧を共著者として2件出した。環境省の委託研究の一環として、大塚泰介主任学芸員とともに研究参画者として「小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」という分野の先導および管理を行ない、特に水田におけるカイアシ類および小型・大型ミミズ類の採集と同定依頼に関して担当した。古代湖内の種分化（会場：マケドニアのオーフリド）および総合甲殻類学（会場：東京）ということに関した国際大会で、発表者または共発表者としてポスターと口頭発表を行った。動物命名法国際審議会の委員として、審議会の細則の改正に関し、審議会の前にもたらされる多くの命名法に関する案件について投票した。

印刷物

【学術論文】

Blakemore, R. J., Kupriyanova, E. K. and Grygier, M. J. (2010) Neotypification of *Drawida hattamimizu* Hatai, 1930 (Annelida, Oligochaeta, Megadrili, Moniligastridae) as a model linking MtDNA (COI) sequences to an earthworm type, with a response to the 'Can of Worms' theory of cryptic species. *Zookeys*, 41, Pensoft Publishers : 1-29.

【専門分野の著作】

- Grygier, M. J., Kusuoka, Y., Foissner, W., Shimano, S., Ji, D., Urabe, M., Smith, R. J., Janz, H., Inoue, E., Kobayashi, T. and Nishino, M. (2009) Potential endemics among protists, helminths, and crustaceans in Lake Biwa, Japan. *Zbornik na Rabotite (Review)*, 42 (1), Hydrobiological Institute Ohrid: 28-29.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2009) OPINION 2227 (Case 3375). *Fidia* Baly, 1863 and *Lypestes* Baly, 1863 (Insecta, Coleoptera): usage not conserved and priority maintained for *Fidia* Motschulsky, 1860. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 66 (2), 動物命名法国際審議会: 198-200 [特にグライガー委員の意見、pp. 199-200].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2009) OPINION 2232 (Case 3384). *Cornwallius tabatai* Tokumaga, 1939 (currently *Paleoparadoxia tabatai*; Mammalia, Desmostylia): proposed designation of a neotype not accepted. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 66 (3), 動物命名法国際審議会: 295-296 [特にグライガー委員の意見、p. 296].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2009) OPINION 2233 (Case 3417). *Malmgrenia* McIntosh, 1874 (Annelida, Polychaeta, POLYNOIDAE); usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 66 (4), 動物命名法国際審議会: 360-361 [特にグライガー委員の意見、p. 361].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2009) OPINION 2234 (Case 3416). *Murex rostratus* Olivi, 1792 (currently *Fusinus rostratus*; Mollusca, Gastropoda): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 66 (4), 動物命名法国際審議会: 362-364 [特にグライガー委員の意見、p. 363].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2009) OPINION 2235 (Case 3434). *Scleropauropus* Silvestri, 1902 (Myriopoda, Pauropoda): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 66 (4), 動物命名法国際審議会: 365-366 [特にグライガー委員の意見、p. 366].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2242 (Case 3398). AULACOSCELINAE Chapuis, 1874 (Insecta, Coleoptera, ORSODACNIDAE or CHRYSOMELIDAE): name not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (1), 動物命名法国際審議会: 99-101 [特にグライガー委員の意見、p. 100].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2245 (Case 3407). *Drosophila* Fallen, 1823 (Insecta, Diptera): *Drosophila funebris* Fabricius, 1787 is maintained as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (1), 動物命名法国際審議会: 106-115 [特にグライガー委員の意見、pp. 110-111].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2010) OPINION 2246 (Case 3461). ANCYLINI Michener, 1944 (Insecta, Hymenoptera): spelling emended to ANCYLAINI to remove homonymy with ANCYLINI Rafinesque, 1815 (Mollusca, Gastropoda). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 67 (1), 動物命名法国際審議会: 116-117 [特にグライガー委員の意見、p. 117].

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- マーク・ジョセフ・グライガー (2009年4月17日) 世界の専門家として、私あての研究依頼: 囊胸類および吸口類の例. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 藤倉克則・奥谷喬司・長濱統彦・能木裕一・Dhugal Lindsay・山本啓之・北里 洋・白山義久・久保田 信・伊勢戸 徹・長谷川四郎・大塚 攻・澤本彰三・村山 司・Mark J. Grygier・柳 研介・駒井智幸・齋藤暢宏・松浦啓一・藤田敏彦・齋藤 寛・田近謙一・下村通誉・今原幸光・鈴木紀毅・野村恵一・中町美和・山口寿之・西 栄二郎・福岡弘紀・遠部 卓・志賀直信・柁原 宏・西田周平・横山 博・西川 淳・伊勢優史・

古屋秀隆・後藤太一郎・雪吹直史・上田拓史・河地正伸・岩崎 望・田中次郎・鈴木秀和・堀田拓史・中村光一郎 (2009年6月13日) 海洋生物のセンサス Census of Marine Life の活動と日本の海洋生物の多様性. 日本動物分類学会第45回大会, 名古屋港水族館 (名古屋市), [口頭発表].

伊藤貴之・船津宏也・小松美英子・Mark J. Grygier (2009年6月14日) ヒトデ寄生性シダムシの2種の同定と幼生発生. 日本動物分類学会第45回大会, 名古屋港水族館 (名古屋市), [口頭発表].

柴田大輔・高田秀世・橋本 惇・Mark J. Grygier・小松美英子 (2009年6月14日) ヤマトホシヒトデの幽門盲嚢内に寄生するスイクチムシの未記載種に関する形態と生殖. 日本動物分類学会第45回大会, 名古屋港水族館 (名古屋市), [口頭発表].

Grygier, M. J., Kusuoka, Y., Foissner, W., Shimano, S., Ji, D., Urabe, M., Smith, R. J., Janz, H., Inoue, E., Kobayashi, T. and Nishino, M. (2009年9月10日) Potential endemics among protists, helminths, and crustaceans in Lake Biwa, Japan. SIAL 5: Speciation in Ancient Lakes, Hotel Millennium Palace (マケドニア、オーフリド), [口頭発表].

Tachikawa, H. and Grygier, M. J. (2009年9月22日) *Petrarca madreporae* (Crustacea: Ascothoracida) collected alive from the deep-water coral *Madrepora oculata* in Japan, with remarks on its early nauplius larvae. The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo, Japan and the 47th Annual Meeting of Carcinological Society of Japan, 東京海洋大学 (東京), [ポスター発表].

Grygier, M. J., Yusa, Y., Yamato, S. and Høeg, J. (2009年9月22日) Stage-2 nauplius larvae of the symbiotic stalked barnacles *Koleolepas* and *Heteralepas*, and distinctive cirriped nauplii of unknown identity from Okinawan plankton. The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo, Japan and the 47th Annual Meeting of Carcinological Society of Japan, 東京海洋大学 (東京), [ポスター発表].

Tomikawa, K., Morino, H. and Grygier, M. J. (2009年9月22日) Three undescribed species of *Pseudocrangonyx* (Amphipoda: Pseudocrangonyctidae) from Japan. The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo, Japan and the 47th Annual Meeting of Carcinological Society of Japan, 東京海洋大学 (東京), [ポスター発表].

Ito, T., Komatsu, M. and Grygier, M. J. (2009年9月23日) Two species of *Dendrogaster* (Crustacea: Ascothoracida) newly recorded from Japan, with remarks on seasonality, development, and anatomy. The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo, Japan and the 47th Annual Meeting of Carcinological Society of Japan, 東京海洋大学 (東京), [口頭発表].

藤倉克則・奥谷喬司・長濱統彦・能木裕一・Dhugal Lindsay・山本啓之・北里 洋・白山義久・久保田 信・伊勢戸徹・西田周平・横山 博・西川 淳・伊勢優史・長谷川四郎・大塚 攻・澤本彰三・村山 司・Mark J. Grygier・柳 研介・駒井智幸・齋藤暢宏・松浦啓一・藤田敏彦・齋藤 寛・田近謙一・下村通誉・今原幸光・鈴木紀毅・野村恵一・中町美和・山口寿之・西 栄二郎・福岡弘紀・遠部 卓・志賀直信・柁原 宏・古屋秀隆・後藤太一郎・雪吹直史・上田拓史・河地正伸・岩崎 望・田中次郎・鈴木秀和・堀田拓史・中村光一郎 (2009年10月18日) 日本における海洋生物の多様性—Census of Marine Life—. 2009年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 北海道大学水産学部 (函館市), [口頭発表].

マーク・ジョセフ・グライガー (2009年11月19日) 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」に付いて. 琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議平成21年度本会議, 衛生科学センター (大津市), [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

Poore, G. C. B. and Grygier, M. J. (2009年5月31日) Australian Faunal Directory. Ascothoracida.
<http://www.environment.gov.au/biodiversity/abrs/online-resources/fauna/afd/taxa/ASCOTHORACIDA>,
Australian Biological Resources Study, Canberra.

Grygier, M. (115 編: 1 科名、16 属名、98 種名) および Grygier, M. and Boxshall, G. (26 編: 2 目名、5 科名、9

□

属名、10 種名) (2009 年 11 月 6 日) World Ascothoracida Database. World Register of Marine Species. トップページ: <http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=22559>. [あと 1 属名、5 種名に関しては、Grygier は「checked by」(確認者)として記録されている。]

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー)，研究代表者 (2006～2010 年度)。

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者：前畑政善)，研究協力者 (2007～2010 年度)。

琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類と顎脚類(甲殻類)の分類学や固体発生学に関する研究」，(2009 年度)。

環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案. 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」(研究代表者：夏原由博)，研究参画者 (2009～2011 年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology, Associate Editor, 査読, 8 件。

The Crustacean Society, The Crustacean Society Excellence in Research Award Committee, 2010 年 2 月 12 日 任命。

Systematic Parasitology, Associate Editor, 査読, 1 件。

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor)。

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor)。

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, International Advisory Board.

国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員。

動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 4 件。

World Aquaculture Society, Journal of the World Aquaculture Society, 査読, 1 件。

Experimental Parasitology, 査読, 1 件。

Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, 査読, 1 件。

【大学の講座・実習、学生の指導など】

2009 年 4 月 6 日～6 月 30 日, 大阪大学産学連携推進本部イノベーション人材育成部門「協働育成型イノベーション創出リーダー養成」プロジェクト(鈴木隆仁), 受け入れ担当。

【受賞など】

BioMed Central Research Awards Biology Prize, Honourable Mention, 2009 年 4 月 9 日, 「Glenner, H., Høeg, J. T., Grygier M. J. and Fujita, Y. (2008) Induced metamorphosis in crustacean y-larvae: Towards a solution to a 100-year-old riddle. *BMC Biology* 6 : 21」 というインターネット上の原著論文。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件。

はしかけ運営，田んぼの生き物調査グループ，副担当.

2010年1月9日，琵琶湖地域の魚類寄生虫，新琵琶湖専門セミナー『湖と人間』，琵琶湖博物館，講演.

視察対応

2009年4月9日，アウグスブルク・シュヴァーベン独日協会代表団.

2009年5月15日，スタンフォード日本センター.

2009年7月1日，武庫川女子大学附属中学校.

2009年7月3日，ミシガン州立大学連合日本センター.

2009年9月2日，中国科学院水生生物研究所.

2009年10月18日，JENESYS ブルネイ訪日団第1陣（大学生）.

2009年11月18日，JICA 産業廃水処理技術コース.

2009年11月26日，JICA 国際技術研修 平成21年度「生活排水処理対策」集団研修コース.

2010年2月3日，横浜国立大学グローバルCOE と総合地球環境学研究所FS 研究プロジェクトのフィリピン大学その他の環境専門家.

メディアへの協力

2009年7月19日，天理時報，「生きた化石」に学ぶ自然の理 独自の生物研究30年専門家が論文に引用 福岡の高山美子さん，（2009年7月9日取材）.

2009年10月16日，第56回 琵琶湖博物館特別研究セミナー「オーストラリアにおける地下水性カイアシ類の動物地理学」ー大型大陸塊における単系統仮説の矛盾ーを開催する，資料提供.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入，無脊椎動物（昆虫，貝類を除く）3953件，そのうち甲殻類1624点，鋏角類2063点，多脚類131点，貧毛類37点，その他の無脊椎動物98点.

仮データ入力・ラベル付け，1870点，そのうち甲殻類1431点，クモ類319点，多脚類95点，その他の無脊椎動物26点（タイプ標本36点を含む）.

研究依頼，広島大学，カイアシ類，4点.

研究依頼，富山市科学博物館，等脚類193点.

研究依頼，富山市科学博物館，等脚類18点.

研究依頼，（ドイツ）ハンブルク大学のビオツェントルムゴリンデル・動物学博物館，ハリガネムシ1点.

譲与，大阪市立環境科学研究所，線虫1点からの5匹.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネル更新，1件.

展示室繁忙期対応，見回り，3回.

2009年3月23日～4月12日，水族トピック展示「ハッタミミズ」，協力.

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室 生き物コレクション（寄生虫），講師，2008年4月22日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（鈴木隆仁），受け入れ担当.

第56回琵琶湖博物館特別研究セミナー，Karanovic, T., Zoogeography of Australian subterranean copepods

(Crustacea); contradiction of monophyly in large continental blocks, 運営・司会, 2009年10月21日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年6月30日更新, (米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科), 協力研究員.
(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.
動物命名法国際審議会, 委員.

専門学芸員

研究部生態学研究担当サブグループリーダー

(兼) 事業部展示担当

専門研究では石田未基氏と共同で、福井県若狭町の菅湖で確認されたミズゴマツボについての報告を貝類学会機関誌に投稿した。ミズゴマツボは生息数が減少している希少貝類であるが、これまで福井県内では確認されたことがなく、この報告が福井県内初記録の報告となる。また、これまでにミズゴマツボについて記された論文類を集め、生息域は国内に多数あること報告するとともに、いずれの生息地でも生息場所が局限されていることから、種の存続については泥弱であることを示唆した。また、同じく福井県若狭町の水月湖と菅湖で確認されたカワグチツボについても貝類学会機関誌に投稿した。カワグチツボはこれまで久々子湖では確認されていたが、水月湖と菅湖では新発見である。このほか、五箇荘、日野町、米原市などで生息が確認できたミジンツボの報告を準備している。

外部資金による委託研究では、昨年度に引き続き近畿大学の小林徹准教授と共同で、ハリヨの生息域外保全について研究をおこなった。この研究では、飼育下で継代繁殖しているハリヨの、遺伝的多様性の低下を軽減する方法を探るとともに、滋賀県内におけるハリヨの遺伝的な系統関係を明らかにすることを目的とした。また、生息域内での保全活動の補完的措置として、生息域外での系統保存を考えるため、人工授精技術の開発など、人為的な増殖と遺伝子管理をするための技術開発を行った。

印刷物

【専門分野の著述】

紀平 肇・松田征也・内山りゅう (2009) 琵琶湖・淀川の淡水貝類. *日本産貝類図鑑 (改訂版)*, ピーシーズ: 160.

【一般向けの著作】

松田征也 (2009) 私の交友録. *週刊滋賀民報*, 第 1970 号, (株) 滋賀民報社: 2009 年 7 月 5 日.

松田征也 (2009) ニッポンバラタナゴ. *文部科学時報*, No. 1606, 文部科学省: 2009 年 11 月 10 日.

松田征也 (2010) 琵琶湖なしでは、生きられない! [第 6 話]. *poplead*, 22, 株式会社エヌイーエフ: 23.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2009 年 10 月 14~15 日) (社) 日本動物園水族館協会・種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会. 志摩マリンランド (志摩市), [運営].

松田征也・小林 徹 (2009 年 10 月 20 日) ハリヨの生息域外保存について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

松田征也・小林 徹 (2009 年 11 月 11~12 日) ハリヨの生息域外保存について. 第 16 回種保存会議, (社) 日本動物園水族館協会, 平安会館 (京都市), [ポスター発表].

松田征也 (2009 年 11 月 12 日) (社) 日本動物園水族館協会・第 16 回種保存委員会魚類部会. 平安会館 (京都市) [運営].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館収蔵水族資料の遺伝的多様性保持に関する研究」，（2009年度）。

「ハリヨ生息域外保全モデル事業」（研究代表者：松田征也），（2009年度）。

「超音波テレメトリー法をもちいたフナ類の繁殖期における行動生態に関する研究」（研究代表者：山根 猛），
共同研究者（2009年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件。

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月5日，琵琶湖の貝類の観察，滋賀県中学校理科部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月11日，琵琶湖の概要と水族展示室の解説，滋賀県教育委員会，平成21年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2009年9月5日，～自然に学び、自然に親しむ～，大津市自然環境保全課，自然家族事業第5弾，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2009年5月4日，ギャラリー展示「つかんだ・つんだ・いつもいた」展示パネルの作成内容について，京エコロジーセンター，琵琶湖博物館。

2009年5月13日，カワバタモロコの飼育下繁殖の方法について，徳島県立農林水産総合技術支援センター。

2009年5月16日，オオサンショウウオの飼育について，三重県立博物館。

2009年6月10日，JICA研修，琵琶湖博物館。

2009年6月18日，自治省専門官，琵琶湖博物館。

2009年7月2日，姫路市立水族館，琵琶湖博物館。

2009年11月10日，宮島水族館，琵琶湖博物館。

2009年11月13日，環境省中部地方環境事務所野生生物課，琵琶湖博物館。

2010年3月20日，なかがわ水遊園，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2009年4月14日，テレビ東京，所さんの学校では教えてくれないそんなところ！，撮影協力，（2009年4月14日取材）。

2009年5月4日，産経新聞，ギャラリー展示取材「姉川地震から学ぼう」，展示紹介，（2009年5月3日取材）。

2009年5月30日，びわ湖放送，持続可能な滋賀社会 どこにいった滋賀のメダカ，撮影協力，（2009年5月19日取材）。

2009年6月29日，読売新聞，イチモンジタナゴ琵琶湖博物館で展示，展示紹介，（2009年6月24日取材）。

2009年7月5日，京都新聞，イチモンジタナゴ稚魚遊泳，展示紹介，2009年7月5日取材）。

2009年7月9日，中日新聞，イチモンジタナゴ，展示紹介，（2009年7月5日取材）。

2009年8月3日，読売新聞，希少なスジシマドジョウ，展示紹介，（2009年7月31日取材）。

2009年8月25日，産経新聞，琵琶湖の絶滅危惧種スジシマドジョウ，展示紹介，（2009年8月13日取材）。

2010年1月4日, 読売新聞, 虎にちなんだ昆虫 鳥の標本 54点展示, 展示紹介, (2010年1月3日取材).

2010年1月12日, 産経新聞, 寅づくし資料 63点, 展示紹介, (2010年1月5日取材).

2010年1月26日, 関西テレビ, スーパーニュース アンカー, トピック展示「トラ・虎・タイガー」紹介, (2010年1月14日取材).

2010年1月15日, フジテレビ, ホンネの殿堂 ～紳助にはわかるまいっ～, 魚類紹介, (2010年1月13・14日取材).

2010年1月25日, 京都新聞, 高島にも外来シジミ, コメント, (2010年1月19日取材).

2010年3月3日, 京都新聞, 最大級タテボシガイ発見, コメント, (2010年2月24日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース, 写真提供, 30件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

滋賀県立大学よりハッタミミズの受け入れ, 受け入れと展示担当.

姫路市立水族館よりハリヨ(醒ヶ井産)の受け入れ, 当館系統保存群への補充, 150尾.

他博物館・機関の活動

近畿大学農学部, 希少淡水魚6種の精子およびヒレの提供, 2件.

宮津エネルギー研究所水族館, ムサシトミヨ, 分譲.

岐阜経済大学, ウシモツゴ, 分譲.

水道記念館, イチモンジタナゴ, 分譲.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「百年前の大震災～姉川地震に学ぶその備え～」, 展示準備.

C展示室コレクションギャラリー, 烏丸半島(花), 展示更新.

C展示室コレクションギャラリー, 烏丸半島(鳥), 展示更新.

C展示室コレクションギャラリー, 烏丸半島(種子), 展示更新.

C展示室コレクションギャラリー, 河川の魚類・貝類(淡水貝類), 展示更新.

C展示室コレクションギャラリー, 湿地植物1引き出し, 展示更新.

C展示室コレクションギャラリー, 湿地植物2引き出し, 展示更新.

C展示室里山, キノコ種名板, 企画制作.

水族トピック展示「産卵期を迎えたカネヒラ」, 企画.

水族トピック展示「オヤニラミの幼魚」, 企画.

水族トピック展示「天然記念物アユモドキの幼魚」, 企画.

水族トピック展示「スジシマドジョウ小型種琵琶湖型の幼魚」, 企画.

水族トピック展示「天然記念物 イタセンパラの稚魚」, 企画.

水族トピック展示「イチモンジタナゴの稚魚」, 企画.

水族トピック展示「ムサシトミヨの稚魚」, 企画.

水族トピック展示「日本最長のミミズ ハッタミミズ」, 企画.

トピック展示「トラ・虎・タイガー」, 企画運営.

他博物館・機関の活動

京エコロジーセンター，ギャラリー展示で製作したパネル貸し出し，5点。
京都市環境保全活動センター，2009年6月6日～7月29日，企画展示「水のめぐみ」，資料貸与。
アメリカ自然史博物館，2010年3月10日，巡回展示「パール」，展示協力。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当。
研究用アルコール管理，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1999年～，守山湖岸再生部会，委員。
2000年～，木浜内湖再生部会，委員。
2004年～，淀川水系アユモドキ連絡協議会（環境省），委員。
2005年～，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，検討委員。
2005年～，瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発ワーキンググループ（国土交通省），委員。
2009年～，さいかち浜湖岸保全対策地域協議会（長浜土木事務所），委員。
2009年度，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，ニッポンバラタナゴ種別調整者。
2009年度，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別調整者。

専門学芸員

研究部生態系研究担当

(兼) 事業部交流担当グループリーダー

2009年度は、2008年度より始めたテレメトリーを使った琵琶湖内におけるビワマスの行動追跡調査を引き続き行ったのと、耳石の微量元素を用いた個体群構造の解明に関する調査を行った。前者については、引き続き近畿大学の山根教授のチームと共同で行い、2009年度は小糸網による漁獲調査と併せて行うとともに、超音波発信器を用いた行動追跡の予備的な調査も行った。一方、後者については、東京大学海洋研究所の大竹教授らとともに共同研究として行い、湖内におけるサンプリングと河川における降湖前の稚魚のサンプリングおよび、比較のための生息地の水のサンプリング等を行った。前者の研究によって、ビワマスがかなり広範囲に移動していることがわかってきたが、詳細な研究の方向性を決めることについては、もう少し調査を進める必要がある。後者については、まだサンプルの分析が進んでいないことから、明確なことはいえないが、これまで言われているよりは母川帰帰率は低い可能性が示唆された。これらの研究については、今年度日本大学生物資源科学部で開催された平成22年度日本水産学会春季大会で口頭発表を行った。

また、10月には台湾でInternational Symposium on Formosa Landlocked Salmon and Masu Salmonが開催された。日程的にビワマス漁の見学会と重なってしまったため、2日間のみ参加となったが、このシンポジウムにおいて、The extent of hybridization between Biwa salmon and Red-spotted masu salmon in Lake Biwa, Japanと題し、2008年度まで行ったビワマスに関する共同研究の内容の一部について口頭発表を行った。

事業では、2009年度より交流担当のグループリーダーを行うとともに、観察会や講座等の運営を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2009) 琵琶湖なしでは、生きられない! [第3話]. *poplead*, 19, 株式会社エヌイーエフ: 25.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・高橋 洋・来見誠二(2009年7月17日) ビワマス河川残留型個体群存在の可能性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Kuwahara, M., Iguchi, K., Takahashi, H., Kikko, T. and Kurumi, S. (2009年10月23日) The extent of hybridization between Biwa salmon and Red-spotted masu salmon in Lake Biwa, Japan. International Symposium on Formosa Landlocked Salmon and Masu Salmon, Department of Aquaculture Taiwan National Ocean University, National Taiwan Normal University (Taipei), [口頭発表].

神村裕之・桑原雅之・光永 靖・山根 猛(2010年3月27日) 琵琶湖におけるビワマスの水平・鉛直移動. 平成22年度日本水産学会春季大会, 社団法人日本水産学会, 日本大学生物資源科学部本館(神奈川県藤沢市), [口頭発表].

天野洋典・桑原雅之・白井厚太郎・高橋俊郎・天川裕史・大竹二雄(2010年3月28日) 耳石の微量元素組成におけるビワマス遡上魚の個体群構造. 平成22年度日本水産学会春季大会, 社団法人日本水産学会, 日本大学生物

資源科学部本館(神奈川県藤沢市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」, (2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査:分類学,形態と分子に基づく系統学」(研究代表者:マーク・ジョセフ・グライガー), 共同研究者(2009年度).

「テレメトリーによる琵琶湖内におけるビワマスの行動追跡」(研究代表者:山根 猛), 共同研究者(2009年度).

「耳石の微量元素組成を用いたビワマスの個体群構造の解明に関する研究」(研究代表者:大竹二雄), 共同研究者(2009年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2009年8月5日, 交流事業の概要, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月25日, 漁船に乗ってビワマス魚を見てみませんか, 琵琶湖博物館観察会, 湖北町, 副担当, (協力:朝日漁協、磯田能年と共同).

2009年9月20日, アユの産卵用人工河川を見てみませんか, 琵琶湖博物館観察会, 高島市, 副担当, (協力:滋賀県水産振興協会, 磯田能年と共同).

2009年10月25日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 琵琶湖博物館観察会, 高島市, 主担当, (協力:百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、磯田能年と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月22日, 夏と冬の魚の種類の違い, 竜王町新村自治会, 観察会, 新村公民館(竜王町), 講師.

メディアへの協力

2009年4月11日, 朝日放送, おはよう朝日土曜日です・ビワマス, 出演, (2009年4月7日取材).

2009年7月15日, NHK, ふるさと一番・はしかけ, フィールドレポーター, レストラン, 出演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年7月18日~9月6日, 水族企画展示「バックボーンができるまで」, 主担当.

2009年度, 水族トピック展示, 2件.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 交流事業の概要, 講師, 2件, 2009年4月14・15日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 交流事業の考え方, 講師, 2009年10月9日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年10月22日～24日，台湾，シンポジウム参加・発表.

【館外の活動】

2009年度，(社)日本動物園水族館協会設備会議，幹事.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。今年度から企画調整課長になったことから、企画調整課内事務の総括を中心に博物館活動を行った。企画調整課では、中長期基本計画の推進、広報・経営戦略会議の運営などを担当した。交流事業については、6件の観察会・講座を担当した。

研究成果の発信としては、専門研究の成果が日本生物地理学会会報に掲載された。この論文は、滋賀県のゴミムシ類の調査、および琵琶湖博物館収蔵の標本調査の結果を総合し、滋賀県から77属200種を記録したものである。63種が滋賀県から新記録の種であること、4種が滋賀県固有の種であることを明らかにした。また、「ねじればね」に掲載された「滋賀県のコメツキムシ類の記録」は、博物館の収蔵標本を調べて滋賀県のコメツキムシ類をまとめた成果である。これらの研究成果は滋賀県の昆虫相解明の基礎資料となる。さらには、研究成果の発信という側面だけではなく、資料活用成果としても位置づけられる。

昆虫化石の共同研究、専門研究に関するものなど合計7件の専門分野の著述がある。一般向けの著述としては、中日新聞「湖岸より」に10月より月1回のペースで連載をはじめた。昆虫を通して琵琶湖やその周辺地域、博物館を眺めた話を掲載している。また、新琵琶湖学専門セミナーにおいて「DNAで探る琵琶湖地域のオサムシ類の系統進化」というタイトルで講演し、一般向けにわかりやすく共同研究の成果を発表した。

印刷物

【学術論文】

八尋克郎（2009）滋賀県のゴミムシ相. *日本生物地理学会会報*, 64 : 111-121.

【専門分野の著作】

林 成多・八尋克郎・北林栄一（2010）長崎県壱岐市の芦辺層群八幡累層から産出した鮮新世の甲虫化石. *甲虫ニュース*, 168 : 11-12.

八尋克郎（2009）「新訂原色昆虫大図鑑第II巻（甲虫篇）」におけるオサムシ科の和名・学名の変更. *地表性甲虫談話学会会報*, 9 : 1-6.

八尋克郎（2009）イチゴを加害するゴミムシ類2種の生態的知見. *地表性甲虫談話学会会報*, 9 : 6-7.

八尋克郎（2009）滋賀県内におけるラクダムシの記録. *Came 虫*, 152 : 12.

八尋克郎（2009）滋賀県におけるラクダムシの追加記録. *Came 虫*, 153 : 4.

八尋克郎・岸井 尚（2009）滋賀県のコメツキムシ類の記録. *ねじればね*, 125 : 4-12.

八尋克郎（2009）オサムシ科の分類. *昆虫と自然*, 44 : 29-33.

【一般向けの著作】

八尋克郎（2009）湖岸より 35 洞窟の魅力は神秘さ. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2009年11月28日.

八尋克郎（2009）湖岸より 39 警戒発する“虎柄模様”. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2009年12月26日.

八尋克郎（2010）湖岸より 43 日高先生の教えに学ぶ. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年1月30日.

八尋克郎（2010）湖岸より 47 身近な動植物、標本や写真に. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年2月27日.

八尋克郎（2010）湖岸より 51 人と自然のかかわり合い. *中日新聞*, 中日新聞社 : 2010年3月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎・曾田貞滋・長太伸章・久保田耕平（2009年6月28日）近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

八尋克郎（2010年2月19日）イチゴに被害をおよぼすゴミムシ類. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究」, (2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク・J・グライガー）, 研究協力者（2006年度～2010年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会, 近畿支部自然保護委員, 2003年度～.

滋賀オサムシ研究会, 事務局. 1997年度～.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度～.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年7月4日, 昆虫観察会, 希望が丘文化公園自然観察会, 希望が丘文化公園・竜王町, 講師, (澤田弘行氏共同).

2009年7月26日, 昆虫採集および同定, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, (南 尊演氏、武田 滋氏、高橋和征、榊永一宏共同).

2009年8月6日, 企画調整課の概要, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年12月12日, DNAで探る琵琶湖地域のオサムシ類の系統進化, 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2009年6月13日, ホタルの観察会, 真野北公民館, 大津市融神社, 講師.

2009年8月5日, 博物館周辺で昆虫採集をしよう, 自然調査ゼミナール, 滋賀県中学校理科部会, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月11日, 昆虫から見る琵琶湖, 環境教育研究協議会, ILEC 研修室(草津市), 講師.

2009年9月26日, 甲賀地域里山の虫たんけんーアカトンボやバッタたちー, 甲賀市立佐山小学校周辺(甲賀市).

2009年12月12日・2010年1月9日, 班ごとの学習担当, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導・助言, 2件.

視察対応

2009年12月10日, 中長期基本計画の概要, 佐賀城本丸歴史館, 琵琶湖博物館.

2010年2月16日, 展示案内, 国立科学博物館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年6月6日, 朝日新聞, テントウムシ模様調査, (2009年6月4日取材).
2009年6月10日, 毎日新聞, テントウムシ生息調査, (2009年6月8日取材).
2009年6月13日, 読売新聞, テントウムシ分布調査, (2009年6月10日取材).
2009年6月20日, 中日新聞, 身近なテントウムシ採集初の全県分布調査, (2009年6月15日取材).
2009年6月20日, 京都新聞, テントウムシ生息調査, (2009年6月15日取材).
2009年6月24日, 毎日新聞, ホタルはどこで見られるの?, (2009年6月22日取材).
2009年6月25日, 産経新聞, このテントウムシの種類は?, (2009年6月23日取材).
2009年7月31日, FM滋賀マイ・エコロ・スタイル (ナナイロ), 琵琶湖博物館の紹介とテントウムシ調査. 取材
2010年1月12日, NHK おうみ発610〜QP ハートプラザ〜, 新春よし笛コンサートの紹介, 出演.
2010年1月4日, 読売新聞, お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!?', (2010年1月4日取材).
2010年1月5日, 中日新聞, お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!?', (2010年1月4日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

query の質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 6件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ, 1件.
資料の貸出し, 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!?', 昆虫分野担当.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 琵琶湖博物館の中長期基本計画, 2009年4月14日, 講師.
滋賀県博物館協議会理事会, 2009年6月30日, 運営.
滋賀県博物館協議会総会, 2009年7月8日, 運営.
ふれあい体験室オープニングセレモニー, 2009年7月11日, 司会進行.
企画展示「骨の記憶」オープニングセレモニー, 2009年7月18日, 司会進行.
琵琶湖博物館特別講演会, 運営.
700万人突破記念式典, 2009年8月30日, 司会進行.
新春よし笛コンサート, 2010年1月24日, 司会進行・運営.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会, 企画委員.

【館外の活動】

2003年7月1日〜, 滋賀生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員.

専門学芸員

研究部生態系研究担当

（兼）事業部資料活用担当グループリーダー

2009年度は、複数の研究プロジェクトが最終年度にあたり、それに関連した論文や報告書作成、学会発表を行った。具体的な研究成果としては、平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」の成果として、長野県千曲川における冬期のカワウの食性についての論文を共著で発表した。

また、琵琶湖博物館共同研究および河川環境整備財団助成の研究成果の一部として、「カワウ営巣林における森林衰退一回復過程解明の試みー空中写真判読と人文・社会科学的手法を用いた調査方法の検討ー」という演題の発表を、第57回日本生態学会において行った。また、昨年度の日本生態学会大会のシンポジウム「水田をめぐる群集生態学最前線ーマイクロからマクロまで」の特集論文を、日本生態学会誌にて掲載することとなっており、その一つの論文を担当し、執筆と投稿を行った。海外の研究ネットワーク、SEAPRE: Seabird Islands and Introduced Predators: Impacts of Presence and Eradication on Island Function（海鳥の生息する島と移入捕食者：海鳥、捕食者の存在と除去が島の機能に与える効果）”においては、出版予定の本について、共著者としてデータの提供や執筆の協力を行った。

自らの研究活動の他に、専門分野の研究交流や研究推進の一環として、日本鳥学会や日本生態学会の役員や地区会の運営なども、引き続き行った。また、様々な雑誌の投稿論文の査読も行った。研究成果の発信や社会還元としては、NHKの科学番組制作への協力や、県の複数部署のカワウ対策に関する協議会等への参加と協力、滋賀県生きもの総合調査委員会の専門委員として県内鳥類情報の収集やまとめ、レッドデータブック改訂の準備などを行った。特に2009年度は、滋賀県特定鳥獣保護管理計画（カワウ）の策定に対して多くの協力を行った。その他としては、小・中学生に対して、琵琶湖の鳥類やカワウについての講座や実習の対応も行った。

事業部の業務については、資料活用担当グループリーダーとして、引き続き資料の保存や収蔵庫空間の環境整備、資料の活用について、全体の調整や推進を行った。当館の資料収蔵設備は、開館後10年以上を経てさまざまな不具合や故障が生じてきているのが現状ではあるが、資料活用担当グループ員の協力により、可能な範囲での改善はかなり進めることができた。

印刷物

【学術論文】

Natsumeda, T., Tsuruta, T., Kameda, K., and Iguchi, K. (2010) Winter Feeding of the Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo hanedae*) in a Temperate River System in Japan. *Journal of Freshwater Ecology*, 25(1) : 41-48.

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より4 琵琶湖にかかる虹に微笑. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年4月25日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より8 鳥研究に“親バカ”発揮. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年5月23日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より12 用意周到 研究者の鉄則. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年6月20日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より16 野生生物とは適度な距離を. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年7月18日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より20 すごい生き物の季節感. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年8月15日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より24 大切な資料の保存. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年9月12日.

- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より 28 自然の変化 冷静に考えて. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年10月10日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より 32 鳥の行動調査に最新技術. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年11月7日.
- 亀田佳代子 (2009) 湖岸より 36 水鳥観察に最適な冬場. *中日新聞*, 中日新聞社: 2009年12月5日.
- 亀田佳代子 (2009) 琵琶湖なしでは、生きれない! [第5話]. *Poplead*, 21, 株式会社エヌイーエフ: 22.
- 亀田佳代子 (2010) 湖岸より 40 専門知識と現実の世界. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年1月9日.
- 亀田佳代子 (2010) 湖岸より 44 鳥の鳴き声地域で特徴. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年2月6日.
- 亀田佳代子 (2010) 湖岸より 48 研究対象の動物に似る. *中日新聞*, 中日新聞社: 2010年3月6日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2009年4月19日) 日本鳥学会員近畿地区懇談会第95回例会・特別講演. 日本鳥学会員近畿地区懇談会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画・運営].
- 亀田佳代子 (2009年12月13日) 日本生態学会近畿地区会2009年度第2回例会, 日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [企画・運営].
- 亀田佳代子・新妻靖章・井口恵一郎・棗田孝晴・大友芳成・田中英樹・岩田靖宏・都築 基 (2010年2月23日) カワウ被害評価のための餌魚種選好性の解明. 平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, (独)水産総合研究センター中央水産研究所上田庁舎 (長野県上田市), [口頭発表].
- 日野輝明・石田 朗・亀田佳代子 (2010年2月23日) カワウ被害軽減のための効果的なコロニーおよびねぐら管理手法の開発. 平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, (独)水産総合研究センター中央水産研究所上田庁舎 (長野県上田市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2010年2月25日) 琵琶湖博物館生態系研究領域の研究として行ってきたこれまでの研究とこれからの研究. 琵琶湖博物館研究部生態系研究領域会議, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子・藤井弘章・前迫ゆり・石田 朗・牧野厚史 (2010年3月17日) カワウ営巣林における森林衰退一回復過程解明の試み—空中写真判読と人文・社会科学的手法を用いた調査方法の検討—. 第57回日本生態学会大会, 東京大学教養学部/大学院総合文化研究科 (東京都目黒区), [口頭発表].
- 亀田佳代子・岩田靖宏・大友芳成 (2010年3月30日) カワウの餌魚種選好性—胃内容物と魚類相の比較—. 平成22年度日本水産学会春季大会シンポジウム「カワウによる漁業被害防除の方策—カワウ問題の抜本的な解決をめざして—」, 日本大学生物資源科学部 (神奈川県藤沢市), [口頭発表].
- 日野輝明・石田 朗・亀田佳代子 (2010年3月30日) カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理手法. 平成22年度日本水産学会春季大会シンポジウム「カワウによる漁業被害防除の方策—カワウ問題の抜本的な解決をめざして—」, 日本大学生物資源科学部 (神奈川県藤沢市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- National Science Foundation (NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN) 「SEAPRE : Seabird Islands and Introduced Predators : Impacts of Presence and Eradication on Island Function」 (研究代表者: Christa Mulder), 研究分担者 (2007~2009年度).
- 平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」 (研究代表者: 村上眞裕美), 研究分担者 (2007~2009年度).
- 河川環境整備財団河川整備基金助成「カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討」 (研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2010年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善),
共同研究者 (2007~2011 年度).

琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林における森林衰退ー回復過程の解明:異地性流入モデル構築のための調査方法の検討」(研究代表者:亀田佳代子), 研究代表者 (2007~2009 年度).

琵琶湖博物館専門研究「鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討」, (2009 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会庶務幹事, 2007 年 4 月~2009 年 12 月.

日本鳥学会会計幹事, 2010 年 1 月~2011 年 12 月.

日本鳥学会評議員, 2006 年 1 月~2011 年 12 月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000 年 1 月~.

日本生態学会近畿地区委員, 2008 年 1 月~2009 年 12 月.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員, 2008 年 1 月~2010 年 12 月.

International Association of GeoChemistry 「Applied Geochemistry」 査読, 1 件.

「Trees - Structure and Function」, 査読, 1 件.

日本鳥学会「日本鳥学会誌」, 査読, 1 件.

陸水生物研究会「陸水生物学報」, 査読, 1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009 年 8 月 1 日, 京都造形芸術大学通信教育部ランドスケープデザインコーススクーリング講義, 「琵琶湖周辺のカワウの生態について」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9 件.

2009 年 8 月 4 日, 琵琶湖博物館の資料の特徴の講義, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2009 年 12 月 12 日, 水鳥を観察しようー色とりどりの冬の水鳥たちー, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.

2009 年 12 月 20 日, からすま半島の水鳥を観察してみよう, 観察会, 烏丸半島周辺・草津市, 主担当, (日本野鳥の会滋賀支部・はしかけグループ「びわたん」共催).

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 4 月 7 日, ウミスズメの解剖に関する指導と実習, 長島の自然を守る会, 琵琶湖博物館, 実習指導.

2009 年 6 月 21 日, 琵琶湖におけるカワウ研究の成果について, 第 4 回日本野鳥の会滋賀支部総会講演, 琵琶湖博物館, 講師.

2009 年 10 月 24 日, 滋賀県の鳥とその調査法, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講義.

2009 年 10 月 28 日, カワウの胃内容物分析に関する指導と実習, (株) イーグレットオフィス・岐阜大学, 琵琶湖博物館, 実習指導.

2009 年 12 月 12 日・2010 年 1 月 9 日, 班ごとの学習担当, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導・助言, 2 件.

2010 年 3 月 14 日, 滋賀県獣医師会救護野鳥研修会, 滋賀県獣医師会, 琵琶湖博物館, 運営.

メディアへの協力

2009年6月12日, 朝日新聞, 読者からの鳥の写真(カルガモの人工物繁殖)について, (2009年6月11日取材).
2009年8月19日, NHK 科学・環境番組部, 特集番組「ちょっと変だぞ 日本の自然 IV」, 竹生島のカワウとその影響について, (2009年4月10, 28日, 6月16日取材).
テレビ朝日, 「スーパーJチャンネル」, カワウの基本的生態について, (2009年4月30日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類剥製標本及び骨格標本の製作, 手続き, 主任, 44件.
鳥類標本提供, 受入・整理, 主任, 33件.
資料の貸出(多賀町立博物館企画展), 手続き.
資料活用担当事務の総括に関する事.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう, 内容指導, 4件.
繁忙期の展示室安全および交流対応, 3日.
2011年度企画展基本設計会議, 7回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 図書室の説明, 講師, 2009年4月15日, 琵琶湖博物館.
新任職員等研修, C展示室生きものコレクションコーナー(鳥類)の説明, 講師, 2009年4月22日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究交流室の管理に関する事, 主任.

館内の人事・館外活動等に関する事

【館外の活動】

1997年4月1日～2010年3月31日, 京都大学生態学研究センター, 協力研究員.
2006年6月1日～2010年3月31日, 滋賀県外来種問題検討委員会, 委員.
2006年8月1日～2011年3月31日, 滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会, 専門委員.
2006年7月12日～2010年3月31日, 農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ, 委員.
2006年10月1日～2010年3月31日, 滋賀県カワウ総合対策計画検討協議会, 委員.
2007年11月27日～2011年11月26日, 大津市環境審議会, 委員.
2008年3月12日～2010年3月31日, 滋賀県カワウ漁業被害防止対策検討会, 委員.
2009年3月11日～2012年3月31日, 滋賀県カワウ保護管理計画検討委員会, 委員.
2010年2月20日～2011年3月31日, 滋賀県竹生島の保安林機能の維持および回復に関するワーキンググループ, 委員.

専門学芸員

研究部生態系研究担当

（兼）事業部展示担当

（兼）滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課

本年度から自然環境保全課との兼務となったため、前年度中に開始もしくは計画されていた共同研究を推進することに専念した。それらは、①地域社会から見たカワウによる森林被害についての研究、②地域社会から見た水田における生物多様性回復の価値についての研究、③地域社会におけるレジデント型研究機関の役割とその可能性についての研究である。①については、本年度は、他の大型ほ乳類による獣害への対処との比較に重点をおいて研究を進めた。②については、琵琶湖湖岸域の村落を対象として、近現代における水田利用の歴史的変遷に関するデータの収集に努めた。また、比較のための事例値として、秋田県八郎湖周辺地域、さらに国外の事例として東アジアの湖沼である中国太湖周辺地域を定め調査を行った。③については、博物館の役割についての検討を担当し、共同研究に参加して全国各地の人々と議論を深めるとともに、自らも地元でのワークショップや、ワークショップをふまえた社会調査を試みた。博物館の事業としては、琵琶湖博物館が主催する交流事業に寄与するとともに、平成23年度に開催される企画展示についての構想立案に展示グループの一員として参画した。

印刷物

【学術論文】

牧野厚史・楊 平（2009）東アジア湖沼の環境問題と住民－日本と中国における湖畔の村の環境問題－. *21世紀東アジア社会学*, 2: 56-74.

【専門分野の著作】

牧野厚史（2009）半栽培から住民参加へ－琵琶湖のヨシをめぐる住民活動から－. 宮内泰介 編, *半栽培の環境社会学*, 昭和堂, 京都: 227-247.

【一般向けの著作】

牧野厚史（2009）人の暮らしと密着する湧き水. *自然保護*, 510, 日本自然保護協会: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史（2009年4月17日）カワウを飼い慣らす－「半家畜」の視点から見た鳥獣被害問題－. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 「口頭発表」.

牧野厚史（2009年6月7日）日中社会学叢書の成果・課題・展望, 日中社会学会第21回大会シンポジウム, 日中社会学会, 名古屋大学（名古屋市）, [司会].

牧野厚史（2009年9月7日）レジティマシー（正当性）概念とレジデント型研究機関. 地域主導型科学者コミュニティの創生プロジェクト研究会, WWF サンゴ礁保護研究センター・しらほサンゴ村（石垣市）, 「口頭発表」.

牧野厚史（2009年10月31日）文化としての鳥獣被害－心意と政策をむすぶもの. 日本村落研究学会第57回大会

テーマセッション, 日本村落研究学会, ホテル広子園 (綾部市), [座長].

牧野厚史・楊 平 (2009年11月4日) Is Large-scale Organic Rice farming around Lake Biwa Sustainable? .
第13回世界湖沼会議 (中国・武漢市), 「口頭発表」.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林の森林衰退一回復過程のモデル検証」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2010年度~2011年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2008年度~2010年度).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 共同研究者 (2009年度~).

研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」研究開発プロジェクト「地域社会主導型科学者コミュニティの創生」(研究代表者: 佐藤 哲), 共同研究者 (2008年度~).

文部科学省科学研究費補助金(C)「巨大干拓事業による潟湖コモنزの崩壊と再生に関する社会学的研究」(研究代表者: 谷口吉光), 共同研究者 (2008年度~2010年度).

文部科学省科学研究費補助金(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」(研究代表者: 水野章二), 共同研究者 (2007年度~2009年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会, 理事, 2008年度~.

日本環境社会学会, 編集事務局長, 2009年度~2010年度.

環境社会学会, 環境社会学研究, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年4月~7月, 龍谷大学社会学部, 「琵琶湖・滋賀学」(非常勤講師).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館主催行事

2009年8月2日, 第3回博物館による「環境と科学のフェスティバル」, 環境と科学のフェスティバル実行委員会, ワークショップ, 彦根ビバシティ (彦根市), 担当.

他の博物館・機関等主催行事

2009年7月21日, 琵琶湖の水・環境を守る暮らしとは?, 矢倉公民館, 第2回環境講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年9月19日, 人がつくりだした景観を守る意義, 守山市埋蔵文化財センター, 「歴史入門講座」第4回, 守山市埋蔵文化財センター (守山市), 講師.

2009年11月28日, 平成21年度淡海こどもエコクラブ活動交流会, 滋賀県環境学習支援センター, 琵琶湖博物館, [選考委員].

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.

2011 年度企画展示「湖と森を結ぶ鳥カワウ」（仮称），メンバー。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C 展示室の説明，講師，2009 年 4 月 21 日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009 年 11 月 1 日～10 日，中国武漢市及び無錫市周辺，第 13 回世界湖沼会議への参加および太湖周辺水田の調査。

【館外の活動】

2007 年度～，国交省琵琶湖河川事務所，水陸移行帯ワーキンググループ。

2007 年度～，高島市，文化景観保存活用検討委員。

2007 年度～，草津市「風景の記憶絵」製作プロジェクト会議，メンバー。

専門学芸員

研究部生態系研究担当

（兼）事業部展示担当

2009年度は南湖の沈水植物の繁茂状況のモニタリングを行ったほか、南湖の沈水植物に関する過去の文献の再検討を進めた。学術的な著述としては、水環境学会誌に南湖の沈水植物の状況に関する短いレビューが掲載された、2007年度にフィールドレポーター調査で行った県下のボタンウキクサの分布調査の結果を陸水学雑誌に投稿し、受理された（2010年4月掲載予定）。

事業関連としては2010年度に企画展「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～」を開催するための準備として、琵琶湖の湖底に関連する文献を収集し、整理した。

印刷物

【専門分野の著作】

芳賀裕樹（2009）琵琶湖の水草問題. 水環境学会誌, 32, (社) 日本水環境学会 : 242-244.

【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2009）琵琶湖なしでは、生きられない！ [第4話]. *poplead*, 20, 株式会社エヌイーエフ : 32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹（2010年1月15日）博物館のユニバーサルデザインとは何か？～理解のための整理の試み～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

芳賀裕樹（2010年2月19日）南湖における水草の長期変遷. 第9回湖岸生態系保全・修復研究会「南湖生態系の長期変化と水草繁茂」, 琵琶湖環境科学研究センター, びわ湖大津館（大津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「新規研究課題の探索ならびに南湖の沈水植物のモニタリング」, (2009年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会, 陸水学雑誌, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

他の博物館・機関等主催行事

2009年5月17日、水草の大増殖，NTT労働組合京都総支部，琵琶湖博物館，講師。

2009年6月27日，琵琶湖の水質と水利用について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講義。

2009年7月11日，琵琶湖の水質とその調査方法について，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師。

2009年7月22日，琵琶湖の水質とその調査方法について，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講義・実習，2件。

2009年7月27・28日，課題研究，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，研究相談，2件。

2009年7月31日，琵琶湖の水質とその調査方法について，滋賀県立膳所高等学校，スーパーサイエンスハイスクール，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月5日，湖の環境とくらし，日野町教育委員会，環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月12日，水草の大増殖，滋賀県教育委員会，琵琶湖博物館，講師。

2009年10月22日，琵琶湖の水質とその調査方法について，甲西北中学校，琵琶湖博物館，講師。

2009年11月7日，琵琶湖の水質とその調査方法について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講義。

2009年2月13日，水草の大増殖，草津市第9回草津市こども環境会議，草津市役所（草津市），ポスター発表。

メディアへの協力

2009年9月5日，読売テレビウェークアッププラス，水草に関する情報提供，（2009年7月15日取材）。

2010年2月，リレーション（関西電力情報誌），琵琶湖博物館の展示趣旨と特徴に関するインタビュー，（2009年9月29日取材）。

2009年10月15日，朝日新聞「湖底は水草の森」／県、財政難で対策苦慮水草に関する情報提供。

2010年1月，レクサスマガジン（トヨタ），琵琶湖の水質の概要水質改善の取り組みなど情報の提供，（2009年10月16日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，展示・施設の概要，講師，2009年4月15日，琵琶湖博物館。

主任主査

研究部生態系研究担当

(兼) 事業部交流担当

かつての琵琶湖周辺の水田は、フナ・ナマズ・コイなどの格好の産卵・成育の場であったが、多数のクリークや沼に囲まれた湿地帯で田舟による農作業を強いられ、洪水時には浸水被害を受ける地域であった。その後、湖岸堤防の建設やほ場整備事業などの進展により、農業の生産性・食料増産などは図れたが、生息環境の物理的変化や移動経路の分断等により水田地帯の魚類は減少した。そこで、水田生態系を再生する目的で滋賀県では2001年から「魚のゆりかご水田プロジェクト」を始め、2004・2005年には堰上げ全面魚道施設の開発、さらにその産卵・繁殖効果を検証し、魚のゆりかご水田の取り組み面積は拡大していった。

一方魚のゆりかご水田の構造的技術は魚のゆりかご水田技術指針(2006.3)において制定されたが、2007年以降本調査は一部の地域を除き行われず、実施地区の検証はされていない。

そこで、本年度の専門研究は、2009年度野洲市で実施された魚のゆりかご水田の調査・検証とその構造的特性を明らかにし、その成果は地域にフィードバックすることにより、今後の地域活動に役立てることを目的としている。

調査期間は2009年4月末～6月末、野洲市で魚のゆりかご水田を実施している4集落を調査対象(A=32.4ha)とし、降雨後の各施設の水深や魚類の遡上、稚魚繁殖の目視・たも網調査など、さらに中干し時における堰上げ水路のモニタリング調査と各水田からの稚魚流下調査を行った。本調査結果から、魚のゆりかご水田はほ場整備された水田において、良好な施設と適正な管理がされておれば、水田に魚類を侵入・産卵・繁殖させる有効なシステムであり、その効果は野洲市においても実証された。また、堰上げ水路のモニタリング調査と水田の稚魚流下調査結果から、「排水路」は水田とほぼ同等の産卵・繁殖機能があることがわかったので、来年度排水路における有意性をさらに検証するため、現地にて排水路の新たな生態系保全工法の実証・実験を行う。

また総合研究では、「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」について共同研究者として加わった。

印刷物

【一般向けの著作】

裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・中島経夫・里口保文 編 (2009) うみっこ通信. 2, 琵琶湖博物館: 4p.

裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・前畑政善・ロビン・ジェームズ・スミス 編 (2010) うみっこ通信. 3, 琵琶湖博物館: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

裕 登志之 (2010年2月3日) 魚のゆりかご水田からの新たな生態系保全工法の提案. 平成21年度滋賀県農業土木技術研究発表会, 水土里ネット滋賀(東近江市), [口頭発表].

裕 登志之 (2010年3月19日) 魚のゆりかご水田実施地区の検証と構造特性について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田地域における生態系保全・再生について」,(2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善),
共同研究者(2009年度).

【受賞など】

平成21年度滋賀県農業土木技術研究発表会,2010年2月3日,優秀賞(第2位).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク,琵琶湖博物館C展示室,10件.

2009年度,里山体験教室,野洲市,副担当,3件.

2009年度,工房田んぼ行事,琵琶湖博物館生活実験工房,主担当,12件.

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月26日,魚のゆりかご水田魚道づくり,須原魚のゆりかご水田協議会,野洲市,講師.

2009年5月26日,第2回生物多様性調査,湖南地域みずすまし推進協議会,草津市,講師.

2009年6月13日,出前講座「田んぼの役割と魚のゆりかご水田」,山田市民センター(草津市),講師.

2009年6月21日,須原魚のゆりかご水田観察会,須原魚のゆりかご水田協議会,野洲市,講師.

2009年6月21日,堤魚のゆりかご水田観察会,堤魚のゆりかご水田チーム,野洲市,講師.

2009年7月21日,田んぼと水のかかわり,滋賀県立石部高等学校,ミュージアムスクール,琵琶湖博物館,講師.

2009年8月22日,農村まるごと保全技術研修会(パート5)「農村環境と魚類や底生動物との関わり」,滋賀県世代
をつなぐ農村まるごと保全地域協議会,高島市,講師.

2009年8月24日,第6回生物多様性調査,湖南地域みずすまし推進協議会,草津市,講師.

2009年9月6日,魚のゆりかご水田オーナー制稲刈体験,須原魚のゆりかご水田推進協議会,野洲市,講師.

2009年12月10日,出前講座「H21野洲市4集落魚のゆりかご総括」,野洲市魚のゆりかご水田推進協議会,野洲市,
講師.

2010年1月23日,出前講座「琵琶湖と農業排水」,野洲市堤自治会,野洲市,講師.

2010年2月15日,話題提供「野洲市における魚のゆりかご水田調査研究」,みずすまし専門部会,滋賀県庁,講師.

視察対応

2009年6月20日,琵琶湖の水と魚のゆりかご水田,稲作まるごと体験ツアー,琵琶湖博物館.

2009年7月25日,農村まるごとと魚のゆりかご水田,高月町井口子供会,琵琶湖博物館.

2010年2月4日,生活実験工房と田畑について,東京ガス.琵琶湖博物館.

2010年2月20日,野洲市における魚のゆりかご水田の取り組み,滋賀県モロコ・フナ養殖研究会,琵琶湖博物館.

2010年3月12日,館内の施設と生活実験工房・田畑,愛知県農業土木技術士会,琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年10月19日,京都新聞,うみっこ通信取材,(2009年10月8日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の貸出(フナずし箱入りレプリカ), 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年度, 琵琶湖博物館子ども向け情報誌, 編集委員.

2009年度, 滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当, 副主幹を兼務.

【館外の活動】

2009年度, 魚のゆりかご水田ネットワーク事務局.

2009年度, みずすましネットワーク運営委員.

2009年度, 滋賀東部地区スクミリンゴガイ対策検討ワーキング担当者.

2009年度, みずすまし専門部会(水質保全専門部会)担当者.

2009年度, みずすまし構想推進・魚のゆりかご水田プロジェクト担当者.

主査

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部展示担当

平成 19 年度から河畔林の竹林の伐採処分コストの大幅削減を図るために、竹資源を活用した持続可能な維持管理モデルの構築について検討を進めている。実現に向けてはいくつか課題が挙げられるが、今年度は昨年度に引き続き 2 つのテーマについて実験を行ってきた。

1 つめのテーマは維持管理目標の設定についてである。一般的に河川の維持管理は、治水、利水、環境という目的に応じた管理、日常から洪水時までの河川の状態に応じた管理、堤防、ダム、排水機場さらには河道といった河川管理施設の種類に応じた管理というように、内容は広範・多岐にわたっている。このような広範・多岐にわたる河川の維持管理を必要な水準を確保しつつ、効果的・効率的に実施していくための具体的な仕組みづくりが河川管理者には求められている。このため、河畔林の維持管理などの環境分野においても河川環境の現状把握や目標設定による河川環境管理を展開していくことは今後益々重要であると考えられている。このような背景から今回の実験では、河畔林がもつ環境の多様性を維持するためには竹林をどの程度の密度で管理するのがよいのかという点に焦点をあて、竹林の間伐による下層植生への影響について調査を行い、その結果をもとに維持管理の指標の検討を行った。現段階で、ある一定の密度で良好な結果が得られており、整備の目安としては少しは立てられたと感じている。今後は竹以外の常緑樹の伐採も視野に入れていくと共に、次のステップとして行政と地域等が連携した維持管理活動の仕組みづくりについても検討を行い、働きかけを行っていきたいと考えている。

2 つ目のテーマは利活用方策の評価検討についてである。竹の利活用方策については様々な分野で研究開発が進んでいるが、いずれもコストや需要面で難があり現段階では普及にまで至っていないのが実状である。そんな中で、現時点で将来的に最も利用可能性が高いと期待されているのが畜産での敷料利用である。

現在、敷料として利用されているオガクズは年々入手が困難となっており、値段も非常に高くなってきていることから、竹パウダーは将来的にもオガクズの代替としてある程度の需要が見込めると予測がされている。品質等については、昨年度に日野川の伐採竹を畜産技術振興センターに持ち込んで試験をした結果、オガクズと遜色のないデータが得られており、他県の試験研究機関でもその有効性についての報告がされている。これらの実績を踏まえ、今年度は実際に畜産農家に竹パウダーを使用してもらい、現場での有効性、実用性等についての検証と、今後の利用拡大に向けた課題抽出を目的として実験を行った。結果としては、農家の反応は非常に良く、実用性については高い評価をいただくことができた。しかし、新たな課題として浮かび上がってきたのが、製造コストと竹パウダーの保管場所の問題である。これらを解決するのは一朝一夕には行かないが、今後は竹パウダーに付加価値を付けて販売していく等の工夫も必要であると思われる。そのためにも農業普及の関係機関と連携して積極的に竹パウダーの普及に取り組んでいきたいと考えている。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

臼井 学・井上太樹・横川昌史・森 小夜子・野間直彦（2010 年 2 月 19 日）間伐による下層植生の変化からみた竹林の維持管理指標の検討について、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」，(2009 年度)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館 B 展示室，10 件。

メディアへの協力

2009 年 6 月 12 日～18 日，吹田ケーブルテレビジョン，お元気ですか！市民のみなさん，琵琶湖の水道水利用についてのインタビュー，(2009 年 6 月 4 日取材)。

2009 年 12 月 9 日，京都新聞，竹との戦い！ふるさとの川をみんなで守ろう！，地域ボランティアの活動説明，(2009 年 12 月 8 日取材)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3 回。

2009 年度，常設展示維持管理，主担当。

常設展示維持管理委託，担当。

屋外植栽管理委託，担当。

ヨシ造作物製作業務委託，担当。

「近畿と琵琶湖」光ファイバーサイン修繕業務，担当。

展示交流員と話そう，内容指導（琵琶湖疏水）。

他博物館・機関の活動

土木交通部河港課，2009 年 6 月 30 日～7 月 24 日，新空間展示，「みんなが楽しかった！『近畿子どもの水辺交流会』」，企画製作。

土木交通部河港課，2009 年 12 月 8 日～2010 年 1 月 11 日，新空間展示，「竹との戦い！ふるさとの川をみんなで守ろう！」，企画製作。

土木交通部河港課，2010 年 2 月 23 日～2010 年 3 月 16 日，新空間展示，「みんなで学ぼう・広めよう・つなげよう！ぼくらのビオトープ」，企画製作。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009 年度，滋賀県土木交通部河港課河川環境担当主査を兼務。

主査

研究部生態系研究担当

（兼）事業部交流担当

近年、滋賀県内の中山間地域においては、野生動物による農林業被害が発生し、農林家、行政ともに対応に苦慮している。とくに林業被害としては、ニホンジカにより、植栽したばかりの苗木が食べられてしまう「食害」が起こっており、対策なしには森林資源の循環利用が行えない状態が続いている。私は、こうした被害を直接防ぐ「防除」をテーマに研究を行っている。防除とは、造林地や苗木を資材で取り囲み、物理的に接触できないようにする方法である。造林地の周囲を覆うものを防護柵、個々の苗木を覆うものを単木防除と呼ぶ。一方、森林には多様な機能や多様な観点が求められ、従来の単一樹種による一斉林から脱却した、多様な森づくりが、必要とされている。この一つとして、「複層林」の整備が進められている。複層林の場合、「単木防除」が使われ、各メーカーから様々なタイプの単木防除資材が製品化され販売されている。しかし単層林と異なり、複層林の場合は、上層木があることで、林内の光環境は、単層林のそれと比べて、暗く、それに加えて防除資材で苗木を被覆するので、さらに制限された光環境下での生育となる。このことにより、防除することはできても、苗木の成長を阻害してしまわないか、危惧する向きがある。このため、各種単木防除施設を設置して、資材ごとに樹高成長を比較し、複層林内でのポテンシャルを検証している。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

西村知記（2010年3月19日）複層林内に植栽した苗木の成長比較～各種単木防除資材によって成長差は現れるか～．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，〔口頭発表〕．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「複層林内に植栽した苗木の成長比較」，（2009年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，4件．

はしかけ「里山の会」，はしかけ制度，運営．

2009年4月19日・7月19日・10月18日・2010年1月17日，里山体験教室，野洲市大篠原，4件，（里山の会と共同）．

はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，3件．

他の博物館・機関等主催行事

2009年5月31日，風のクラフトと初夏の森探検，比良里山クラブ，比良里山キッズ，まほろばの里（大津市），講師．

2009年6月1日，春の色さがし，平野幼稚園，にこにこ広場，大津市浄化センター（大津市），講師．

2009年8月16日，森の環境学習，ガールスカウト大阪府第21団，琵琶湖博物館，講師．

2009年9月2日，環境学習ってなんだろう，環境学習支援センター，企画者のための環境学習体験講座，琵琶湖博物館，講師。

2009年9月12日，市民活動と琵琶湖水源の森林づくり，岐阜市青少年育成市民会議，琵琶湖博物館，講演。

2009年9月27日，水のクラフトと水源地探し，比良里山クラブ，比良里山キッズ，まほろばの里（大津市），講師。

2009年10月6・9・16日，森と水のつながり，滋賀大学附属小学校4年，滋賀大学附属小学校，やまのこ事後学習，滋賀大学附属小学校（大津市），講師，3件。

2009年10月16日，茶臼山にお散歩に行こう，平野幼稚園，自然体験活動，茶臼山公園（大津市），講師。

2009年10月26日，葉っぱのスタンプ・葉っぱの運動会，平野幼稚園，にこにこ広場，平野幼稚園（大津市），講師。

2009年11月2日，秋の自然にふれよう・あそぼう，田上幼稚園，自然体験活動，田上教育キャンプ場（大津市），講師。

2009年11月6日，水を育む森，水土里ネット日野川流域，蔵王ダム（日野町），講師。

2009年11月12日・19日，森の料理人，皇子が丘児童館，自然体験活動，皇子が丘公園（大津市），講師。

2009年11月17日，森への誘い，平野幼稚園，おしゃべり座，平野幼稚園（大津市），講演。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年度，滋賀県森林センター主査を兼務。

【館外の活動】

2009年度，環境学習支援センター，企画運営委員会，委員。

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 事業部資料活用担当

今年度は河川整備基金の助成を受けられた。これまで伐採処理前から10回以上観測してきた台風等大雨時の流出の際に、伐採流域でのみ、水質変動が大きく起こり、これまで観測した土壌浸透水のデータから斜面下部表層で硝化が激しく起こり硝酸態窒素が生じることが明らかになってきている。普段流れている基底流出以外に大雨時には直接流出という地表近くを流れる水が混入する。その場合、直接流出に含まれる新たに生じた硝酸態窒素が基底流出と混合しながら溪流に流出してくるため、水質形成を考えやすい。植生（スギ植林木）が成長し吸収力が回復するにつれ、その水質変動が伐採初期の頃より低下すると考えられる。それをうまく指標化し位置づけることができれば、流域診断に応用できると考えている。各大雨時の水位、流量データを収集し、化学分析を進め、水質データを完備することに努めた。昨年来た台風18号の観測も行った。

専門研究で引き続き行っている硝化に影響する環境条件の解明と斜面での流出過程の研究成果は一部、共同研究報告会で、温度条件と水分条件が高いほど硝化を促進すること、斜面下部林残存処理が下流への負荷削減に対して有効であることを報告した。

自費で出かけたモンゴル・フスグル湖調査では山火事荒廃地での再生促進実験として2006年に設定した伐倒木実験区での再生実生のデータ収集（東南岸）と、「倒木遮蔽更新」の実例探索調査（西岸）を行った。自然の「倒木遮蔽更新」をいくつも発見でき、片側に成立した再生林群の測量と年輪コア採取を行った。

事業の面では、5月からのインフルエンザの流行で2、3度観察会や講義が延期になり7月から8月に集中して大変だったが、爬虫・両生類データベースの新規公開（489点）（中園氏）、民俗資料データベースの1500点追加公開（辻川氏）が各担当職員の努力で実現した。また、低温収蔵庫、冷凍収蔵庫前室は、資料活用職員全員協力での清掃4回により、IPM上問題とならない状態まで環境改善できた。収蔵庫下の地下ピット周辺が排水詰まりにより水没状態になって湿度供給源となっていたが、排水口を再穿孔し改善できた。

今年からはしかけグループ「緑のくすり箱」のお世話をすることになった。植物の薬効活用を志向するアロマセラピストが多いグループで、森林浴にも興味がある。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

草加伸吾・金子有子・徳地直子（2009年6月27日）琵琶湖の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究。琵琶湖博物館共同研究報告会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

草加伸吾（2009年7月17日）大雨流出解析からみた森林の「流域診断」の試み。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

草加伸吾・金子有子・徳地直子・籠谷泰行・濱端悦治（2009年12月13日）植物の吸収力を生かした下流への負荷抑制。日本生態学会近畿地区会2009年度第2回例会，日本生態学会近畿地区会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

草加伸吾（2010年2月20日）滋賀県植物研究会総会・発表会。琵琶湖博物館，[企画・運営]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」，(2009年度)。
平成21年度河川整備基金助成事業「森林溪流水の水質形成機構とノンポイント評価—特に大雨時流出の解析に関する

る研究」(研究代表者：草加 伸吾)，研究代表者 (2009年4月～2010年3月)。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年8月1日，京都造形芸術大学，「滋賀県の森林と森林管理(伐採)の違いによる琵琶湖への影響と対策」。

2009年12月10日，滋賀県立大学4年生，文献調査指導，「大中湖干拓史関連水草文献」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2009年度，緑のくすり箱，はしかけ制度，運営，8件，(長澤京子氏と共同)。

2009年7月26日，植物標本の作り方，夏休み自由研究講座，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月4日，博物館データベースとは・植物さく葉標本の作り方，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，2件。

他の博物館・機関等主催行事

2009年5月17日，モンゴル北方林で見られる植物と山火事再生上の課題，富山植物友の会，琵琶湖博物館，講師。

2009年7月9日，食物としての植物と屋外の植物，滋賀県立彦根東高等学校，スーパーサイエンスハイスクール，琵琶湖博物館，講師，2件。

2009年7月25日，希望が丘自然観察会，夏の植物観察会，希望が丘文化公園青年の城周辺の湿地(蒲生郡竜王町)，講師。

2009年12月12日，世界の湖と人々の暮らし，立命館中学校，琵琶湖博物館，琵琶湖学習，講師

2010年2月21日，屋外展示のガイド、設置、管理の工夫について，近畿大学ビオトープ研究グループ，講義と現場説明。

視察対応、

2010年3月2日，植物収蔵庫の植物標本閲覧・再同定，豊橋技術科学大学，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物収蔵庫維持管理主担当 (222点登録，登録総数84,176点) (石田 未基氏と共同)。

植物標本採集製作 (モンゴルの草本植物57点)。

実験温室管理，主担当。

2010年2月5日，資料データベース：民俗資料データベースの公開点数の追加1,500点，(辻川智代氏、谷川真紀氏と共同)。

2010年2月26日，資料データベース：爬虫・両生類資料データベース (489点)，(中園健治元嘱託員、谷川真紀氏と共同)。

低温収蔵庫・冷凍収蔵庫前室の清掃，カビ対策，年4回。

2010年3月，収蔵庫地下ピットの水没調査、排水改善工事 (総務課井上氏と共同)。

植物収蔵庫標本棚改良，ナフタリン揮散防止目止めテープ張り120台 (太田氏と共同)。

植物収蔵庫ナフタリン揮散抑制のためのナフタリン固化作業，30kg，(太田氏，石田未基氏と共同)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室：身の回りの自然里山展示のキノコレプリカの名前パネル付け，（松田征也と共同）。

展示交流員と話そう，内容指導。

屋外展示植栽，維持管理業務，（臼井 学と共同）。

屋外展示植栽木（高木、亜高木）毎木調査（DBH測定・生育状況）実施，（石田末基氏、中岡紹一氏、太田氏と共同）

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示室：水をはぐくむ森林，森林・農地・市街地を通る水，講師，2009年4月22日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年9月4日～9月14日，モンゴル フブスグル湖東南部山火事消失地（Hektual）、西部森林地帯（Haross），森林再生促進実験地でのデータ収集、「倒木遮蔽更新」の実例調査。

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 総務部企画調整課

前年度（2008年度）までの滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課との兼務が終わり、本年度は3年ぶりに博物館学芸職員としての業務に専念することになった。本年度は、研究分担をしている水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」、および研究助成を受けている（財）ダム水源地環境整備センター応用生態研究助成「ダム水源地における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」の最終年度にあたり、ともに最初の2年間は兼務環境にあったこともあり十分な野外調査等ができなかったため、その不足を補いながらとりまとめに尽力した。

水産庁事業では、特定外来魚と在来魚の共存状況をもたらす前段階として、どのような水域において特定外来魚が持ち込まれて共存状況が生じるかを、既存の調査でおおよその魚類相が明らかになっている兵庫県加西市のため池群を対象に、100を超えるため池を現地踏査してその池の形状や立地、周辺環境などに関するデータを収集し、どのような特徴を持ったため池で特定外来魚の生息する割合が高いかを分析し、地形図に掲載され、車道に隣接し、車道から水面が見え、池の周囲に占める樹林帯の割合がより低く、学校からの距離がより小さい、皿池（谷池に対して）が、特定外来魚の侵入を受けやすいため池として、統計的有意差を伴うデータで示された。

応用生態研究助成では、オオクチバスを対象にオス親魚の産卵床形成を誘引する装置として開発された「人工産卵床」に大きく改良を加えた「吊り下げ式人工産卵床」を前年度に試作し、今年度は、この装置を岡山県鏡野町苫田ダム貯水池（奥津湖）と愛知県豊田市寺部池に実際に設置して、その効果を検証した。その結果、両水域とも従来型の人工産卵床ではまったく確認されなかったオオクチバスの産卵床形成が、吊り下げ式人工産卵床のみで高頻度で誘導され、この新しい手法の有効性が見えてきた。

また、年度途中から、環境省推進費事業にも参加し、水田におけるスクミリンゴガイの生態的影響に関する予備的調査を鹿児島県と滋賀県で開始した。

前年度後半に大阪府下で定着が確認されたヨーロッパ原産の陸産貝類ヒメリンゴマイマイについても、その防除対策に向けて現地作業に協力したほか、特定外来生物指定植物であるナガエツルノゲイトウとミズヒマワリに対して侵入初期の根絶をめざした防除活動にも参加した

印刷物

【学術論文】

中井克樹（2010）オオクチバス等の外来魚を対象とした防除の現状：「モデル事業」の課題。種生物学会 編，外来生物の生態学—進化する脅威とその対策，文一総合出版，東京：95-109.

【専門分野の著作】

中井克樹（2009）琵琶湖の外来魚問題～歴史と展望～. *地理*, 54 (4) : 58-67.

中井克樹（2009）陸水域における外来生物問題の課題. *陸水学雑誌*, 70 : 277-280.

Une, Y., Sakuma, A., Matsueda, H., Nakai, K. and Murakami, M. (2009) Ranavirus outbreak in North American Bullfrogs (*Rana catesbeiana*), Japan, 2008. *Emerging Infectious Diseases*, 15 (7), Article ID:08-1636.

中井克樹（2009）外来魚問題への対策（2）—ため池の水抜きによる外来魚駆除—. (社) 日本水産資源保護協会季

報, 522 : 3-8.

中井克樹 (2010) 外来魚問題への対策 (3) - 外来魚を食べる -. (社) 日本水産資源保護協会季報, 523 : 4-9.

中井克樹 (2010) 外来魚による在来魚等に対する影響. 野生生物保護学会 編, 野生生物保護の事典, 朝倉書店, 東京 : 225-229.

中井克樹 (2010) 「カワヒバリガイ問題」の始まりと現在の課題. *Sessile Organisms*, 27 : 1-10.

中井克樹 (2010) カリントウカワニナ、ネジヒダカワニナ、タケノコカワニナ、リュウキュウヒルギシジミ、タイワンヒルギシジミ、ヤエヤマヒルギシジミ、オオタニシ、タテヒダカワニナ、ヤマトカワニナ、ヒラマキガイモドキ、リュウキュウヒラマキガイモドキ、ヤマトシジミ、マシジミ、コウチミジンツボ、ヒラマキミズマイマイ. 改訂レッドリスト付属説明資料 貝類. 環境省自然環境局野生生物課, 東京 : 2、12、17、18、23、26、27、31、32、48、49.

中井克樹・大谷ジャーメンウィリアム・石田末基・金尾滋史 (2010) 河内風穴. 陸産貝類. 滋賀自然環境研究会 編, 平成 21 年度野生生物生息・生育状況調査報告書～魚類・貝類・その他無脊椎動物編. 滋賀自然環境研究会, 彦根.

中井克樹 (2010) 滋賀県内における指定希少野生動植物種イチモンジタナゴの遺伝的変異の分析. 滋賀自然環境研究会 編, 平成 21 年度生息・生育地保護区野生動植物調査報告書. 滋賀自然環境研究会, 彦根.

【一般向けの著作】

神田哲久・中井克樹 (2009) 大阪府下の団地に高リスクの外来カタツムリが侵入. *自然保護*, 511 : 25.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中井克樹 (2009 年 6 月 27 日) 琵琶湖などにおける外来生物 (とくにブラックバス問題) に関する研究. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

笹田直樹・芹澤英一郎・吉田裕之・佐貫方城・中井克樹・大槻清人・小坂田堅 (2009 年 9 月 25 日) ダム湖におけるオオクチバスの低密度管理手法の検討. 応用生態工学会第 13 回埼玉大会, 埼玉会館 (埼玉県さいたま市), [ポスター発表].

中井克樹 (2009 年 10 月 3 日) 関西地方について : カワヒバリガイ問題の始まり (1990 年代). 2009 年度日本付着生物学会「カワヒバリガイの侵入と対策に関するミニシンポジウム」, 日本付着生物学会, 岩手県民情報交流センターアイーナ (岩手県盛岡市), [口頭発表].

中井克樹 (2009 年 10 月 12 日) 滋賀県の条例について : 地方条例は国内外来種問題に対処できるか?. 市民公開シンポジウム「国内外来魚問題の現状と課題」, 日本魚類学会自然保護委員会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].

金子有子・栗林 実・藤井伸二・野間直彦・中井克樹 (2009 年 11 月 16 日) 琵琶湖での特定外来生物指定植物種の防除について. 第 12 回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) 調査研究・事例発表会, 自然系調査研究機関連絡会議, フォーラム 246 (神奈川県伊勢原市), [口頭発表].

中井克樹・笹田直樹・谷口義則 (2010 年 1 月 30 日) 「人工産卵床」のもつ制約と、その打開策としての新しい設置方法. 第 5 回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 大学サテライト・プラザ彦根 (滋賀県彦根市), [口頭発表].

中井克樹 (2010 年 3 月 15 日) 特定外来生物の分布の把握状況と最近の分布拡大 : 魚類. 生物多様性関連集会 : 特定外来生物の分布状況 2010, 外来生物分布拡大予報研究会・横浜国立大学 GCOE 「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」, 東京大学教養学部駒場キャンパス (東京都渋谷区), [口頭発表].

金子有子・栗林 実・藤井伸二・野間直彦・中井克樹（2010年3月16日）琵琶湖における特定外来生物指定植物種の防除をめぐる。第57回日本生態学会大会 シンポジウム S06「生態リスク」にどう向き合うのか？2：データ解析からリスク解析へ，日本生態学会，東京大学教養学部／大学院総合文化研究科（東京都渋谷区），[口頭発表]。

村上興正・中井克樹・岩崎敬二・ほか外来種検討作業部会（2010年3月17日）シンポジウム S11 侵略的外来種の防除戦略，第57回日本生態学会，東京大学教養学部／大学院総合文化研究科（東京都渋谷区），[シンポジウム企画]。

中井克樹（2010年3月17日）防除モデル事業にみるオオクチバス等外来魚の防除戦略。第57回日本生態学会大会 シンポジウム S11 侵略的外来種の防除戦略，東京大学教養学部／大学院総合文化研究科（東京都渋谷区），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」（研究代表者：片野 修），研究分担者（2007～2009年度）。

（財）ダム水源地環境整備センター応用生態研究助成「ダム水源地における水位捜査と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」（研究代表者：中井克樹），研究代表者（2007～2009年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護委員会，外来種問題検討作業部会員，2001年3月～。

日本生態学会近畿地区会，委員，2010年1月～2011年12月。

日本生態学会，近畿地区会自然保護委員会，委員。

日本魚類学会，評議員，2004年1月～。

日本魚類学会自然保護委員会，委員。

応用生態工学会パートナーシップ委員会，委員，2001年12月～2009年9月。

応用生態工学会普及委員会，委員，2009年9月～。

阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。

生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。

ブラックバス防除市民ネットワーク，2005年11月～，理事。

野生生物保護学会，野生生物保護，査読，1件。

環境技術学会，環境技術，査読，1件。

日本水産学会，日本水産学会誌，査読，1件。

Aquatic Conservation，査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年6月12日，滋賀県立大学大学院環境科学研究科，近江環人地域再生学座地域診断法特論。

2009年度，奈良大学大学院文学研究科大学院生（博士前期課程2年），琵琶湖の漁業における外来魚の影響に関する研究についての技術的・構成的観点からの指導。

2009年7月28日，名古屋大学，林君，来館。

2009年11月15日，明治大学大学院文学研究科大学院生（修士課程2年），外国人に対するデジタル・サービスと博物館運営に関する取材。

2010年2月10日，立命館守山高校，学生世界湖沼会議における英語発表の指導。

【受賞など】

応用生態工学会第13回埼玉大会ポスター発表審査「ポスター賞」（受賞者：笹田直樹），2009年9月25日，ポスタ

一発表「笹田・芹澤・吉田・佐貫・中井・大槻・小坂田：ダム湖におけるオオクチバスの低密度管理手法の検討」に対して。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件。

2009年8月6日，生きものの飼育に関するルール「してはいけないこと」と「しなくてはいけないこと」，生き物飼い方講座，琵琶湖博物館，講師，（桑原雅之と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2009年5月16日，「さかなクン」による琵琶湖の魚たちの紹介，NTT西日本，琵琶湖観察会，琵琶湖博物館，さかなクンとのトークショー。

2009年7月12日，外来生物問題の考え方とヒメリンゴマイマイへの対応，府営門真三ツ島住宅自治会環境衛生部，外来カタツムリ観察会，府営三ツ島住宅集会所（大阪府門真市），講義および観察会講師。

2009年8月1日，滋賀県子ども環境特派員事業事前学習会，大津市生涯学習センター（滋賀県大津市），学習会講師。

2009年8月9日，ホテルを頂点とした水辺の生態系と外来種，アトリエ モレリ，アトリエ モレリ「かえるよ！ホテル」原画展トークショー，西武百貨店池袋本店イルムス館（東京都豊島区），トークショー講師（中山れいこ氏と対談）。

2009年8月19日，外来魚解剖，大阪府立泉北高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，指導。

2009年10月1日，座学「外来生物をめぐる問題とその取り扱い」，（社）農村環境整備センター，平成21年度農村自然再生高度化事業 田園自然再生手作り塾「農業利水施設の外来生物駆除」，エポカ 21（宮城県栗原市），講師。

2009年10月2日，まとめ学習，（社）農村環境整備センター，平成21年度農村自然再生高度化事業 田園自然再生手作り塾「農業利水施設の外来生物駆除」，エポカ 21（宮城県栗原市），学習班の指導と全体の講評。

2009年10月15日，琵琶湖の環境，北海道札幌旭丘高等学校，ゼミ研修旅行，琵琶湖博物館，講師。

2009年10月24日，外来魚問題とその調査法，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講義。

2009年10月24日，生物多様性の大切さ～歴史を背負った自然の遺産として～，第5回地球環境フォーラム・コスモス国際賞受賞記念講演会「生物多様性を考える～自然と調和する経済社会を目指して～」，京都大学時計台記念館百周年記念ホール（京都市左京区），京都大学大学院地球環境学堂・（財）国際花と緑の博覧会記念協会，講演および総合討論。

2009年11月7日，琵琶湖の現状から考える生きものとのつきあい方，京都府立東稜高等学校，平成21年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト「天然記念物・深泥池生物群集と琵琶湖淀川水系の環境問題 TRY SPP Part 5」，琵琶湖博物館，講義と館内案内。

2009年11月9日，外来生物問題と生物多様性：どのように考え、どう行動すべきか？ NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会，2009年度勉強会，大阪府環境情報プラザ，（大阪府大阪市），講師。

2009年11月12日，鹿児島市立東昌小学校生き物の学習会。鹿児島市松元土地改良区，中尾迫地区生き物引っ越し作業観察会，鹿児島市直木町，講師。

2009年11月15日，大阪府下のエスカルゴ騒動：ヒメリンゴマイマイについて。阪神貝類談話会，2009年11月例会，西宮浜公民館（兵庫県西宮市），発表者。

- 2009年11月19日、外来生物問題を通して生物多様性を考える。豊田市矢作川研究所，ゼミ，豊田市矢作川研究所（愛知県豊田市），講師。
- 2009年12月12日，どうする？外来生物問題，NPO法人かごしま市民環境会議，2009年度環境講座「外来生物を知る これからの鹿児島環境を考えよう」，鹿児島市ボランティアセンター（鹿児島県鹿児島市），講演。
- 2009年12月13日，琵琶湖の魚貝類の現状と課題。NPO法人瀬田川リバプレ隊，2009年度「湖上セミナー」，観光船一番丸（滋賀県琵琶湖上），講師および琵琶湖博物館案内。
- 2010年1月26日，外来生物問題から考える生物多様性と命の取り扱い，三高理生物部会（三重生物教育会），平成21年度三学期研修会，三重県総合教育センター（三重県津市），講師。
- 2010年2月3日，講評，京都府立東稜高等学校，平成21年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト「天然記念物・深泥池生物群集と琵琶湖淀川水系の環境問題 TRY SPP Part 5」H21(2009)SPP生徒研究発表会 V2.0，京都府立東稜高等学校（京都府京都市），講評。
- 2010年2月20日，外来魚駆除の理想と現実，福井県，外来魚会議 in 三方五湖「外来魚から漁場を守ろう」，ホテル水月花（福井県若狭町），講演および座談会。
- 2010年3月7日，外来生物問題の考え方，飛弾インタープリターアカデミー，ウッドフォーラム飛弾（岐阜県高山市），講師。
- 2010年3月23日，ブラックバスの生態と全国の駆除事例紹介，国土交通省苫田ダム管理所，ブラックバス勉強会，苫田ダム管理所，講師。

視察対応

- 2009年4月7日，滋賀県・琵琶湖の自然と文化の紹介と展示案内，アメリカ合衆国ウェストヴァージニア州国際ロータリー第2650地区受入研修生（近江八幡ロータリークラブが同行），琵琶湖博物館。
- 2009年4月24日，展示案内，中華人民共和国湖南省益陽医学高等专科学校一行，琵琶湖博物館。
- 2009年5月3日，琵琶湖の現状の概説と展示案内，中西正己・京都大学名誉教授ほか三重県立宇治山田高等学校卒業生一行，琵琶湖博物館。
- 2009年7月2日，展示解説，JICA 集団研修「環境中の有害汚染物質対策コース」，琵琶湖博物館。
- 2009年7月16日，展示解説，大韓民国冠陽中学校英才クラス日本研修団，琵琶湖博物館。
- 2009年7月29日，展示解説，中華人民共和国中国環境科学学会（CSSES）視察団，琵琶湖博物館。
- 2009年8月11日，展示解説，大韓民国市民環境研究所，琵琶湖博物館。
- 2009年10月6日，琵琶湖における水環境管理，JICA「閉鎖性海域の水環境管理コース」，琵琶湖博物館。
- 2009年10月13日，琵琶湖博物館に関する講義・施設見学・活動の振り返り，(株)デンソー「DENSO YOUTH for EARTH Action～新・地球人プロジェクト～」，琵琶湖博物館。
- 2009年10月27日，日本・滋賀県の自然保護施策の説明，オレゴン州立大学，琵琶湖博物館。
- 2009年10月30日，カワヒバリガイの生息状況の説明と現地調査場所の紹介，中央水産研究所，琵琶湖博物館。
- 2009年11月11日，展示解説および生態研究機関建設に関する助言，大韓民国（株）文化都市経営研究所「国立ウルド生態研究及び教育センター設置基本計画樹立研究」における機関調査団，琵琶湖博物館。
- 2009年11月18日，展示解説，JICA 研修「産業廃水処理技術コース」，琵琶湖博物館。
- 2009年11月26日，展示解説，JICA 研修「生活排水対策コース」，琵琶湖博物館。
- 2009年12月23日，栗東市ため池干し上げ視察，琵琶湖博物館展示見学および野生生物行政施策取材，植村善博教授（仏教大学）・マルコムフィッツアール客員教授（関西学院大，カナダ・キャピラーノ大学名誉教授）ほか，栗東市内ため池および琵琶湖博物館。
- 2010年1月19日，川の生物調査に関する連携相談、および水族展示室案内，滋賀経済同友会，琵琶湖博物館。
- 2010年2月3日，展示解説，フィリピン共和国フィリピン大学等環境専門家一行，琵琶湖博物館。
- 2010年2月9日，生物多様性に関する先進地調査への協力、滋賀県の自然保護施策（生息地保護区・レッドデータブック・共生条例等）に関するヒアリングおよび展示室案内，和歌山県自然保護室・農業農村整備課・和歌

山社会経済研究所等，琵琶湖博物館。

2010年2月24日，展示解説および河川環境の保全に関する相談対応，平群町若葉台ローズタウン自治会浄化槽問題対策委員会，琵琶湖博物館。

2010年3月4日 展示解説，JICA 研修中国・循環型経済推進プロジェクト「環境教育施設運営及び人材育成」，講師，展示室。

2010年3月26日，展示解説，中華人民共和国海南大学海洋学院，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2009年7月6日，NHK 大阪局，大阪局ローカルニュース，外来のカタツムリ大発生，（2009年7月1日取材）。

2009年7月10日，朝日放送 NEWS ゆう＋，「外来カタツムリ発生」，外来種としての生態リスクおよび推測される侵入経路などについてコメント（2009年7月10日取材）。

2009年7月10日，毎日放送 VOICE，「外来カタツムリ発生」，外来種としての生態リスクおよび推測される侵入経路などについてコメント（2009年7月10日取材）。

2009年7月10日，読売テレビ NEWS リアルタイム「外来カタツムリ発生」，外来種としての生態リスクおよび推測される侵入経路などについてコメント（2009年7月10日取材）。

2009年7月10日，朝日新聞，「エスカルゴ」団地に大量発生／大阪・門真／食用、逃げる？，外来種としての生態リスク、推測される侵入経路などについてコメント（2009年7月1日取材）。

2009年7月11日，京都新聞，エスカルゴ大量発生／門真の団地駆除本腰／高級食材だけど（2009年7月取材）。

2009年7月11日，中日新聞，エスカルゴ大量発生 大阪／琵琶湖博物館が確認（2009年7月取材）。

2009年7月12日，NHK 大阪本社，NHK ニュース（全国版），団地で大量発生外来カタツムリ，（2009年7月12日取材）。

2009年7月25日，京都新聞，湖のこえ・暮らしと環境 第4部フナ編②外来魚はいま／絶えぬ脅威、駆除に壁も、近年のフロリダバスの密放流の可能性に関するコメント，（2009年6月11日取材）。

2009年7月25日，読売新聞，気になる！：団地にエスカルゴ大発生，（2009年7月取材）。

2009年7月29日，朝日新聞，ナニワエスカルゴ厄介／おまえの駆除策どこにある？／えぐ味強く住民「まずい」・寄生虫の恐れも，（2009年7月12日取材）。

2009年8月6日，フジテレビ系全国ネット「とくダネ！」，とくダネ！プレミアム「真夏の怪現象」：エスカルゴ大量発生，（2009年7月31日・8月1日取材）。

2009年9月27日，TV朝日系全国ネット，素敵な宇宙船地球号「ラストメッセージ・未来への羅針盤」，東京都港区呑川におけるアリゲーターガの定着可能性に関するコメント，（2009年8月19日取材）。

2009年11月9日，TBS ラジオ「日本列島ほっと通信」，日本の湖めぐり・琵琶湖，琵琶湖の特徴について司会者とのQ&A，（2009年10月21日取材）。

2009年11月10日，毎日新聞，現場から記者レポート：採り子／目立つモラルなき愛好家／埼玉の男性、「琵琶湖産イチモンジタナゴ」と偽り販売／絶滅危惧種の淡水魚ーネットで気軽に売買，ふるさと滋賀の野生動物との共生に関する条例への抵触状況等の説明，（2009年10月取材）。

2009年11月11日，毎日新聞，イチモンジタナゴってどんな魚なの？／希少淡水魚、琵琶湖はほぼ絶滅／美しい色合いで鑑賞魚として人気，ふるさと滋賀の野生動物との共生に関する条例への抵触状況等の説明，（2009年10月取材）。

2009年11月，毎日新聞，国内外来魚オヤニラミ，（写真提供）。

2009年12月14日，南日本新聞，鹿児島市で捕獲のマンガース 奄美・沖縄とDNAが一致，外来生物問題の講演。

2009年12月18日，びわ湖放送，びわ湖でスッポンモドキ見つかる（2009年12月18日資料提供）。

2009年12月19日，中日新聞，京都新聞，読売新聞，産経新聞，朝日新聞，びわ湖でスッポンモドキ見つかる，（2009年12月18日資料提供）。

- 2010年1月12日, 中日新聞, いきもの地球会議 小さな悲鳴聞こえますか/中部の絶滅危惧種と保護活動/滋賀 ニッポンバラタナゴ/中国産交雑し純系絶つ, (2009年12月電話取材).
- 2010年2月12日, 読売新聞(中部版), 外来二枚貝 用水で大繁殖/カワヒバリガイ/吸水管詰まる被害・水質悪化 原因にも, カワヒバリガイの被害対策に関するコメント, (電話取材).
- 2010年2月16日, 朝日小学生新聞, 外来魚/「キャッチ&回収」で減らそう/琵琶湖(滋賀県) 琵琶湖の外来魚駆除活動の意義等についてコメント, (2010年2月取材).
- 2010年2月12日, 毎日新聞(大阪本社), ブラックバス受難編/浮世床卵駆除の憂き世/琵琶湖で学芸員ら5月にも/産んだら根こそぎ, (2010年1月27日取材).
- 2010年3月8日, しんぶん赤旗, 2010 国際生物多様性年 国内外来魚の脅威(下) / "善意" の放流でも悪影響, 「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」における指定外来種の説明、滋賀県産オヤニラミ写真提供, (2010年2月取材).

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

- 愛媛県自然環境課, 外来生物ガイドブックへのコクチバス写真(1点)提供.
- しんぶん赤旗, 2010年2月28日記事「2010 国際生物多様性年 国内外来魚の脅威(上) /淡水魚シナイモツゴ 近縁種の "同居" で減少」へのシナイモツゴとモツゴの写真(各1点)提供.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2010年1月3日~2月7日, お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー!?!」展, 貝類資料担当.

他博物館・機関の活動

- RiverWebs, 2009年8月, 科学ドキュメンタリー映像作品「RiverWebs」の日本語版製作への協力, 編集方針への助言等.
- 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 2010年度, 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催と連動したパネル展示の製作への協力, 写真提供・内容指導.

【企画調整活動】

- 新入職員等研修, C展示室解説, 講師, 2009年4月22日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2003年5月~, 滋賀県, 外来種問題検討委員会(2006年度までは「滋賀県移入種問題検討委員会」), 検討委員および水生生態系部会員.
- 2003年度~, 滋賀県, 生きもの総合調査委員会, 魚貝類部会, 専門委員.
- 2004年8月~, 国土交通省琵琶湖河川事務所, 河川保全利用委員会, 委員(2009年から副委員長).
- 2010年3月~, 国土交通省中国四国整備局苦田ダム管理所, ブラックバス勉強会, 委員.
- 2008年9月~, 農林水産省, 外来貝類被害防止対策検討委員会, 委員.
- 2008年7月~, 農林水産省東海農政局, 外来貝類被害防止対策検討委員会, 委員長.
- 2003年度~, 環境省, 絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会(陸・淡水産貝類分科会), 検討委員.
- 2004年10月~, 環境省, 外来生物専門家グループ(無脊椎動物), 検討委員.

- 2005年12月～，環境省近畿地方環境事務所，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査検討委員会，委員.
- 2008年3月～，環境省九州地方環境事務所，藺牟田池オオクチバス等防除モデル事業に関する検討部会，アドバイザー.
- 2010年3月～，環境省中国四国地方環境事務所，開放水域におけるオオクチバス等防除モデル事業有識者会議，有識者.
- 1999年2月～，(財)リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）.
- 1999年10月～，(財)ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）.

主任学芸員

研究部生態系研究担当
(兼) 総務部企画調整課

琵琶湖博物館の水田研究を進めるために京都大学などと共同で申請・獲得した「地球環境研究総合推進費」による研究を開始し、県内 11 地域、65 筆の水田を回って、微小甲殻類や珪藻などの小さな生き物を採集してきた。この際に耕作者や土地改良区の方々などから水田の話をうかがい、たいへん勉強になった。一方、私たちが採集したミジンコなどに関心を持っていただいたことも多く、これを発端にしていくつかの地域で観察会などを行うことになった。今後は十分なデータに基づいた交流活動ができるように、研究結果を早くまとめる必要がある。

琵琶湖博物館の水田総合研究の成果を論文として出版するために、データの検討や共著者の原稿の修正などで多くの時間を費やした。成果公表は予定よりも大きく遅れているが、ようやく 2 編目の学術論文が出版された。他にも多くの共著論文を投稿し、現在、審査段階にある。

ヨシのシュート上に発達するバイオフィルムの構造と機能について、京都大学や立命館大学の研究者と共同研究を進めた。2009 年 6 月、BIYO センターにヨシ群落の水質浄化機能を検証するための実験プラントを立ち上げ、現在も実験を継続中である。ヨシ群落を通過する際に窒素はかなりの量が除去されるのに対して、リンはあまり除去されない実態が明らかになってきた。

日本珪藻学会誌 *Diatom* の編集委員長兼編集幹事として、先代会長・初代編集委員長である故 渡辺仁治氏の追悼記念特集を手がけるとともに、特集記事の 1 つを分担執筆した。*Diatom* 25 巻には特集記事以外にも多くの原稿が集まり、200 ページを超える大部となった。その中で、渡辺氏が残した Lagna de Bay (フィリピン) の未発表の珪藻写真を整理して、当時の共同研究者との共著で出版した。

琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」の影の会長として暗躍し、今年度も会員を主著者とする学術論文 2 本を出版することができた。特に山門湿原の珪藻植生に関する報告(木原靖郎氏の主著)は、各方面からの反響が大きく、地域活動との連携が生んだ大きな成果と言える。

印刷物

【学術論文】

- 高橋かつ江・大塚泰介・池本良子・田崎和江 (2009) 蓼科湖の湖底堆積珪藻の垂直分布と水質モニタリング結果との対応、およびそれ以前の環境の推定. *日本水処理生物学会誌*, 45 (2), 日本水処理生物学会 : 75-82.
- 大塚泰介 (2009) DAIpo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) が指標するものは明らかになったか. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 8-14.
- 廣田昌昭・大塚泰介 (2009) 鳥取県千代川の礫付着珪藻. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 52-72.
- Kihara, Y., Sahashi, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2009) Diatoms of Yamakado Moor in Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 91-105.
- Ohtsuka, T., Kato, S., Asai, K. and Watanabe, T. (2009) Checklist and illustrations of diatoms in Laguna de Bay, Philippines, with reference to water quality. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 134-147.
- Yamazaki, M., Ohtsuka, T., Kusuoka, Y., Maehata, M., Obayashi, H., Imai, K., Shibahara, F. and Kimura, M. (2010) The impact of nigorobuna (crucian carp) larvae/fry stocking and rice-straw application on the community structure of aquatic organisms in Japanese rice fields. *Fisheries Sciences*, 76 (2), 日本水産学会 : 207-217.

【専門分野の著作】

大塚泰介 (2010) 山門湿原の珪藻植生. 「山門水源の森」報告集, 4, 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会: 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

篠原耕平・丸山 敦・大塚泰介 (2009年5月16日) アフリカマラウイ湖の珪藻植生. 日本珪藻学会第30回大会, 日本珪藻学会, 兵庫県立人と自然の博物館 (兵庫県三田市), [口頭発表].

篠原耕平・丸山 敦・大塚泰介 (2009年9月16日) マラウイ湖岩礁沿岸帯における付着性珪藻の微空間分布. 日本陸水学会第74回, 日本陸水学会, 大分大学旦野原キャンパス (大分県大分市), [口頭発表].

大塚泰介・山崎真嗣・西村洋子・楠岡 泰 (2009年10月16日) 水田に魚を放すと、生物どうしの関係が見えてくる. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

前畑政善・大塚泰介・水野敏明・金尾滋史 (2010年1月15日) 水田で育ったニゴロブナ幼魚の水田内残存と脱出場所の選択性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

夏原由博・大塚泰介 (2010年3月18日) 企画集会「普通種がいなくなる時—水田地帯の生物多様性」. 日本生態学会第57回大会, 日本生態学会, 東京大学教養学部 (東京都目黒区), [企画者・司会進行].

前畑政善・金尾滋史・水野敏明・大塚泰介 (2010年3月18日) 琵琶湖周辺の農業用水路網が魚類群集の保全に果たす役割. 企画集会「普通種がいなくなる時—水田地帯の生物多様性」, 日本生態学会第57回大会, 日本生態学会, 東京大学教養学部 (東京都目黒区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖地域の湿原で珪藻群落の分布を規定する環境要因の検討」, (2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学, 形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: Mark J. Grygier), 共同研究者 (2006年度~).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善), 副代表者 (2007年度~).

財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明—有用微生物の探索と応用—」(研究代表者: 森崎久雄), サブリーダー (2007年度~).

科学研究費補助金事業基盤研究(C)「水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長と微生物群集との相互作用の解明」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2009年度~).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), サブテーマ代表者 (2009年度~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員長 兼 編集幹事, 2009年1月~.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 5件.

日本陸水学会, Limnology, 査読, 3件.

The international society of plant morphologists, Phytomorphology, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年4月~2009年10月, 高橋かづ江 (金沢大学自然科学研究科博士課程), 研究指導・博士学位審査副査.

2009年4月~2010年3月, 篠原耕平 (龍谷大学理工学研究科部修士課程), 研究指導・助言.

2008年5月～6月, 若松佳紀(京都大学地球環境学堂修士課程), インターン研修受入責任者.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2009年度, たんさいぼうの会, はしかけ制度, 運営.

2009年8月1日～8日, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 副担当.

2008年6月27日, プラぱら プランクトンのぱらぱらまんが, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師,
(飯住達也と共同).

2010年1月23日, 琵琶湖地域の珪藻類の多様性, 新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月13日, 第73回京大植物園観察会「池の中に広がるミクロの世界」, 京大植物園を考える会, 講義と実習, 京都大学植物園(京都市), 講師, (肥山陽子氏と共同).

2009年6月28日, 水田のプランクトン観察, 農業体験活動実行委員会, 「農と自然の体験」第2回イベント, 愛西土地改良区(彦根市), 案内役, (北村美香氏と共同).

2009年7月9日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立彦根東高等学校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月12日, 冬期湛水不耕起水田の生き物観察会, (社)日本国際民間協力会 NICCO 琵琶湖モデルファームチーム, 実習, NICCO 琵琶湖モデルファーム(蒲生郡竜王町), 案内役, (北村美香氏・中井大介氏と共同).

2009年7月18日, 水田の生き物の採集と観察, NPO法人シニア自然大学, 実習, 野洲市安治の水田/琵琶湖博物館, 講師, (奥田昇氏と共同).

2009年7月22日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月23日, 付着珪藻の採集と観察, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月26日, 付着珪藻の採集と観察, 滋賀県立膳所高等学校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講義と実習.

2009年8月11日, 付着微小生物の採集と観察, 滋賀県教育委員会環境学習研究協議会, 琵琶湖博物館, 講義と実習.

2009年10月18日, プランクトンの採集と観察, JICA 研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年11月8日, 田んぼの生き物観察(プランクトン), 愛西土地改良区, 稲枝町おこしフェア, JA 東びわこ稲枝支店(彦根市), 案内役, (北村美香氏と共同).

2009年12月12日・2010年1月9日, 班ごとの学習担当, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導・助言, 2件.

2010年3月4日, プランクトンの観察, 滋賀県立米原高等学校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講義と実習.

メディアへの協力

2009年4月23日, 記者レクチャー「“水田環境はニゴロブナの成長に有効である”ことがわかりました」(朝日新聞, 京都新聞, 産経新聞, 中日新聞, 毎日新聞に記事掲載), 取材対応, (金尾滋史氏・前畑政善と共同).

2009年10月31日, 京都新聞滋賀版, 水質悪化深刻 中国・太湖救え 琵琶湖の知恵でアオコ抑制 共同研究に琵琶

博参加，取材対応，（楊 平と共同）。

2009年11月27日，サイエンスチャンネル，赤ちゃんがいっぱい（18）行け！悠久の湖へ ニゴロブナの巻，出演。

2010年1月6日，京都新聞滋賀版，研究で地域の魅力発掘 琵琶博「はしかけ」制度10年 藻やエビで論文 機織り機を自作 広がる市民の活動，取材対応，（一部）。

2010年1月20日，記者レクチャー「琵琶湖博物館はしかけグループが山門湿原から130種もの珪藻を見いだししました」（朝日新聞，京都新聞，産経新聞，中日新聞，毎日新聞，読売新聞に記事掲載，びわ湖放送で放映），取材対応，（木原靖郎氏と共同）。

2010年2月7日，中日新聞滋賀版，中国の「太湖」アオコ異常発生 深刻化 朱偉教授調査 水道水，観光，漁業に打撃 琵琶湖博物館「湖沼環境保全で協働を」，取材対応，（朱偉氏と共同）。

2010年2月10日，記者レクチャー「“ニゴロブナの稚魚が水田の生き物に大きな影響を及ぼす”ことがわかりました」（京都新聞，中日新聞に記事掲載），取材対応，（山崎真嗣氏・楠岡 泰と共同）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電子媒体による質問対応，副担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集，整理・監督，指示。

【企画調整活動】

新任職員等研修，主担当。

琵琶湖博物館年報，主担当（中山法子氏と共同）。

琵琶湖博物館協議会，副担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究審査会，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001年4月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員。

主任学芸員

研究部生態系研究担当
（兼）事業部資料活用担当

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の一般向け著作の発表は和文・単著で1本であった。タイトルは『冬は楽しいミノムシ観察』であった。これらは最近、寄生性のオオミノガヤドリバエにより減少してオオミノガやその仲間について一般向けの解説したものである。

文部科学省の科学研究費補助金の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として収集してきたアシナガバエ科の *Abetetia* 属、*Cemocarus* 属、*Cymatopus* 属について、解剖し、詳細に外部形態を比較した結果、新種が複数種いることが判明し、その記載を行っている。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【一般向けの著作】

梶永一宏（2010）冬は楽しいミノムシ観察. *自然保護*, 1・2月号, 513:36-37.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

梶永一宏（2009年5月15日）北半球に隔離分布するナガレアシナガバエの生物地理. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

梶永一宏（2009年6月28日）北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化的研究. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー), 副代表者 (2006-2010年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

日本動物学会, *Zoological Science*, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12 件。

2009 年 8 月 4 日，資料整理実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 12 月 12 日，北半球の多様な水辺に生息するアシナガバエの進化，新琵琶湖学専門セミナー『湖と人間』，琵琶湖博物館，講演。

2010 年 3 月 28 日，川虫探検，観察会，藤ノ木川・大津市，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 5 月 30 日，川の中のいきものしらべ，ホテルの学校，水生昆虫観察会，千丈川（大津市），講師。

2009 年 7 月 31 日，千丈川 上流の生きものたんけん，ホテルの学校，水生昆虫観察会，千丈川（大津市），講師。

2009 年 8 月 19 日，竹筒トラップのハチの観察，大阪府立泉北高等学校，スーパーサイエンスハイスクール，琵琶湖博物館，実習指導。

2009 年 8 月 25 日，びわ湖博物館へ行こう！，ホテルの学校，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 9 月 28 日，川の中のいきものしらべ，ホテルの学校，水生昆虫観察会，千丈川（大津市），講師。

2009 年 11 月 22 日，琵琶湖博物館見学，ボーイスカウト大津第 12 団，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2009 年 8 月 29 日，びわ湖放送，持続可能な滋賀社会，出演，（2009 年 8 月 27 日収録）。

2010 年 4 月 6 日，読売新聞，観察会：川虫探検，（2010 年 3 月 28 日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），800 件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009 年度，常設展示 C 展示室「川の生き物を調べる」，ライトトラップの展示更新と維持管理。

2009 年度，常設展示 C 展示室「川の生き物を調べる」，顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理。

2009 年度，研究最前線更新。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C 展示室 川の生き物の概要，講義，2009 年 4 月 22 日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009 年 4 月～2010 年 3 月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員。

主任学芸員

研究部生態系研究担当

(兼) 事業部展示担当

以下にしめす5つのプロジェクトを中心に研究を行っている。

1. 琵琶湖のカイミジンコについて Horst, Janz 氏(ドイツ, Tuebingen)との共同研究。この研究における3つ目の論文は、Cyprididae と Ilyocyprididae 上科についてであり、現在投稿・査読中である。
2. 白亜紀に生息していたカイミジンコの化石と、現存する種の放射光分析(ドイツの Renate Matzke-Karasz 氏、フランスの Paul Tafforeau 氏、チェコの Radka Symonova 氏、UK の Giles Miller 氏との共同研究)。データを処理中であり、一部の結果は得られている。このプロジェクトの最初の発表はサイエンス誌においてであり、多くの国際的なメディアの興味をひきつけた。第2回目の発表を現在準備中である。
3. 日本の地下水に生息するカイミジンコ
サンプリングを行い、分類作業が進行中で、論文を準備中である。
4. 3Dで保存されている白亜紀のエビの眼。これはブラジルの白亜紀の地層から見つかったエビの眼の化石の形態と光学についてのプロジェクトで、田中源吾氏(群馬自然史博物館)、David Siveter教授(レスター大学、英国)、Andrew Parker氏(自然史博物館、英国)との共同研究である。成果はZoological Science誌に発表された。
5. おそらく外来種であるスペインのカイミジンコについての新しい研究が、Francesc Mezquita (バレンシア大学)と共同で今年始まった。おそらく日本からスペインに外来したと思われる種がこの研究の対象である。

印刷物

【学術論文】

- Boxshall, G. A., Danielopol, D. L., Horne, D. J., Smith, R. J. and Tabacaru, I. (2010) A critique of biramous interpretations of the crustacean antennules. *Crustaceana*, 83 : 153-167.
- Matzke-Karasz, R., Smith, R. J., Symonova, R., Miller, G. and Tafforeau, P. (2009) Sexual intercourse involving giant sperm in Cretaceous ostracode. *Science*, 324 : 1535.
- Smith, R. J. and Janz, H. (2009) Recent ostracods of the superfamilies Cytheroidea and Darwinuloidea (Crustacea) from Lake Biwa, a Japanese ancient lake. *Species Diversity*, 14 : 217-241.
- Tanaka, G., Smith, R. J., Siveter, D. J. and Parker, A. R. (2009) Three-dimensionally preserved decapod larval compound eyes from the Cretaceous Santana Formation of Brazil. *Zoological Science*, 26 : 846-850.

【一般向けの著作】

- スミス, ロビン ジェームス (2010) 新種を発見しました. *うみっこ通信*, 3, 琵琶湖博物館 : 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- スミス, ロビン ジェームス (2009年5月15日) 白亜紀と現代のキプリス上科(カイミジンコ)のシンクロトロン放射光分析. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

スミス, ロビン ジェームス (2010年2月10日) ESRF 2010 Users' Meeting, ESRF (European Synchrotron Radiation Facility), Grenoble, France.

スミス, ロビン ジェームス (2010年2月25日) Deutsche Tagung für Forschung mit Synchrotronstrahlung, Neutronen und Ionenstrahlen an Großgeräten, Freie Universität Berlin.

【研究プロジェクト等への参加】

共同研究「カシミジンコの触覚の起源と形態についての研究」(研究代表者: Dr. Geoff Boxshall, Dr. Dan Danielopol, Dr. Dave Horne and Dr. Ionel Tabacaru), 生物学 (2008年4月～2009年10月).

共同研究「白亜紀と現在のカシミジンコの放射光による分析」(研究代表者: Dr. Renate Matzke-Karasz), 古生物学 (2008年1月～).

共同研究「日本の地下水に生息するカシミジンコ」(研究代表者: 塚越アキラ), 分類学担当 (2007年4月～).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 分類学 (2007年4月～).

共同研究「3Dで保存されているブラジル白亜紀のエビの眼」(研究代表者: Dr. Gengo Tanaka, Prof. David Siveter, and Dr. Andrew Parker), 生物学 (2009年4月～2009年10月).

共同研究「イベリア半島の推定外来種カシミジンコ」(研究代表者: Dr. Francesc Mezquita), 生物学 (2009年4月～).

琵琶湖博物館専門研究「日本の『半陸生』カシミジンコについての調査について」, (2009年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zoological Science, 査読, 3件.

Hydrobiologia, 査読, 1件.

Invertebrate Systematics, 査読, 1件.

Revista de Biologia Tropical, 査読, 1件.

Current Zoology, 査読, 1件.

Species Diversity, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 2件.

Journal of Crustacean Biology, 査読, 1件.

Journal of Limnology, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2010年1月9日, カシミジンコからみえること. 新琵琶湖専門セミナー『湖と人間』, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月20日, 講義, JICA研修員, 琵琶湖博物館.

2009年10月15日, 講義, JICA研修員, 琵琶湖博物館.

2009年12月5日, 展示物の案内, JICA研修員, 琵琶湖博物館.

2010年2月21日, 琵琶湖博物館の概要, 立命館守山高等学校, 高校生国際みずフォーラム in 湖国・滋賀, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年11月19日, 毎日新聞/京都新聞/読売新聞/朝日新聞/産経新聞/中日新聞/NHK, 記者発表を行った琵琶湖の新種について, インタビュー, (2009年11月18日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室の烏丸半島についての展示の更新, 2009年11月.

世界の湖の展示コーナー, 清掃・管理.

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース, 担当.

JICA博物館学集中コース, カントリーレポートと閉講式に出席, 2009年9月15日, 琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース, 研修旅行のため, 2009年10月1日~2日, 奈良と南大阪.

JICA博物館学集中コース, 対応と研修員の世話, 2009年10月8日~14日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 展示物の案内, 2009年10月8日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 公開フォーラムに出席, 2009年11月3日, 国立民族学博物館.

JICA 博物館学集中コース, ファイナルレポートと閉講式に出席, 2009年12月10日, 国立民族学博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別講演会, 会場内でのマイクの手配, 2010年2月20日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

JICA 博物館学集中コース運営委員会, 運営委員.

主任技師

研究部生態系研究担当

(兼) 事業部展示担当

ニゴロブナの水田育成放流事業は、平成 15 年に始まり、現在は毎年 1000 万尾以上放流し、冬期のニゴロブナ資源の 10%前後を占めており大きな効果をあげている。その効果調査については、これまでは水田放養から流下までと冬期の琵琶湖内での資源量調査に重点を置かれており、水田流下後から琵琶湖に至るまでのニゴロブナ稚魚の動態は不明であった。そこで、今年の専門研究では昨年度に引き続きニゴロブナ稚魚の水田から流下後の行動を明らかにすることを目的とした。

2009 年度は水路内でのニゴロブナ稚魚の分布量を把握することを目的に標識再捕調査を行った。草津市下笠において前年同様に A L C 標識した稚魚を水田から約 20,000 尾流下させた。流下の 2 日後に腹びれを切り標識を施した稚魚 1,000 尾を、水路上流部に放流した。その後、同地区の幹線および支線排水路で叉手網にて稚魚の再捕調査を行った。その結果、幹線排水路の上流と支線排水路内では水田から下った幼魚が昨年同様に相当数生息していることが分かったが、標識魚の再捕率が低く、分布量を推定するには至らなかった。来年度は、引き続き琵琶湖に下るものと水路に残留するものの割合を把握する調査を行う予定である。来年度以降も調査を継続し、得られた成果について水田育成の適地選定など、ニゴロブナの資源回復へと生かしていきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・中島経夫・里口保文 編 (2009) うみっこ通信. 2, 琵琶湖博物館 : 4p.

裕 登志之・山川千代美・秋山廣光・磯田能年・前畑政善・ロビン・ジェームズ・スミス 編 (2010) うみっこ通信. 3, 琵琶湖博物館 : 4p.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田から流下したニゴロブナ稚魚の動態」, (2009 年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2009 年度).

農林水産省平成 21 年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「水田の魚類育成機能を活用した水産業と農業が両立できる新たな魚類及び水稻栽培技術の開発」(研究代表者:藤岡康弘), 「水田及び周辺水域の生態系保全のための魚類増殖技術の開発」研究担当者 (2009~2011 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館水族展示室，10 件。

2009 年 7 月 25 日，漁船に乗ってビワマス漁を見てみませんか，観察会，湖北町，主担当。

2009 年 9 月 20 日，アユの産卵用人工河川を見てみませんか，観察会，高島市，主担当。

2009 年 10 月 25 日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，観察会，高島市，副担当。

他の博物館・機関等主催行事

2009 年 4 月 25 日，琵琶湖の魚類相について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 8 月 5 日，琵琶湖博物館での体験学習，滋賀県中学校理科部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 8 月 7 日，外来魚解剖，伊丹市立教育総合センター研修，琵琶湖博物館，講師。

2010 年 8 月 22 日，外来魚解剖，水土里ネット日野川流域，琵琶湖博物館での体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 9 月 26 日，琵琶湖の魚類相について，立命館守山高等学校，レイクアカデミー講座，琵琶湖博物館，講師。

2009 年 12 月 12 日・2010 年 1 月 9 日，班ごとの学習担当，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，指導・助言，2 件。

2010 年 3 月 4 日，外来魚解剖，滋賀県立米原高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2009 年 6 月 6 日，びわこ放送，ときめき滋賀，出演，（2009 年 6 月 1 日・6 日取材）。

2009 年 6 月 14 日，BS 日テレ，自転車倶楽部，出演，（2009 年 5 月 28 日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料維持管理，主担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4 回。

水族企画展示「バックボーンができるまで」，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009 年度，琵琶湖博物館子ども向け情報誌，編集委員。

本年度は、主に専門研究と外部共同研究プロジェクトの地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」及び総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」という二つの領域で研究を進めてきた。専門研究では、琵琶湖集水域における溜池や泉の水利用と集落再生についての研究である。外部プロジェクトでは、琵琶湖と中国・太湖における水田環境をめぐる利用と保全についての比較研究である。その成果の一部は、世界湖沼会議での発表及び学術論文としての出版を行った。水を通して琵琶湖、印旛沼や中国・太湖との比較研究において「The impact of frequent flood and the factors of village formation」、「Is the large-scale organic rice farming around lake Biwa sustainable」というタイトルで共同研究の成果を発表した。来年度は、特に集水域の環境変化と集落としての取組及びその対応策について、琵琶湖と中国・太湖の事例検討を含めてさらに解明をしたいと考えている。また、さらに十分なデータに基づいた学術論文の出版および交流活動を進めていく。

交流事業については、交流グループの地域連携・地域交流を中心に博物館活動を行った。担当したフィールドレポーター業務においては、定例会、調査の企画、掲示板・調査結果、交流会の運営などのほか、特に多項目の地域調査活動や積極的な情報公開などを通じて、広い地域に大きな反響を呼んだ。これは、地域調査や交流活動の拡大という側面だけではなく、活発な地域活動との連携に繋がることとしても位置づけられる。

印刷物

【学術論文】

- 楊 平 (2009) 水域的共同利用与管理－太湖和琵琶湖流域村落の個案研究－. *中国環境社会学論文集*, 2, 河海大学社会学系: 528-533.
- 牧野厚史・楊 平 (2009) 東アジア湖沼の環境問題と住民－日本と中国における湖畔の村の環境問題－. *21世紀東アジア社会学*, 2: 56-74.

【一般向けの著作】

- 楊 平 (2009) 琵琶湖博物館特別セミナー. *フィールドレポーター掲示板*, 56, 琵琶湖博物館: 2.
- 楊 平 (2009) 世界湖沼会議. *フィールドレポーター掲示板*, 57, 琵琶湖博物館: 3.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 楊 平 (2007) 漁民による地域空間の複合利用戦略－中国太湖の湖岸利用を事例に－. *年報筑波社会学*, II (2): 53-69.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楊 平 (2009年4月25日) 水域的共同利用与管理－太湖和琵琶湖流域の村落個案研究－. 中国環境社会学学術研究会, 中国環境社会学会, 河海大学(中国・南京), [口頭発表].

楊 平 (2009年10月16日) 水田をめぐる環境利用と景観. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

湯浅たかし・楊 平 (2009年11月2日) The impact of frequent flood and the factors of village formation. 第13回世界湖沼会議, 中国(武漢), [口頭発表].

牧野厚史・楊 平 (2009年11月4日) Is the large-scale organic rice farming around lake Biwa sustainable. 第13回世界湖沼会議, 中国(武漢), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者(2008年度～).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者:夏原由博), 共同研究者(2009年度～).

総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化:景観の形成史」(研究代表者:内山純蔵), メンバー(2009年度～).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日中社会学会、選挙関連の運営、2009年度.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年11月16日, 立命館大学, 「近江草津論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

フィールドレポーター運営, 主担当.

他の博物館・機関等主催行事

2009年7月30日, 湖周辺の人々の暮らし, 滋賀県立膳所高等学校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講義.

2009年9月5日, 湖と環境と暮らしについて, 福島県若狭町鳥浜美島会, 会員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年12月15日, 人々の暮らしと水の使い方, 滋賀県立八日市高等学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2010年1月9日, 班ごとの学習担当, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 指導・助言.

視察対応

2009年9月3日, 研究交流, 中国科学院水生生物研究所, 琵琶湖博物館.

2009年9月17日, 琵琶湖博物館と琵琶湖, 中国国务院環境保護部汚染物質排放総量控制司, 琵琶湖博物館.

2009年9月18日, 湖沼間の研究連携, 中国湖沼研究専門家, 琵琶湖博物館.

2009年10月22日, 琵琶湖博物館と学校連携, 中国上海市教育代表团, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年10月22日, 京都新聞, 太湖と琵琶湖 研究関連について, (2009年10月18日取材).

2009年10月31日，京都新聞，水質悪化深刻 中国・太湖 共同研究について，(2009年10月22日取材)。

2009年11月2日，京都新聞，琵琶湖の成功 世界で生かせ，(2009年11月2日取材)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，湖沼に関する質問への回答，5件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【研究部関連事業】

2009年9月，「中国湖沼との対話へ向けて」琵琶湖博物館特別研究セミナー，企画運営，司会進行。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009年4月24日～5月3日，環境社会学会発表，中国河海大学。

2009年7月10日～24日，太湖周辺現地調査。

2009年10月31日～11月10日，第13回世界湖沼会議発表。

2010年1月12～1月22日，環境省「地球環境研究総合推進」プロジェクト，現地調査，中国江蘇省。

2010年2月9～2月23日，環境省「地球環境研究総合推進」プロジェクト，現地調査，中国浙江省・江蘇省。

専門学芸員

研究部博物館学研究担当

（兼）事業部資料活用担当

2009年度は、2008年度開催の大橋宇三郎氏のギャラリー展から派生した古写真回想を元に、癒しの展示が彦根地域で行われた。ギャラリー展が終了し、通常なら廃棄するパネルの再利用により少し気楽な町屋の展示が実現した。「はしかけ」でもある大橋洋氏と共に写真により地域の記憶を掘り起こし活性化に役立てられれば、博物館の資料として優れた活用法といえるだろう。博物館の写真資料は、多くのフィルムからデジタルデータを作り、様々な用途に加工され役立てられている。デジタル画像の利用はコンピューターの進歩に伴い急速に発展しているが、保存や利用に関しては問題点もある。機器依存の記録物であるため直接目視確認が出来ないことや完全な複製が可能なために起きる著作権に関する問題、機器やOS、アプリケーション等の進歩が著しく、全てがすぐに陳腐化するため定期的なマイグレーションやシステムの更新といった管理に手抜きが出来ない。フィルムと同じつもりで放っておいたら消失や再生不能の憂き目を見ることになる。琵琶湖博物館が出来てこれまでに行ってきたそんな写真とデジタル画像の利用状況について日本写真学会年次大会で報告した。実体のないデジタル画像は、博物館で保存する写真とは異なる物と考えている。画像データが固定化され、物質になったときに写真なのではないかとの思いがある。フィルムもプリントも生まれたときから写真だが、デジタル画像データは、まだ生まれ出る前の写真ではないか。その幽霊のような画像データだから電波やネットを経由してどこにでも現れるのではないか。これを捕まえておくことはなかなか難しいことで、記録メディアに捕獲しておいたつもりであってもいつの間にやら居なくなったり、取り出せなくなったりする。日本写真学会の画像保存セミナーに毎年参加するようになってからは、この幽霊のような存在を相手に色々考えさせられるようになった。また、日本写真療法家協会の活動に触れ、ロラン・バルトの言う写真に付随する行為が人の気持ちや心に対し得体の知れない作用力を持つことも知ることができた。カメラはデジタル化により以前より増して健康器具になった。多くの人々が、ありとあらゆる物にカメラを向ける現在の日本人の状況をほかに説明できるだろうか。今は、博物館資料としての写真保存から回想法や健康法という別世界に足を踏み入れてしまった思いである。

印刷物

【一般向けの著作】

秋山廣光・碓 登志之・山川千代美・磯田能年・中島経夫・里口保文 編（2009）うみっこ通信. 2, 琵琶湖博物館：4p.

秋山廣光・碓 登志之・山川千代美・磯田能年・前畑政善・ロビン・ジェームズ・スミス 編（2010）うみっこ通信. 3, 琵琶湖博物館：4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光（2009年5月27日）琵琶湖博物館の静止画整理と利用の実態についての報告. 日本写真学会, 東京工業大学, [口頭発表].

秋山廣光（2009年6月19日）写真回想～博物館における映像資料の収集と利用についての可能性～. 琵琶湖博物

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.

はしかけ「温故写新」，はしかけ制度，担当.

2009年4月19日，“飼育の日”水族展示バックヤードミニツアー，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月4日，水族展示の概要と設備について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月6日，生きもの飼い方，指導者のための博物館活用講座，教職10年経験の中小高特別支援学校教員，琵琶湖博物館，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2009年5月16日，川の生きもの調査，伊吹山文化資料館，講師.

2009年7月1日，琵琶湖の外来生物問題，武庫川女子大学附属中学校，琵琶湖博物館，講師.

2009年7月4日，生きものについてしろう!川のおさか調査とビオトープ観察，福寿土曜学校，西方寺境内および天神川、瀬田ビオトープ，講師.

2009年7月16日，外来魚調理，近江生涯カレッジ，琵琶湖博物館，講師.

2009年7月23日，博物館の魚・魚の解剖，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師.

2009年7月27・28日，課題研究，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，研究相談.

2009年7月30日，琵琶湖の生き物，滋賀県立膳所高等学校，スーパーサイエンスハイスクール，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月2日，琵琶湖の魚，上田上自治会，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月5日，外来魚調理，自然調査ゼミナール，滋賀県教育委員会理科教育部会，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月11日，滋賀県の外来生物問題，滋賀県教育委員会環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師.

2009年8月20日，こども淡水魚教室，川の生きもの伊川を愛する会，琵琶湖博物館，講師.

2009年9月1日，魚の解剖，環境レイカーズ，琵琶湖博物館，講師.

2009年9月20日，大戸川・田上地区の自然を親子で楽しむ日，ぼてじゃこトラスト，ウォーターステーション（大津市），講師.

2009年10月4日，ぼてじゃこ池&大戸川・田上地区調査，ぼてじゃこトラスト，瀬田、田上，講師.

2009年10月9日，地域研修会，東近江農業農村振興事務所田園振興課，アグリパーク，講師.

2009年10月21日，琵琶湖の魚について，環境学習，甲賀市立甲西北中学校，琵琶湖博物館，講師.

2009年10月25日，琵琶湖の魚と外来生物，常盤小学校，琵琶湖博物館，講師.

2009年12月12日・2010年1月9日，班ごとの学習担当，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，指導・助言，2件.

2010年2月21日，田上大好き、生き物大好き交流会，ぼてじゃこトラスト，ウォーターステーション（大津市），講師.

2010年3月1日，琵琶湖の魚について，博物館による環境と科学フェスティバル実行委員会，アクア琵琶（大津市），講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理（魚病担当）.

映像資料貸出, 49 件, 538 点 (前野コレクション、大橋コレクション、災害写真、魚類、その他の生物他).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009 年 3 月 24 日～4 月 12 日, 水族トピック展示「ハッタミミズ」, 副担当.

【企画調整活動】

新人職員等研修, 資料としての水族と展示手法, 講師, 2009 年 4 月 22 日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009 年度, 琵琶湖博物館子ども向け情報誌, 編集委員.

【館外の活動】

1990 年～2009 年, nets 滋賀の水生生物調査グループ, 会員.

1994 年～2009 年, ぼてじゃこトラスト顧問.

2005 年～2009 年, お魚ネットワークおおつ, 会員.

2006 年 8 月 1 日～2010 年 3 月 31 日, 滋賀県生きもの総合調査, 専門委員.

2009 年～, 特定非営利活動法人日本写真療法家協会, 理事.

2009 年, 湖北町健康づくり大学びわこキャンパス, 写真療法ワークショップ補助.

主任学芸員

研究部博物館学研究担当グループリーダー

（兼）総務部企画調整課

博物館学を展開していく前提となる方向性については、昨年度当初ごろに固めることができたところである。即ち、「機関連携」というキーワードを抛り所として博物館学を展開し、その具体的な連携対象として「地域内の博物館施設」「学校」の二者を当面は設定するというものである。これに基づいて具体的な活動を進めようとしたのであるが、関連する博物館事業について当面する課題の解決に向けた活動が多々進んだものの、研究成果という形に結びつく以前の段階での問題解決に手間取ってしまっているというのが現状である。

まず、「地域内の博物館施設」を対象とする具体的な活動である滋賀県博物館協議会については、昨今の財政事情により施設としての存立自体が危ぶまれる事態に陥る加盟館が続出する状況の中で事務局を担当することになり、協議会の舵取り自体に多大な精力を注ぎ込む必要が生じた。当面の成果としては、対処すべき目標が大きすぎて崩壊しかけた研修事業の計画を何とかまとめて大きな講演会を実現し、一方では協議会自体の組織改革の議論を高めて一定の結論をまとめることができた。これらの成果は、博物館連携組織の在り方に関する研究課題に潜在的に結びつくものではあろうが、具体的な研究成果に結びつく段階には至っていない。

それとは別に、担当事業の関連、あるいは過去の研究連携の関連で、全国的あるいは国際的な博物館連携組織と接触する機会が増え、その中で昨年度までの研究成果に基づく研究発信を進めることができた。しかし、これも現段階では潜在的な研究課題の可能性に留まっている。

一方の学校連携については、県の財政難による予算削減の影響で展示室内の回転実験室が従来通りに運営できなくなったことを機会に、教師や教育関係者を対象とする研修事業という形での展開が昨年度よりもさらに進展したが、これもやはり潜在的な研究課題の可能性に留まっている。

印刷物

【専門分野の著作】

戸田 孝・小川義和 ほか17名（2009）学校と科学系博物館等との連携による教員支援. 「第3期科学技術基本計画のフォローアップ「理数教育部分」に係る調査研究 [理数教員に関する調査結果報告]（平成20年度科学技術振興調整費調査研究報告書）」, 国立教育政策研究所：187-244.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中村公一・戸田 孝（2009年6月13日）博物館教員に関する実態調査とネットワーク化の取り組みについての報告. 全日本博物館学会第35回研究大会, 全日本博物館学会, 明治大学（東京都千代田区）, [口頭発表].

戸田 孝（2009年11月20日）博学連携の最近の動きの中で, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

TODA, T.（2009年12月7～9日）School-related program at Lake Biwa Museum. ICOM-ASPAC Conference in Tokyo 2009, Asia-pacific Regional Alliance of International Council of Museums, 国立科学博物館（東京都台東区）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」，(2009年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理研究会，運営委員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館各展示室，11件。

2009年7月22日，日食観察説明会，もっと楽しむイベント，琵琶湖博物館，講師。

2009年8月4日，回転実験室で水槽実験を！，博物館講座，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月4日，選択体験「回転実験室体験」，日野町教育研究会，平成21年度日野町夏季教職員研修，琵琶湖博物館，講義・実習。

2008年8月11日，コース別研修「コリオリの力」，滋賀県教育委員会，平成21年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講義・実習。

2009年10月30日，回転実験室と琵琶湖との関わり，京都府私立中学高等学校理科研究会，京都府理科研修会（物理部会），琵琶湖博物館，講義・実習。

2010年2月5日，回転実験室における水を使った実験，吉野郡科学教育研究会，琵琶湖博物館「体験学習」見学，琵琶湖博物館，講義・実習。

視察対応

2009年11月21日，学校と博物館との連携の具体的な取り組みについて，宮崎大学附属中学校，琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信，主担当。

情報システム整備および運営，副担当。

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，副担当。

全館員向けメールメッセージの館内公開。

琵琶湖博物館個人管理ページ（戸田），管理・運営，更新多数。

他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年度，気象に関する展示の維持管理，主担当。

2009年度，水理に関する展示の維持管理，主担当。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，情報利用とそのため施設，講義，2009 年 10 月 14 日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009 年度，広報経営戦略会議，メンバー.

2009 年度，滋賀県博物館協議会，事務局，主担当.

主任学芸員

研究部博物館学研究担当

（兼）総務部企画調整課

総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」では琵琶湖から新属新種の繊毛虫として記載した *Apocarchesium rosettum* の群体形成を細かく解析し、これまで繊毛虫では報告されていない、多細胞生物のような成長過程を明らかにした。また、「地球環境研究総合推進費」水田プロジェクトの一環として水田における繊毛虫の遷移過程の解析を行った。科研費プロジェクト「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」では分担者として北海道網走周辺および沖縄県南大東島で調査を行い。未記載種と思われる *Zoothamnium* 属の繊毛虫をそれぞれ1種ずつ見つけ、形態の解析を行った。

博物館の事業としては企画調整課でJICA博物館学集中コースの担当として、6カ国10人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートを行った。また、大学生が学芸員資格を取得するための博物館実習の担当として、8大学15名の学生を受け入れ、プログラムのコーディネートを行った。

11月から12月にかけてタイの国立 Mahidol Wittayanusorn School から招待され、同校が計画している川の環境と人々の暮らしをテーマにした博物館に対して助言や指導を行った。また、生徒に対してプランクトンに関する実習や、水田およびマングローブの生き物調査の指導をした。

印刷物

【学術論文】

- Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2009) Morphological and molecular characterization of *Histiobalantium natans viridis* Kahl, 1931 (Ciliophora, Scuticociliatia). *European Journal of Protistology*, 45 : 193-204.
- Chen, X., Li, Z., Hu, X. and Kusuoka, Y. (2010) Morphology, morphogenesis and gene sequence of a freshwater ciliate, *Pseudourostyla cristata* (Ciliophora, Urostyloidea) from the ancient Lake Biwa, Japan. *European Journal of Protistology*, 46 : 43-60.
- Yamazaki, M., Ohtsuka, T., Kusuoka, Y., Maehata, M., Obayashi, H., Imai, K., Shibahara, F. and Kimura, M. (2010) The impact of nigorobuna (crucian carp) larvae/fry stocking and rice-straw application on the community structure of aquatic organisms in Japanese rice fields. *Fisheries Sciences*, 76 (2), 日本水産学会 : 207-217.

【一般向けの著作】

- 楠岡 泰 (2010) 単細胞は単純か？. 今森洋輔 著, *水草の森ープランクトンの絵本*, 岩崎書店, 東京都 : 32.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 一瀬 諭・島野智之・西野麻知子・楠岡 泰 (2009年9月14日) A taxonomical study of *Diffflugia biwae* Kawamura, 1918 as a local endemic species of Ancient Lake Biwa. 5th International Symposium on Testate Amoeba,

Universite de France-Comte, [口頭発表].

楠岡 泰 (2009年8月18日) 原生生物に固有種は存在しうるのか? : *Apocarchesium rosettum* の生活史から考える. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

楠岡 泰 (2009年11月1日) 琵琶湖固有とされる原生生物の現状. 第42回日本原生動物学会シンポジウム「原生動物の多様性モニタリング」, 石巻専修大学, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・グライガー), 副代表者 (2006~2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2006~2009年度).

地球環境研究総合推進費「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」(研究代表者: 夏原由博), 研究協力者 (2009年度~).

文部科学省科学研究費基盤研究(B)「気候変動が引き起こす原生動物の多様性減少モニタリングのための分類学的基盤の構築」, (研究代業者: 重中義信), 研究分担者 (2009年度~2011年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年9月1日, JICA水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2009年9月11日, JICA水環境を主題とする環境教育コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2010年2月3日, JICA湖沼環境保全のための統合的流域管理コース, Environment of Lake Biwa.

2010年2月26日, JICA中東地域博物館研修コース, Lake Biwa museum and the local community.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

里山体験教室, はしかけ担当, 4回, 西村知記・はしかけ「里山の会」共同.

はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」, 主担当.

はしかけ「里山の会」, 副担当.

2009年6月13日, プラばらープランクトンでばらばらまんがー, 体験学習, 講師, (飯住達也・大依久人・びわたん共同).

2009年6月20日, 不耕起の田んぼで生き物観察, 観察会, 高島市朽木生杉, 講師, (西村知記共同・朽木いきものふれあいの里共催).

2010年1月23日, 絨毛虫類の不思議, 新琵琶湖専門セミナー『湖と人』, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2009年6月11日, プランクトンの観察・展示案内, 日本国際協力センター(インドの高校生), 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月9日, プランクトンの観察, 彦根東高等学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月4日, プランクトンの観察, 日野町教育委員会, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月5日, プランクトンの観察, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月17日、プランクトンの観察、甲賀市教育委員会教員研修、甲賀市立佐山小学校、講師。
2009年8月19日、プランクトンの観察、大阪府立泉北高等学校、琵琶湖博物館、講師。
2009年9月17日、プランクトンの観察・展示案内、日本国際協力センター（ベトナムの高校生）、琵琶湖博物館、講師。
2010年1月28日、プランクトンの講義、甲賀市立伴谷東小学校、琵琶湖博物館、講師。
2010年3月4日、プランクトンの観察、滋賀県立米原高等学校、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2009年4月14日、展示案内および事業説明、ラグナ湖開発公社研修団：フィリピン、琵琶湖博物館。
2009年9月1日、展示案内、JICA水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育コース、琵琶湖博物館。
2009年9月11日、展示案内、JICA水環境を主題とする環境教育コース、琵琶湖博物館。
2009年10月13日、ディスカッション、「DENSO YOUTH for EARTH Action～新・地球人プロジェクト」学習、琵琶湖博物館。
2010年2月3日、展示案内、JICA湖沼環境保全のための統合的流域管理コース、琵琶湖博物館。
2010年2月19日、地域との連携について話す、千葉中央博物館視察、琵琶湖博物館。
2010年2月25日、展示案内、香港マスメディア視察団、琵琶湖博物館。
2010年2月26日、JICA中東地域博物館研修コース、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

JICA 博物館学集中コース「カントリーレポート」発表会を開催します、(2009年9月11日資料提供)。
JICA 博物館学集中コース研修で子ども達と一緒に伯母川探検を行います、(2009年10月9日資料提供)
琵琶湖で新たに4種類(新種)のカイミジンコを発見しました、(2009年11月18日記者発表)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画、撮影および指導、約2,000件。
微小生物動画、撮影および指導、約20件。
微小生物プレパラート、作製および指導、約50件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。
2009年、常設展示：プランクトンコーナー、維持管理、展示更新(年4回)。
2009年、常設展示：ミクロの世界、維持管理。
2009年、常設展示：どぶ川の生き物たち、維持管理。

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館実習、主担当、2009年度。
電子メールによる質問、主担当、2009年度。
来館者調査、主担当、2009年度。
国際交流、副担当、2009年度。
JICA 博物館学集中コース、主担当、2009年度。
JICA 博物館学集中コース、Introduction to the Lake Biwa Museum、講義、2009年10月8日、琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース，展示見学，解説，2009年10月8日，琵琶湖博物館，（スミス共同）。

JICA 博物館学集中コース，はしかけおよびフィールドレポーターとの懇談，コーディネートおよび司会，2009年10月10日，琵琶湖博物館，（布谷・スミス・フィールドレポーター・はしかけびわたん共同）。

JICA 博物館学集中コース，体験学習プログラム見学および体験，コーディネート，2009年10月10日，琵琶湖博物館，（飯住・はしかけびわたん共同）。

JICA 博物館学集中コース，地域の子供たちと環境調査，観察会講師，2009年10月11日，伯母川（草津市）。（スミス共同）。

JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2009年10月11日，琵琶湖博物館，（黒岩・布谷・スミス共同）。

JICA 博物館学集中コース，北海道博物館見学，引率，2009年11月20日～23日，北海道開拓記念館など7施設，（国立民族学博物館共同）。

JICA 博物館学集中コース個別研修，はしかけ里山の会活動見学，コーディネート，2009年11月8日，琵琶湖博物館，（スミス・はしかけ里山の会共同）。

JICA 博物館学集中コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2009年11月9日，琵琶湖博物館，（スミス共同）。

JICA 博物館学集中コース個別研修，Miho ミュージアムおよび陶芸の森見学，引率，2009年11月10日，Miho ミュージアムおよび陶芸の森，（スミス共同）。

JICA 博物館学集中コース個別研修，高校体験学習の見学，観察講師，2009年11月12日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム国際コーナーの計画，2009年11月12日，琵琶湖博物館，（芦谷・スミス共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

JICA 博物館学集中コース運営委員会，運営委員。

【海外渡航】

2009年11月25日～12月11日，タイ王国 Wittayanusorn School，計画中の川の環境と人の暮らしに関する展示館への助言。

【館外の活動】

2009年4月～2010年3月，京都府立大学，非常勤講師。

主任学芸員

研究部博物館学研究担当

（兼）事業部展示担当

全体としては、復活に向けての第2歩のような1年であった。病気による体調不良を気にしながら、復帰後初めての館外での講演会や行事を行うことができた。また、科研費の研究にも関わることができた。本当に長く低迷した状態が続いているが、このように少しずつ仕事を増やしながら、研究および事業の両方について活動を広げていき、なるべく元の状態に戻れるようしていきたい。

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費基盤研究(C)「学校標本の保存・整備を通じた博学連携促進に関する基礎的研究」(研究代表者：岩崎誠司), 研究分担者 (2009年4月～2012年3月).

琵琶湖博物館専門研究「イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究」, (2009年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月20日, 「ヨシぶえをつくろう! ~びわこのヨシがやってきた~」(びわたんとのコラボ), キッズプラザ大阪, 企画展「7つのとびら」, キッズプラザ大阪(大阪府大阪市), お話とディスカバリーボックス紹介.

2009年12月12日, 水草について, 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講義.

2009年12月13日, 琵琶湖のヨシについて, 瀬田川リバプレ隊, 船上(滋賀県大津市・草津市), 講師.

2010年1月9日, 水草について, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2009年8月22日, 展示ハイライトツアーおよびバックヤードツアー, 三重県新博ティーンズ・プロジェクトのメンバー, 琵琶湖博物館.

2010年2月4日, 展示交流・びわたん・生活実験工房その他について, 東京ガス・エネルギー館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年5月9日, 毎日新聞, マンガを語ろう, インタビュー, (2009年4月29日取材).

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース, ディスカバリールームの運営と考え方, 講師, 2009年10月13日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, ディスカバリールームの国際コーナーの計画, 講師, 2009年11月12日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員。

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員。

2002年8月～，守山なぎさ地区保全地域協議会，委員。

2003年1月～，滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員。

2009年4月～2010年3月，国立科学博物館，平成21年度文部科学省委託事業「環境学習プログラムの体系的開発に関する調査研究」普及グループ，委員。

2009年11月～，平成21年度新技術振興渡辺記念会委託調査・研究事業「科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発－」，研究委員。

主任学芸員

研究部博物館学研究担当
(兼) 事業部交流担当

民俗学部門担当の学芸職員として、開館以来、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当してきた。平成20年度から、新設された「資料活用学」の担当となり、事業部も交流担当の地域連携、フィールドレポーターの担当として、昨年に引き続き、事務学芸室の団体受付カウンターにほど近い席で仕事する日々を送った。この一年を振り返ると、今までの研究・教育・福祉分野に加え、産業・マスコミ・まちづくり分野にも、連携が広がった一年であった。

研究・教育分野との連携は、しが文化芸術学習支援センター、近江昔くらし倶楽部との協働による授業として、今までやってきた綿と草木染めをテーマとするものに加え、小学生4.5年生を対象として「琵琶湖博物館を100倍楽しむ秘訣」とヨシ笛づくり・展示見学という、新しいテーマについて実践できた。草木染めは、前年度に行った草津養護学校の中学部の同じクラスの子どもたちと2年目の実践を行った。また、綿についての授業実践は、草津養護学校の中学部と高等部で綿の栽培を行い、自ら育てた綿で糸や布をつくるというものにまで発展した。いずれも、先生の熱意と子どもたちの意欲から、一人ひとりに深い学びをもたらした実践であった。そして、ひょんなことから、京都大学総合博物館での「学術映像博2009」の関連イベントに近江はたおり探検隊への協力依頼があり、ベトナムの伝統的な織物「ゼン」を現地の方が原始機で織りの実演をされる中、日本の織りと比較しながら解説を行った。娘のために織りを復活させようと学んだ現地の母親たちや、一度消えた織りの技術を復活させる国際協力活動を支える研究者との縁ができたことは大きな財産となった。また、長浜城歴史博物館の特別展示「糸の世紀・織りの時代」関連では講座で発表させていただきだけでなく、担当の橋本学芸員に講演に来ていただいた機会に、県内の糸と織りに取り組む地場産業を支える若者や市民グループ、大学・研究施設などのネットワークを発足。2010年度に開催するギャラリー展示「温故知新・近江の糸と織り（仮）」に向けてのスタートがきれた。

さらに、2011年3月滋賀の食事文化研究会が20周年を迎えるとのことで、近江昔くらし倶楽部との共同例会「作ってみよう・滋賀の味」を開催。2010年度に滋賀の食事文化研究会20周年記念「食事（くいじ）博」でその成果を展示発表する予定である。

産業・まちづくり分野との連携については、おうみ未来塾10期生の「おうみこっこん夢つむぎ」が行う、県内で栽培した綿で作品をつくって販売するという活動や、スローフード滋賀設立準備委員会にも関わり「近江スローライフの会（仮）」発足に向けて協力した。びわ湖・まるエコ・DAY2009の実行委員会メンバーとして、老若男女、あらゆる分野の市民活動グループと関わった。木考塾とは、近江昔くらし倶楽部との共同例会「住まいの小学校」を開催。こだわり滋賀ネットワークとの連携も深めつつあり、これからの協働が楽しみである。

こうした連携実践について、本館博物館学研究担当の戸田学芸員の紹介で、全国科学博物館協議会でポスター発表の機会を得ることができた。テーマは「連携—その先の未来へ—」。私は「博物館資源の有機的活用とコーディネーターとしての学芸員の重要性」と題して発表。科学博物館には場違いな昔くらし体験についての事例にも関心を寄せてくださる方もいて交流が深まった。また基調講演や事例の口頭発表では全国の科学館の先進的な実践例に触れ、同志の奮闘振りに大いに触発された。

2010年度は「しがの衣食住博 in びわ博（仮）」という看板を掲げ、滋賀の風土で培われた衣食住というテーマに関連する地域活動を紹介するイベントを立て続けに開催する。びわ湖・まるエコDAYを刷新した「びわこ大縁日」、「温故知新・近江の糸と織り」、「食事博」・・・それぞれ、意欲ある仲間たちと会合をもつたびに、新しいアイデアが出され実現に向けて準備が進む。連携のもたらす予想外の恵みの大きさにわくわくしながら過ごす毎日である。

印刷物

【一般向けの著作】

中藤容子(2009)巻頭言. フィールドレポーター掲示板, 55, 琵琶湖博物館:1.

中藤容子(2009)フィールドレポーターはいったいどこに生息しているのか?. フィールドレポーター掲示板, 56, 琵琶湖博物館:11-12.

中藤容子 編著(2009) 工房通信., 2009年3月2日~2010年2月22日号(全8号), 琵琶湖博物館はしかけ「近江昔くらし倶楽部」.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中藤容子(2009年6月19日)「昔くらし体験」をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義(1). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中藤容子(2010年2月25・26日)博物館資源の有機的活用とコーディネーターとしての学芸員の重要性. 第17回研究発表大会, 全国科学博物館協議会, 仙台市科学館(仙台市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究『昔のくらし』をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義, (2009年度).

JST 研究プロジェクト「滋賀をモデルとする自然共生社会の将来像とその実現手法」(研究代表者:内藤正明), 共同研究者(2009年度~).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年9月30日, 滋賀県立大学人間文化学部, 講義・実習.

2009年10月23・30日・11月6日, 龍谷大学国際文化学部, 「民俗学入門」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

地域連携・フィールドレポーター, 副担当.

はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」主担当.

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」副担当.

2009年4月~2010年3月, 工房田んぼ作業・行事, 琵琶湖博物館, 協力.

2008年9月23日~2009年3月10日, お蔵探検, はしかけ「展示室を楽しくする会」「近江昔くらし倶楽部」活動, 安土町・彦根市, 3回.

2009年4月4~6日, はたおり合宿 in 黒田京北, はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動, 黒田基幹集落センター(京都市右京区), 運営.

2009年4月18日~2010年3月6日, 織姫の会, 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 8回.

2009年4月18日~2010年3月14日, 工房田んぼ作業・行事, 琵琶湖博物館, 協力, 7回.

2009年4月21日～2010年3月24日，工房を楽しもう！，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，11回。
2009年4月25日～2010年1月30日，作ってみよう・滋賀の味，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，琵琶湖博物館，5回（滋賀の食事文化研究会と共同）。
2009年5月9日～2010年3月20日，昔くらし探検・研究会，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，7回。
2009年6月7日～2009年12月2日，住まいの小学校，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，琵琶湖博物館，4回（木造在来工法住宅を考える会 木考塾と共同）。
2009年7月7日，近江はたおり研究会（第31回），はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，琵琶湖博物館。
2009年8月20～23日，昔くらし合宿・2009夏 in 黒田京北，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，黒田基幹集落センター（京都市右京区），運営。
2009年11月12日～2010年3月28日，古民家再生プロジェクト（子どもネットワークセンター天気村），はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，大津市葛川細川町，7回。
2009年11月19日，昔のくらしから学ぶー博物館の展示がいかに活用できるかー，指導者のための博物館活用講座・平成21年度10年経験者研修，琵琶湖博物館・滋賀県総合学習センター，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2009年6月24日，琵琶湖にまつわる食体験保育，若鮎保育園，琵琶湖博物館，講師。
2009年8月4日，人とびわ湖の歴史ーB展示室・C展示室・屋外展示「生活実験工房」ー，平成21年度日野町教職員研修会，日野町教育委員会，琵琶湖博物館，講義。
2009年8月11日，昔のくらしから学ぶー博物館でいかに学び，これからの暮らしにどう活かすかー，平成21年度環境教育研究協議会教員研修会（小学校教員），滋賀県教育委員会，琵琶湖博物館，講義。
2009年8月29日，湖国に残る織物から学び伝えようー近江はたおり探検隊ー，長浜城歴史博物館友の会，長浜市長浜城歴史博物館（長浜市），講演・実習。
2009年9月24日，「食と農の環境問題」について，食生活研究部会研修，長浜市健康推進協議会，琵琶湖博物館，講義。
2009年9月29日，草木染めをしよう，草津養護学校中学部，草津養護学校（草津市），実習（近江昔くらし倶楽部，しが文化芸術学習支援センター協力）。
2009年10月3日，ワークショップ：母から娘へ、未来をつむぐ織物「ゼン」，学術映像博2009 特集 自然と暮らし，京都大学大学院地球環境学堂アジア・プラットフォーム，京都大学総合博物館（京都市），協力。
2009年10月14日，生活実験工房での昔くらし体験と布ぞうりづくり，滋賀県高等学校教育研究会 家庭部会 南地区研究協議会 研修会，琵琶湖博物館，講義・実習（野間孝男氏と共同）。
2009年10月22日，農村のくらし展示と生活実験工房における回想法の可能性，回想法ボランティアいきいき，琵琶湖博物館，講義。
2009年11月10・11日，綿の栽培から糸へ布へ，草津養護学校中学部，草津養護学校（草津市），実習，2件，（近江昔くらし倶楽部，しが文化芸術学習支援センター協力）。
2009年11月27日，琵琶湖博物館を100倍楽しむ秘訣とヨシ笛づくり，守山市立河西小学校5年，琵琶湖博物館，講義・実習。
2009年11月28日，「農村のくらし」展示見学会，びわ湖・まるエコ・DAY2009 交流イベント，琵琶湖博物館。
2009年11月29日，体験プログラム「コットン体験」，おうみこっとな夢つむぎ，びわ湖・まるエコ・DAY2009 交流イベント，琵琶湖博物館，協力。
2009年12月1日，2009 トークライブ café「大工棟梁宮内寿和さん映像上映会&お話・交流会」，トークライブ café プロジェクトこだしが舎，琵琶湖博物館，協力。
2009年12月3日，地域づくり交流会「懐かしい未来の地域づくり～中山道とともに～」，滋賀県自治振興課，琵琶湖博物館，協力。
2009年12月4日，環境・ほっと・カフェ（環境首都編）「環境先進都市に学ぶ持続可能な地域づくり」，滋賀県環

境学習支援センター，琵琶湖博物館，協力。

2009年12月5日，地域づくり交流会「これからの新しいコミュニティの活動～コミュニティ・ビジネスのすすめ～」，滋賀県自治振興課，琵琶湖博物館，協力。

2009年12月5日，第5回近江地域再生フォーラム「ここでなりわいを生むー地域資源のデザインと地域再生ー」，滋賀県立大学 近江環人地域再生学座 地域再生研究会，琵琶湖博物館，協力。

2009年12月6日，内藤正明氏講演会「滋賀をモデルに、持続可能な社会を描く」，NPO 法人五環生活・琵琶湖環境科学研究センター，琵琶湖博物館，協力。

2009年12月6日，未来予想図エピソード「未来予想絵図を囲んで語るワークショップ」，NPO 法人五環生活，琵琶湖博物館，協力。

2009年12月17日，琵琶湖博物館を100倍楽しむ秘訣と富江家のくらし，草津市立志津南小学校4年，琵琶湖博物館，講義。

2009年12月19日，餅つきとしめ縄づくり，NPO 法人子どもネットワークセンター天気村こんぺいとうクラブ，天気村（草津市），講義・実習。

2010年2月8日，交流学习「渋川の昔を学ぼう」，草津市立渋川小学校・草津市コミュニティ事業団，草津市立渋川小学校，実習・協力（「ふるさと絵屏風」，近江昔くらし倶楽部協力）。

視察対応

2009年8月26日，生活実験工房での民具活用，東北学院大学歴史学科，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2009年5月30日，中日新聞，古い道標 文化財保存を 琵琶博登録市民ら県内259基 3割、明治より前 歴史知る資料パネル展示，（2009年5月13日取材）。

2009年6月6日，朝日新聞，分布状況他県と比較 テントウムシ模様調査，（2009年6月3日取材）。

2009年6月10日，毎日新聞，テントウムシ 生息調査 学校などに参加呼びかけ，（2009年6月3日取材）。

2009年6月13日，読売新聞，テントウムシ分布調査 琵琶湖博物館 初の一斉、協力呼びかけ，（2009年6月3日取材）。

2009年6月20日，中日新聞，身近なテントウムシ採集 初の全県分布調査 県立琵琶湖博物館 一般参加も募る，（2009年6月3日取材）。

2009年6月21日，京都新聞，綿 栽培 繰り 染め 織り 復活へ夢つむぐ 文化体験や商品も。

2009年9月1日，広報もりやま，「WA（和・輪）の河西」をテーマに「河西夏祭り」開催，（2009年8月2日取材）。

2009年11月，知りたい！すぐできる食育・食育実践園ルポ「昔の人の食生活を体験！」，新しい保育サポートマガジン ポット11月号 pp.56-57，株式会社チャイルド本社（2009年6月24日取材）。

2009年11月3日，中日新聞，地場産品の魅力発信 スローフード設立準備委が発足，（2009年10月31日取材）。

2009年11月25日，毎日新聞，びわ湖・まるエコ・DAY2009 85団体が活動紹介や交流 28日から県立琵琶湖博物館（2009年11月取材）。

2009年11月28日，読売新聞，エコ活動成果13団体が発表 草津でイベント，（2009年11月28日取材）。

2009年11月29日，京都新聞，草津 びわ湖・まるエコ・DAY 開幕 環境活動子どもたち発表 大賞に「山内クラブ」，（2009年11月28日取材）。

2009年11月29日，中日新聞，湖国の将来を絵に 草津 びわ湖・まるエコ・DAY，（2009年11月28日取材）。

2009年11月30日，毎日新聞，びわ湖・まるエコ・DAY 県内の環境団体交流，（2009年11月28日取材）。

2009年12月6日，中日新聞，草津で地域再生フォーラム開催 街並み整備など紹介，（2009年12月5日取材）。

2009年12月25日，読売新聞しが県民情報，草津「びわ湖・まるエコ・DAY2009」未来予想絵図づくりワークショップ 自然と共存ーみんなの願い，（2009年12月6日取材）。

2010年1月6日，京都新聞，琵琶博「はしかけ」制度10年 研究で地域の魅力発掘 藻やエビで論文 機織り機

を自作 広がる市民の活動, (2009年12月取材).

2010年1月22日, NHK, 「近江ことば いまむかし」調査参加募集, (2010年1月14日取材).

2010年1月23日, 毎日新聞, 「近江ことば」どれだけ使ってる? 方言調査 県立琵琶湖博物館 県民の参加呼びかけ, (2010年1月14日取材).

2010年1月26日, 京都新聞, 県内の方言調査 参加者を募集 琵琶湖博物館, (2010年1月22日取材).

2010年2月2日, 滋賀報知新聞, 滋賀県の方言調査 琵琶湖博物館が参加者募集, (2010年1月取材).

2010年2月8・9日, ZTV 滋賀放送局, 渋川小学校4年生交流学习「渋川の昔を学ぼう」, おうみ! かわら版滋賀, (2010年2月8日取材).

2010年2月11日, エフエム滋賀, 「近江ことば」調査について, (2010年2月取材).

2010年2月17日, エフエム滋賀・平和堂マイデイリーライフ, 博物館へ行こう! はしかけ活動について, 出演.

2010年3月14日, 中日新聞 Web 版, ビニールハウスが憩いの美術館 栗東で竹村さんの水彩画展, (2010年3月13日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

近江昔くらし倶楽部ブログ, 製作・更新.

「工房通信」メールマガジンの発行 (年間15号).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫維持管理業務, 環境資料整備, 主担当.

民俗収蔵庫維持管理業務・民俗資料整備, 副担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

2009年度, 常設展示B展示室「湖に生きる人々」コーナー展示, 主担当.

2009年度, 生活実験工房 (屋外展示) 展示, 主担当.

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻・藍・青花を栽培, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2010年3月7日, はしかけ・フィールドレポーター活動発表会, 近江昔くらし倶楽部、フィールドレポーター担当.

他博物館・機関の行事

2009年11月28日～12月6日, 琵琶湖博物館フィールドレポーター、琵琶湖博物館はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」, びわ湖・まるエコ・DAY2009, びわ湖・まるエコ・DAY2009 実行委員会, 琵琶湖博物館, 出展.

【企画調整活動】

新任職員等研修, B展示室・生活実験工房, 2009年4月21日, 琵琶湖博物館, 2件.

JICA 博物館学集中コース, 資料整理と利用, 講師, 2009年10月14日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2009年11月28日～12月6日, びわ湖・まるエコ・DAY2009, びわ湖・まるエコ・DAY2009 実行委員会, メンバー.

主査

研究部博物館学研究担当

（兼）事業部交流担当

博物館と学校とがよりよい連携を図るために、琵琶湖博物館では体験学習を行っている。2009年度の体験学習の実施数は、110校で9,460人にも及ぶ。よりよい連携を図るために、その体験学習を見直し、新しいプログラムの開発に力を注いだ。

1. ソラシのヨシ笛

今までのヨシ笛は、長さが8・11・15cmと見かけの形が決まっていて、音階が決まっているというわけでもなく、ホイッスルのようなものであった。そこで、3本の音階の決まっているものを作り、家に帰ってからでも鳴らしたくなる簡単な楽器を作ることにした。あわせてひものくくり方を簡単にし、簡単な曲の練習ができるように工夫した。

作り方が容易になり、簡単な曲を鳴らすことができるようになったことが伺える。「楽しかった」「ヨシを大切にしたい」の評価が横ばいなのが気になるが、心に余裕ができ、「ヨシの働き」についても理解が進んだのかもしれない。ヨシを鳴らした日数も増え、ヨシや琵琶湖に想いを馳せる日がきっと増えたことであろう。しかし、今度は鳴らないことで気落ちしている子が出てきたので、うまく鳴らせるよう指導法を工夫したい。

2. 琵琶湖富栄養化問題の学習

学校との打ち合わせの際に、「琵琶湖の水質についてのプログラムはありませんか。」と尋ねられることが何度か有り、その必要性を感じていた。そこで、2年前に行った小学5年生総合学習「びわ湖をよごすもの」をもとにして、博物館での1時間の学習プログラムを開発した。

実施したのは11月5日、三重県員弁郡東員町立神田小4年2クラス72名。7月27日の下見の際に、下水処理の学習をした子ども達に、川の水質に関する総合学習をさせたいとの依頼があり、このプログラムを実施した。東員町の川は琵琶湖にはつながっていないが、校区は川の中流域にあることと、下水道が整備されつつある校区であることなどから、自分たちが流す家庭排水が川をよごす原因になっていることを、琵琶湖を一つのモデルとしてとらえられると考えたからである。池や琵琶湖が濃い緑色ににごって見えるのは植物プランクトンが増えたためであり、植物プランクトンが増えたのは栄養分を含んだ家庭排水がたくさん流れてきたからだと、先生に補足してもらって、一人一人にしょう油のタレビンを渡し、汚れる原因となった家庭排水を自分で考えて持ってこさせた。さらに来館時に琵琶湖を見てもらうようにした。

子ども達は、生ゴミを流した水、野菜のあく汁、食器を洗った水、洗濯水、ジュース、米のとぎ汁など、思い思いにいろいろな水を持ってきた。試験管の水に、家庭排水を2滴入れ、試薬を入れて待つこと10分。（その間にせっけん運動の話の話を聞いている。）自分や友だちが持ってきた水が青くなったり、ならなかったりすることに驚き、どんなグループが青くなるのかを話し合い出した。およそ、食べたり飲んだり口にするものが青くなる、つまりリンという栄養が多いことをまとめた。そして、せっけん運動の話の中で、かつては合成洗剤の中含まれていたリンが、琵琶湖の富栄養化（汚れ）の原因になっていたこと、そのことに気づいたお母さんたちが運動を起こし、県や企業を動かし、少しずつ透明度はよくなってきていることを話した。

琵琶湖がきれいになってきているもう1つの原因は、下水道が普及してきたことである。下水の処理施設で働いている人の話を聞き、家庭排水の正しい流し方について学習し、少量ではあるけれども、各自持ってきた家庭排水について正しい処理をして、家庭での実践の意欲化を図った。

自由記述の感想を見てみると、「自分の家から出る水が琵琶湖や川を汚す原因だったので、今度からはもっと注意して処理をしなきゃいけないんだなあと思いました。」と言ったものが多かった。また、学校で琵琶湖（博物館）新聞を作成している。作成しやすいように3つの記事に限定してある。1つはこの実験。1つはクイズ。

もう1つが自由。魚をテーマにしている子が圧倒的に多いが、プランクトンにとってのすみやすい水を取り上げている子も何人かいた。これは、関心の高まりを示しているし、人間にとって汚れたきたない水もプランクトンにとってはいい水であることにショックを受け、多面的な見方が育ちつつあることを示している。

今後は、プランクトンを学習する5年生以上で、このプログラムを実施するつもりである。

印刷物

【一般向けの著作】

山川千代美・飯住達也・大依久人(2009) いってみよう 科学探検. *理科教室*, 3月号(663), 株式会社日本標準・科学教育研究協議会: 62-63.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大依久人(2010年3月19日) 琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携をめざして～新しい体験学習プログラムの開発～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年4月～2010年3月, 滋賀の教師塾塾生, 解剖実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年4月～2010年3月, 「プランクトンのぱらぱらまんが」等8講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 13件(はしかけグループ「びわたん」と共同).

2009年6月1日, 学校サテライト博物館移動, 学校サテライト博物館, 湖北町立朝日小学校・高島市立青柳小学校, 運営.

2009年7月1日, 学校サテライト博物館オープニング, 学校サテライト博物館, 高島市立青柳小学校, 運営.

2009年7月～2009年10月, 「骨ほね調査隊」等1講座, 企画展関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画運営, (はしかけグループ「びわたん」と共同).

2009年7月22日, 日食観察説明会, もっと楽しむイベント, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 3件.

2009年11月8日, はしかけ登録講座, はしかけ事業, 琵琶湖博物館, はしかけグループ「びわたん」活動紹介.

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月～2010年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 58件.

2009年4月～2010年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 8件.

2009年5月16日, 天野川探検隊, 伊吹山文化資料館, 伊吹山文化資料館(米原市), 講師.

2009年6月4・9日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、2件。

2009年6月～2010年2月、琵琶湖学習、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、12件。

2009年6月17日、環境学習関係施設等連絡会議、滋賀県生涯学習課、環境学習関係施設等連絡会議、滋賀県大津合同庁舎（大津市）、アドバイザー。

2009年6月26日、咽頭歯標本作製、滋賀県総合教育センター、理科実習助手講座、琵琶湖博物館、講師。

2009年7月9日、琵琶湖博物館実習、滋賀県立彦根東高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。

2009年7月21～28日、琵琶湖探究、滋賀県立石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件。

2009年7月23・30日、琵琶湖研修、滋賀県立膳所高等学校・滋賀県立守山高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター、2件。

2009年7月27日、わら細工・ヨシ笛づくり、和ふれあいセンター、夏休み子どもわんぱく塾、和ふれあいセンター（米原市）、講師。

2009年7月31日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2009年8月4日、琵琶湖博物館実習、日野町教育委員会、日野町教職員夏季研修会、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。

2009年8月5～6日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2009年8月7日、琵琶湖博物館での体験学習、伊丹市総合教育センター、授業力向上理科実験講座、琵琶湖博物館、講師。

2009年8月10日、琵琶湖博物館での体験学習、草津市教育委員会、草津市教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2009年8月11日、琵琶湖博物館での環境学習、滋賀県教育委員会、環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年8月19日、琵琶湖研修、大阪府立泉北高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年9月2日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県環境学習支援センター、企画者のための環境学習体験講座、琵琶湖博物館、講師。

2009年11月5日、琵琶湖博物館の学校連携、滋賀県総合教育センター、都道府県指定都市教育センター所長協議会初等理科部会、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年11月9～10日、職場体験学習、草津市立新堂中学校、職場体験、琵琶湖博物館、受入。

2009年11月21日、プランクトンの観察、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館、講師。

2010年2月5日、琵琶湖博物館での体験学習、吉野郡科学教育研究会、教員研修会、琵琶湖博物館、講師。

2010年2月12日、博物館の紹介、滋賀県生涯学習課、学校支援メニューフェア、ピアザ淡海（大津市）、講師。

2010年2月22日、学校連携、滋賀大学教育学部、コアサイエンスティーチャー養成拠点構築事業、滋賀大学教育学部（大津市）、アドバイザー。

2010年3月4日、琵琶湖博物館での学校連携、びわこビジターズビューロー、滋賀県教育旅行研修会、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2009年11月21日、琵琶湖博物館の学校連携について、宮崎大学附属中学校、琵琶湖博物館。

2010年2月4日，琵琶湖博物館の体験学習について，東京ガス環境エネルギー館，琵琶湖博物館。
2010年3月10日，琵琶湖博物館の学校連携について，学習院大学，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学校等標本貸出事業，担当，13件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館の学校連携について，講師，2009年10月13日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年4月～2010年3月，フローティングスクール運営協議会，委員。

2009年7月～2010年2月，草津市立笠縫東小学校エコスクール支援委員会，委員。

2009年7月～2010年3月，滋賀県環境副読本「あおいびわ湖」作成委員会，委員。

主任主事

研究部博物館学研究担当

（兼）事業部交流担当

琵琶湖博物館には、年間7万人を超える児童・生徒が来館し、そのうち1万人を超える児童・生徒が展示見学に加えて博物館職員による講義や実習を受講している。現在2名配属されている教員スタッフが、引率者の要望・来館目的や滞在時間・人数などを事前に伺い、多様な内容の実習を提供しながら博物館をより深く活用していただくお手伝いをさせていただいている。また、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）やサイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）事業に採択された学校や教員研修の連携先として、実習を含めた来館を受け入れることも多い。本年度、高校生および学校教員を対象として開発した実習の中から「簡易プランクトンネットの作製」について報告する。

一般にプランクトンネットを購入する場合、1つ2～3万円程度の費用がかかることもあり、当館に来館する学校の先生方からも「学校にはプランクトンネットがない」という声を聞くことがある。手作りプランクトンネットについては「やさしい日本の淡水プランクトン 図解ハンドブック」をはじめとして多くの実践例が紹介されているが、今回はこの実践例を参考にし、さらに安価かつ入手しやすい材料を用いて、手軽に作製する方法を考えた。

結果、1つあたりおよそ500円の材料費で作製でき、さらにミシン・針と糸で縫う時間・手間を厭わなければ、1個あたり300円程度で仕上げることができた。実際に作製した高校からの聞き取りでは、通常のプランクトン観察に十分活用できるサンプルが採取できるとともに、「ひしゃく型」形状のため、水深の浅い田んぼや川、校内のビオトープなどでも使用しやすい、という報告があがっている。

1：準備物

(1) 100円ショップで購入

- ・ステンレス手付ザル（150mm径）①
- ・ダブルクリップ（小）⑧
- ・シャンプーや化粧水などのつめかえ容器（容量50ml程度）①

(2) 手芸店で購入

- ・撥水生地（ポリエステル100% 120cm幅 約400円/m） 1.2mでネット12個分
- 【参考】プランクトンネット用の生地（ミュラーガーゼ）は約2万円/m²
- ・布用両面接着テープ（15mm幅×3m 約500円/本）1本でネット5個分

(3) その他必要な道具

ペンチ、ビニールテープ、カッターナイフ、ハサミ、アイロン

2：作製手順（高校生が50分程度で作製可能）

- (1) ステンレス手付きザルの網の部分をペンチで取り外す。
- (2) シャンプー容器のふたにカッターで穴を空ける。
- (3) 型紙（半径28cm、中心角120°の扇形）を準備して撥水生地を裁断する。
- (4) 裁断した生地の半径部を布用両面接着テープを用いてアイロン圧着し、ロート形状にする。
- (5) ロート形状に圧着した生地の下部を切り取り、穴を空けたシャンプー容器のふたをビニールテープで巻き付ける。
- (6) ロート状にした生地の上部をザルの枠にダブルクリップで取り付けて完成。
- (7) 撥水生地を表裏両面とも十分濡らし、水が通ることを確認してから使用する。

印刷物

【一般向けの著作】

山川千代美・飯住達也・大依久人 (2009) いってみよう 科学探検. *理科教室*, 3月号 (663), 株式会社日本標準・科学教育研究協議会 : 62-63.

研究活動に関する業績

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年4月～2010年3月, 滋賀の教師塾塾生, 解剖実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年4月～2010年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 博物館実習室等, 企画運営, 18件, (はしかけグループ「びわたん」と共催).

2009年5月12日, プラント観察実習, 学校サテライト博物館, 湖北町立朝日小学校, 講師.

2009年6月1日, 学校サテライト博物館移動, 学校サテライト博物館, 湖北町立朝日小学校・高島市立青柳小学校, 運営.

2009年7月1日, 学校サテライト博物館オープニング, 学校サテライト博物館, 高島市立青柳小学校, 運営.

2009年7月～2010年3月, はしかけ登録講座, はしかけ事業, 琵琶湖博物館, はしかけグループ「びわたん」活動紹介, 3件.

2009年7月～2009年10月, 「骨ほね調査隊」等2講座, 企画展関連イベント, 琵琶湖博物館, 企画運営, 6件, (はしかけグループ「びわたん」と共同).

2009年8月4日, 回転実験室で水槽実験を, 一般向け講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月5日, 自然調査セミナー紹介, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年8月～11月, 指導者のための博物館活用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 3件.

他の博物館・機関等主催行事

2009年4月～2010年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 99件.

2009年4月～2010年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 10件.

2009年4月～2009年11月, レイクアカデミー講座, 立命館守山高等学校, スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ, 琵琶湖博物館, コーディネーター, 4件.

2009年6月4・9日, 琵琶湖博物館での体験学習(講義、実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2009年6月～2010年2月, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 13件.

2009年6月26日, 咽頭歯標本作製, 滋賀県総合教育センター, 理科実習助手講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2009年7月9日、琵琶湖博物館実習、滋賀県立彦根東高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。

2009年7月21～28日、琵琶湖探究、滋賀県立石部高等学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件。

2009年7月23・30日、琵琶湖研修、滋賀県立膳所高等学校・滋賀県立守山高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター、2件。

2009年7月31日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2009年8月2日、体験学習「葉っぱのうちわ」、環境と科学のフェスティバル実行委員会、環境と科学のフェスティバル、ビバシティ、彦根市、(はしかけグループ「びわたん」共同)。

2009年8月4日、琵琶湖博物館の体験学習、滋賀県総合教育センター、理科教育講座、みなくち子どもの森(甲賀市)、コーディネーター。

2009年8月4日、回転実験室での体験学習、日野町教育委員会、日野町教職員夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。

2009年8月5～6日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2009年8月7日、琵琶湖博物館での体験学習、伊丹市総合教育センター、授業力向上理科実験講座、琵琶湖博物館、講師。

2009年8月11日、琵琶湖博物館での環境学習、滋賀県教育委員会、環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年8月15日、琵琶湖の化石の話とレプリカ作り、天津プリンスホテル、宿泊イベント、天津プリンスホテル(大津市)、講師。

2009年8月17日、学校教育における博物館活用とプランクトンネット作製実習、甲賀市教育委員会、甲賀市教職員研修「こうか学びの研修(理科講座)」、甲賀市立佐山小学校(甲賀市)、講師。

2009年8月18日、琵琶湖博物館の体験学習、滋賀県総合教育センター、10年経験者研修、みなくち子どもの森(甲賀市)、コーディネーター。

2009年8月19日、琵琶湖研修、大阪府立泉北高等学校、スーパーサイエンスハイスクール事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年9月2日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県環境学習支援センター、企画者のための環境学習体験講座、琵琶湖博物館、講師。

2009年10月30日、回転系の物理実験実習、京都府私立中学高等学校理科学研究会、京都府理科研修会、琵琶湖博物館、講師。

2009年11月5日、琵琶湖博物館の学校連携、滋賀県総合教育センター、都道府県指定都市教育センター所長協議会初等理科部会、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2009年11月7日、琵琶湖博物館実習、京都府立東陵高等学校、サイエンスパートナーシッププロジェクト事業受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師。

2009年11月9～10日、職場体験学習、草津市立新堂中学校、職場体験、琵琶湖博物館、受入。

2009年11月21日、外来魚の解剖実習、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館、講師。

2010年2月5日、琵琶湖博物館での体験学習、吉野郡科学教育研究会、教員研修会、琵琶湖博物館、講師。

2010年2月21日、琵琶湖博物館見学・概要説明、立命館守山高等学校、高校生国際みずフォーラム in 湖国・滋賀受け入れ、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2010年3月4日、琵琶湖博物館での学校連携、びわこビジターズビューロー、滋賀県教育旅行研修会、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2009年9月21日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 千葉県教育庁, 琵琶湖博物館.
2009年10月22日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 上海市教育代表団, 琵琶湖博物館.
2009年11月21日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 宮崎大学附属中学校, 琵琶湖博物館.
2009年12月17日, 琵琶湖博物館の学校連携について, みのかも文化の森, 琵琶湖博物館.
2010年2月4日, 琵琶湖博物館の体験学習について, 東京ガス環境エネルギー館, 琵琶湖博物館.
2010年2月19日, 琵琶湖博物館の交流事業について, 千葉中央博物館, 琵琶湖博物館.
2010年3月10日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 学習院大学, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2009年12月14日, ならこーぷ, せいきょう子ども新聞にじのはし, 琵琶湖の魚について, (2009年11月7日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学校等標本貸出事業, 担当, 13件.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 団体の受付について, 講師, 2009年4月14日, 琵琶湖博物館.
JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館の学校連携について, 講師, 2009年10月9日, 琵琶湖博物館.

印刷物

【専門分野の著作】

齊藤慶一 (2010) 劣化・損傷の著しい史料の応急処置－裏打ち紙除去作業について－. 京都府立大学文化遺産叢書, 3, 京都府立大学文学部歴史学科, 京都市 : 28-34.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年5月9日, 屋外展示たんけん～春の野草みつけ～, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 補助.

メディアへの協力

2009年11月10日, 京都新聞, 企画展示関連企画「骨の記録」を紹介, 取材対応, (2009年11月4日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

居初家資料の目録作成, 実施, 178点.

古書目録の入力, 実施, 7件.

近江関係散逸古文書履歴入力, 実施, 7件.

歴史資料所在表 (一時保管庫・特別収蔵庫) の作成, 実施.

資料データベース (歴史資料) の作成, 調査・準備.

定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 11回.

臨時清掃 (特別収蔵庫前廊下), 実施.

定期清掃 (収蔵庫廊下), 実施, 5回.

定期清掃 (B展示室), 実施, 43回.

定期清掃 (低温収蔵庫・冷凍収蔵庫), 実施, 2回.

大掃除 (B展示室・C展示室), 準備・実施, 2回.

虫カビ対策としての重点追加清掃 (低温収蔵庫・冷凍収蔵庫・トラックヤード・研究棟等), 準備, 実施, 5回.

I PM対策としての年次計画の整備, 準備・実施.

防虫防黴調査, トラップ設置回収・考察作成・防虫対策立案, 3回.

空中真菌調査委託, 準備・考察作成, 3回.

収蔵庫空間の環境整備 (防虫ブラシ・防虫網・除湿機・扇風機の設置, 下駄箱の清掃等), 企画・準備・実施, 10件.

生物発見履歴の整備, 入力, 41件.

「カビの除去作業にあたっての注意」の作成, 実施.

防カビ対策見直しのための生物環境調査請負業者への聞き取り調査, 実施, 3回.

虫カビ対策としての収蔵庫空間モニタリング，調査・準備・実施。
収蔵庫空間（低温収蔵庫・冷凍収蔵庫・特別収蔵庫前廊下）の付着菌調査，実施。
付着菌調査報告会の開催，企画・準備・実施。
報告書「防カビ対策見直しについて」の作成，実施。
低酸素濃度殺虫処理，実施，4回。
二酸化炭素殺虫処理，実施。
館蔵資料（東寺文書）の返却・写真撮影，補助。
館蔵資料（東寺文書）の修復に向けた状態確認の立会，補助。
pH測定（7ヶ所），実施，5回。
収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換（11ヶ所），実施，12回。
展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理，実施，12回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年4月28日～5月24日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第6回，調査・準備・展示。
2009年5月26日～6月21日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第7回，調査・準備・展示。
2009年6月23日～7月12日，琵琶湖博物館保管東寺文書重要文化財指定記念トピック展示「移（うつ）ろう大地を把握するー自然のリズムと中世の人びとー」，補助。
2009年7月14日～10月18日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 骨の記録」第8回，調査・準備・展示。
2009年10月20日～11月15日，収蔵資料展示「企画展示関連企画 骨の記録」第9回，企画・調査・準備・展示。
2009年11月17日～12月20日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第10回，企画・調査・準備・展示。
2009年12月22日～2010年1月24日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第11回，企画・調査・準備・展示。
2010年1月3日～2月7日，お正月トピック展示「トラ・虎・タイガー！？」歴史資料の部，企画・調査・準備・展示。
2010年1月26日～2月28日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第12回，企画・調査・準備・展示。
2010年3月2日～3月28日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第13回，企画・調査・準備・展示。
2010年3月30日～5月9日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」第14回，企画・調査・準備・展示。
B展示室陳列替え，実施，10件。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Cheng, Y.-T., Chan, B. K. K., Nakazono, K. and Lin, K. T. Y. (2009 年 9 月 23 日) Scanning electron microscopy demonstrating the morphological variation of the talitrid amphipod *Platorchestia japonica* (Tattersall, 1922) (Amphipoda: Gammaridea: Talitridae) in Taiwan. The Crustacean Society Summer Meeting in Tokyo, Japan & the 47th Annual Meeting of Carcinological Society of Japan, 東京海洋大学 (東京), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本の整理, 無脊椎動物 (昆虫、貝類を除く), 353 点.

標本の仮登録, 無脊椎動物 (昆虫、貝類を除く), 42 点.

両生爬虫類 DB の元資料一覧, 作成, 439 件.

写真撮影, 田んぼの生き物, 340 枚.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示, C 展示室「最近見られるプランクトン」, 展示更新補助.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月20日、「7つのとびら」特別プログラム：ヨシぶえをつくろう！～びわこのヨシがやってきた～、キッズプラザ大阪、キッズプラザ大阪夏の企画展、キッズプラザ大阪（大阪市）、ディスカバリールームの紹介・イベント補佐。

メディアへの協力

2009年4月17日、竹田事務所、Yahooゴールデンウィーク特集、イベント「ズボンボ」について、（2009年4月11日取材）。

2009年4月23日、毎日新聞、イベント「ぼくの・わたしのどこでも博物館」について、（2009年4月12日取材）。

2009年4月24日、京都新聞、イベント「ズボンボ」について、（2009年4月22日取材）。

2009年6月6日、びわこ放送、イベント「どこでも博物館」についての中継、（2009年6月6日取材）。

産経新聞、イベント「いつでも どこでも だれとでも～むかしのあそび☆やってみよう！！」について、（2010年2月10日取材）。

2010年2月14日、読売新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月13日取材）。

2010年2月15日、中日新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月14日取材）。

2010年2月26日、朝日新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月7日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年度、ディスカバリールーム、維持管理・運営、分担。

2009年4月～12月、「音のへや」アフリカの楽器展示、分担。

2009年4月～6月、イベント「ぼくの・わたしのどこでも博物館 ～のぞいてビックリ☆どんな世界??」、企画・実施。

2009年4月～5月、こどもの日企画イベント「ふしぎ！！ズボンボってなあに？～むかしのオモチャをやってみよう！」、企画・実施。

2009年4月～12月、アカハライモリのこども飼育展示、分担。

2009年4月～5月、ヤゴ飼育展示、分担。

2009年4月～5月、ヤママユガ飼育展示、分担。

2009年4月～5月、「おばあちゃんの台所」こどもの日展示、分担。

2009年5月～7月、カイク飼育展示、分担。

2009年6月、カブトムシとクワガタ飼育展示、分担。

2009年6月～7月、「おばあちゃんの台所」七夕展示、分担。

2009年6月～11月、アルビノのアマガエル飼育展示、分担。

2009年7月、タマムシ飼育展示、分担。

2009年7月～9月，企画展関連イベント「ボーンおどり♪～骨をくみたてよう～」，企画・実施.
2009年10月，秋の実りイベント「おちゃめなカボチャ2009」，企画・実施.
2009年11月～2010年3月，メダカ飼育展示，分担.
2009年12月～2010年3月，「音のへや」日本の楽器展示，分担.
2010年1月，「おばあちゃんの台所」お正月展示，分担.
2010年1月～3月，「いつでも どこでも だれとでも～むかしのあそび☆やってみよう！！」，企画・実施.
2010年1月，特別プログラム「お手玉をつくろう！」，企画・実施.
2010年2月，「おばあちゃんの台所」節分展示，分担.
2010年2月，特別プログラム「ブンブンごまをつくろう！」，企画・実施.
2010年2月～3月，「おばあちゃんの台所」ひなまつり展示，分担.
2010年3月，特別プログラム「石の虫をつくろう！」，企画・実施.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年8月20日、「7つのとびら」特別プログラム：ヨシぶえをつくろう！～びわこのヨシがやってきた～、キッズプラザ大阪、キッズプラザ大阪夏の企画展、キッズプラザ大阪（大阪市）、ディスカバリールームの紹介・イベント補佐。

メディアへの協力

2009年4月17日、竹田事務所、Yahooゴールデンウィーク特集、イベント「ズボンボ」について、（2009年4月11日取材）。

2009年4月23日、毎日新聞、イベント「ぼくの・わたしのどこでも博物館」について、（2009年4月12日取材）。

2009年4月24日、京都新聞、イベント「ズボンボ」について、（2009年4月22日取材）。

2009年6月6日、びわこ放送、イベント「どこでも博物館」についての中継、（2009年6月6日取材）。

産経新聞、イベント「いつでも どこでも だれとでも～むかしのあそび☆やってみよう！！」について、（2010年2月10日取材）。

2010年2月14日、読売新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月13日取材）。

2010年2月15日、中日新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月14日取材）。

2010年2月26日、朝日新聞、イベント「ブンブンごま」について、（2010年2月7日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年度、ディスカバリールーム、維持管理・運営、分担。

2009年4月～12月、「音のへや」アフリカの楽器展示、分担。

2009年4月～6月、イベント「ぼくの・わたしのどこでも博物館 ～のぞいてビックリ☆どんな世界??」、企画・実施。

2009年4月～5月、こどもの日企画イベント「ふしぎ！！ズボンボってなあに？～むかしのオモチャをやってみよう！」、企画・実施。

2009年4月～12月、アカハライモリのこども飼育展示、分担。

2009年4月～5月、ヤゴ飼育展示、分担。

2009年4月～5月、ヤママユガ飼育展示、分担。

2009年4月～5月、「おばあちゃんの台所」こどもの日展示、分担。

2009年5月～7月、カイク飼育展示、分担。

2009年6月、カブトムシとクワガタ飼育展示、分担。

2009年6月～7月、「おばあちゃんの台所」七夕展示、分担。

2009年6月～11月、アルビノのアマガエル飼育展示、分担。

2009年7月、タマムシ飼育展示、分担。

2009年7月～9月，企画展関連イベント「ボーンおどり♪～骨をくみたてよう～」，企画・実施.
2009年10月，秋の実りイベント「おちゃめなカボチャ2009」，企画・実施.
2009年11月～2010年3月，メダカ飼育展示，分担.
2009年12月～2010年3月，「音のへや」日本の楽器展示，分担.
2010年1月，「おばあちゃんの台所」お正月展示，分担.
2010年1月～3月，「いつでも どこでも だれとでも～むかしのあそび☆やってみよう！！」，企画・実施.
2010年1月，特別プログラム「お手玉をつくろう！」，企画・実施.
2010年2月，「おばあちゃんの台所」節分展示，分担.
2010年2月，特別プログラム「ブンブンごまをつくろう！」，企画・実施.
2010年2月～3月，「おばあちゃんの台所」ひなまつり展示，分担.
2010年3月，特別プログラム「石の虫をつくろう！」，企画・実施.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

天野一葉（2009）外来鳥類ソウシチョウの生態と在来鳥類への影響. 樋口広芳・黒沢令子 編. 鳥類の自然史, 北海道大学出版会, 札幌 : 89-105.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

天野一葉（2009年12月18日）外来鳥類ソウシチョウと在来鳥類群集との関係. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

天野一葉・夏原由博（2010年3月18日）琵琶湖周辺のランドスケープの違いによる鳥・両生類の特徴. 日本生態学会第57回全国大会, 日本生態学会, 東京大学生駒キャンパス（東京都目黒区）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

山階鳥類学雑誌, Journal of the Yamashina Institute for Ornithology, 査読, 1件.

【研究プロジェクト等への参加】

地球環境研究総合推進費「F-094 水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案」（研究代表者：夏原由博）, 共同研究者（2009年4月～2010年3月）.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

植田文雄（2009年8月21日）「前方後方墳」出現社会の研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金基盤研究(C)「内水面定置漁業の考古・民俗学的研究」(研究代表者: 植田文雄), 研究代表者 (2009～2013年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 研究部長.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年度前期, 佛教大学, [博物館学Ⅲ].

2009年度後期, 佛教大学, [博物館実習講義A].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年9月20日, 荒神山周辺の歴史, 彦根市三津屋町自治会, 三津屋里山を考える日学習会, 彦根市三津屋町, 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大西 拓（2009年5月15日）石垣島で同所的に生息するハナサキガエル2種（両性網、赤ガエル科）における活動性の季節変異と移動について．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，〔口頭発表〕．

大西 拓・角田正美・山本拓良・西垣孝治・新里仁奈（2009年7月7～8日）コガタハナサキガエルの野外での生態と水槽内繁殖．西日本両生爬虫類会議，西日本両生爬虫類会議，メルパルク岡山（岡山市），〔口頭発表〕．

特別研究員

印刷物

【学術論文】

北村美香・中井大介（2009）珪藻を用いた博物館環境学習プログラムの開発. *日本珪藻学会誌 Diatom*, 25, 日本珪藻学会：166-169.

【一般向けの著作】

北村美香（2010）3）第2回フェスティバル実施状況とアンケート・4）第3回フェスティバル実施状況とアンケート・5）参加館からのコメント. *博物館による環境と科学のフェスティバル実施報告書*, 博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会：11-18・19-25・82.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香（2009年12月5日）博物館とボランティア活動. 平成21年度博物館ボランティア養成セミナー, 兵庫県立歴史博物館（兵庫県姫路市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

小・中学校用パンフレット作成に関するプロジェクト（研究代表者：五月女賢司）, 共同研究者（2009年4月～2010年3月）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年9月～2010年3月, びわこ学院大学こども教育学科, 「滋賀の環境」, (特別講師).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年4月～2010年3月, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 講師, 18件.

2009年8月11日, ホネホネ探検隊, 第17回企画展関連イベント, 講師.

2009年10月4日, ホネでつながるワークショップ, 第17回企画展関連イベント, 企画運営（特定非営利法人大阪自然史センター共同）.

2009年12月20日, からすま半島の水鳥を観察してみよう, 琵琶湖博物館・日本野鳥の会滋賀支部共催観察会, 体験プログラム, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

- 2009年4月～2010年3月，ワークショップにおいて，特定非営利法人大阪自然史センター，教育スタッフ，計25回。
- 2009年6月26日，咽頭歯標本作成，滋賀県総合教育センター，理科実習助手講座[第1回]・理科教育講座[第1回]，琵琶湖博物館，講師。
- 2009年6月28日，水田のプランクトン観察，農業体験活動実行委員会，「農と自然の体験」第2回イベント，愛西土地改良区（彦根市），講師。
- 2009年7月12日，冬期湛水不耕起水田の生き物観察会，（社）日本国際民間協力会 NICCO 琵琶湖モデルファームチーム，実習，NICCO 琵琶湖モデルファーム（蒲生郡竜王町），講師。
- 2009年8月2日，葉っぱのうち葉をつくろう，第3回博物館による環境と科学のフェスティバル，博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，滋賀県彦根市，講師・実行委員。
- 2009年8月5日，偏光スコープをつくろう，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科部会，琵琶湖博物館，講師。
- 2009年8月20日，ヨシ笛をつくろう，キッズプラザ大阪，夏期企画展「7つのとびら」関連イベント，講師。
- 2009年8月21日，水生生物調査，琵琶湖河川事務所，滋賀県大津市，講師。
- 2009年10月23日，長沢川観察会，大津市立瀬田北中学校科学部，長沢川（滋賀県大津市），講師。
- 2009年11月8日，田んぼの生き物観察，稲枝まちおこしフェア実行委員会，いなえまちおこしフェア2009，JA 東びわこ稲枝支店（滋賀県彦根市），講師。
- 2010年2月28日，琵琶湖わくわく探検隊交流イベント，琵琶湖わくわく探検隊実行委員会，水のめぐみ館アクア琵琶，主催。
- 2010年3月1日，博物館技のレッドカーペット，博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，水のめぐみ館アクア琵琶，主催。

【企画調整活動】

- JICA 博物館学集中コース，体験プログラム見学および体験，講師，2009年10月10日，琵琶湖博物館。
- JICA 博物館学集中コース専門研修，プランクトンの模型作り，講師。2009年11月9日，琵琶湖博物館。
- JICA 中東博物館コース研修，昔のくらしを体験しよう，講師，2010年2月27日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2009年4月～2010年3月，博物館による環境と科学のフェスティバル実行委員会，実行委員。

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

黒岩啓子（2009年12月31日）日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会 平成21年度第1回研究会開催報告 ミュージアムリテラシーとは. 日本ミュージアム・マネジメント学会会報, 14(54):18-21.

黒岩啓子（2010年2月8日）全日本博物館学会2009年度・第2回研究会開催報告 関西から博物館・図書館の元気を発信する. 全日本博物館学会ニュース, 91:6-7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

坂本 昇・中脇健児・角正美雪・黒岩啓子（2009年12月7日～9日）Singing Insects in Gocho: Development of a project through cooperation among museums, cultural facilities, the local authority and community. ICOM-ASPAC（国際博物館会議アジア太平洋地域連盟）日本会議2009, 国立科学博物館, [ポスター発表].

坂本 昇・中脇健児・角正美雪・黒岩啓子（2010年1月24日）まちぐるみで‘秋’を楽しむー地域・施設との連携事業「鳴く虫と郷町」. 東京国立博物館国際シンポジウム, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金「来館者同士のコミュニケーションを誘発する展示見学補助ツールの実践的研究」（研究代表者：黒岩啓子）, (2009年度).

新技術振興渡辺記念会委託調査・研究事業「科学系博物館の学校利用促進方策ー教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発」（代表者：高安礼士）, 調査研究委員（2009年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネジメント学会, 基礎部門研究部会幹事.

日本ミュージアム・マネジメント学会, 近畿支部幹事.

日本ミュージアム・マネジメント学会近畿支部・全国博物館学会合同シンポジウムおよび見学会, 実行委員・シンポジウム司会.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年9月12日, 「鳴く虫と郷町」シンポジウム, 伊丹市, [コーディネーター].

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，展示評価，講師，2009 年 10 月 14 日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館企画展示「骨の記憶」，企画会議出席，2 件，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009 年度，「鳴く虫と郷町」事業外部評価.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

鈴木隆仁 (2009) 淡水産イタチムシの分類と系統. *うみうし通信*, 65, (財団法人) 水産無脊椎動物研究所: 6-7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆 (2009年6月14日) 新種イタチムシ一種の記載. 第45回日本動物分類学会名古屋大会, 名古屋港水族館 (名古屋市), [ポスター発表].

鈴木隆仁・常木和日子・古屋秀隆 (2009年9月19日) 大阪大学豊中キャンパスで発見したイタチムシ. 第80回日本動物学会静岡大会, 静岡大学 (静岡市), [口頭発表].

鈴木隆仁 (2009年11月24日) a) 専門知識とふれあえる場所、博物館 b) 博物館周辺域に生息する水棲微小動物の多様性. 第2回CLIC 養成人材発表会, 大阪大学 (吹田市), [口頭発表].

鈴木隆仁 (2009年12月18日) 琵琶湖周辺の水田で得られた腹毛動物. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的多様性の探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 共同研究者 (2009~2010年度).

環境省委託研究「水田地帯の生物多様性再生に向けた自然資本・社会資本の評価と再生シナリオの提案. 2. 小型生物を重視した水田における種多様性の再検討」(研究代表者: 夏原由博), 協力者 (2009~2011年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館主催行事

フロアトーク, 琵琶湖博物館, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「ミクロの世界」, 琵琶湖周辺の腹毛動物イタチムシ, パネル更新.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

鈴木誉士・小林 徹（2009）護岸された農業水路での魚類の繁殖場所. *魚類学雑誌*, 56 (2) : 182-184.

鈴木誉士・浅香智也・中川雅博（2009）カゴ網によるブルーギル駆除時における在来カメ類の混獲について. *関西自然保護機構会誌*, 31 (1) : 71-74.

中川雅博・浅香智也・山野ひとみ・鈴木誉士（2009）琵琶湖につながる農業水路におけるカネヒラ *Acheilognathus rhombeus* 個体数の経月および経年変化. *南紀生物*, 51 (2) : 122-126.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木誉士（2010年1月15日）琵琶湖産フナ類各種の繁殖場所について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

特別研究員

印刷物

【学術論文】

- Yamamoto, Y. and Nakai, D. (2009) Monitoring individual growth of *Tilapia* (*Oreochromis niloticus* and *Tilapia zillii*) in an artificially heated river. *Aquaculture Science*, 57, Japanese Society for Aquaculture Research: 109-116.
- 山本芳正・塚田 創・中井大介 (2009) 底泥除去をアオコ防除法として選択した場合の除去泥土の利用方法の提案. *陸水学雑誌*, 70 : 201-207.
- 北村美香・中井大介 (2009) 珪藻を用いた博物館環境学習プログラムの開発. *Diatom*, 25, The Japanese Society of Diatomology : 166-169.

【専門分野の著作】

- 中井大介 (2009) 滋賀県立琵琶湖博物館はしかけグループ「たんさいぼうの会」の紹介. *Diatom*, 25 The Japanese Society of Diatomology : 186-187.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- The Japanese Society of Diatomology, *Diatom*, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2009年, たんさいぼうの会総会, 4回開催, 琵琶湖博物館, 運営補助.
- 2009年, たんさいぼうの会調査, 2回実施.

他の博物館・機関等主催行事

- 2009年7月18日, 有害外来魚つり大会 in 琵琶湖, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地木浜公園(守山市), 講師補助.
- 2009年8月2日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地衣川公園(大津市), 講師補助.
- 2009年8月8日, 昆虫採集・観察会, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地姉川河口公園(長浜市), 講師補助.
- 2009年8月29日, 有害外来魚つり大会 in 琵琶湖, 近江鉄道ゆうグループ, 自然観察会, 県営都市公園湖岸緑地曾

根沼公園（彦根市），講師補助.

2009年9月26日，秋の野草観察会，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地志那公園（草津市），講師補助.

2009年12月4日，水環境観察会，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地衣川公園(大津市)，講師.

2010年3月31日，水環境観察会，近江鉄道ゆうグループ，自然観察会，県営都市公園湖岸緑地志那公園(草津市)，講師.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中尾博行・安藤茂伸(2009年7月9日)住民参加による魚類産卵調査－生態系に配慮した瀬田川洗堰操作に向けて.
近畿地方整備局研究発表会, 大阪合同庁舎1号館(大阪府大阪市), [口頭発表].

中尾博行(2009年12月18日)うおの会による産卵調査－琵琶湖の魚類保全に向けて. 琵琶湖博物館研究セミナー,
琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

中尾博行・安藤茂伸(2009年7月9日)住民参加による魚類産卵調査－生態系に配慮した瀬田川洗堰操作に向けて.
平成21年度近畿地方整備局研究発表会論文集 <http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/happyou/theses/2009/02.html>, 国土交通省近畿地方整備局企画部技術調査課・総務部総務課.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2009年6月23日, 桜谷小学校田んぼとため池の生きもの調査, 水土里ネット日野川流域・滋賀県東近江地域振興局(滋賀県日野町), 講師.

2009年7月6日, 竜王南部水質保全池の生きもの調査, 水土里ネット日野川流域・滋賀県東近江地域振興局(滋賀県日野町), 講師.

2009年8月29日, 有害外来魚つり大会 in 琵琶湖, 近江鉄道ゆうグループ, 滋賀県営都市公園湖岸緑地曾根沼公園(彦根市), 講師.

メディアへの協力

2010年2月4日, NHK 天津放送局, おうみ発610「610特集 電気ショックで外来魚駆除」, 外来魚水中映像の提供.

【展示活動】

他博物館・機関の活動

水のみぐみ館アクア琵琶, 2009年4月～2010年3月(随時更新), プランクトン・魚類の卵および仔魚等の展示,
琵琶湖と瀬田川の治水の歴史・利水・生物等についての来館者への解説.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年4月～2010年3月，水のめぐみ館アクア琵琶，担当技術者.

2010年1月～，滋賀県生き物総合調査魚貝類部会，専門委員.

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

中野正俊・東田充弘（2010）児童の科学的概念を討論で深める問題解決学習－第4学年理科「水の変身：わき立つ大きな泡の正体をさぐれ」から－. 滋賀大学教育学部教育実践センター紀要, 18, 滋賀大学教育学部教育実践センター: 145-155.

【一般向けの著作】

中野正俊（2009）児童の理科離れに対応する博物館との連携. 初等理科教育, 43（10）, 日本初等理科教育研究会, 農山漁村文化協会: 64-67.

中野正俊（2009）「わかっているつもり」から「よりよくわかる」学習へ. 教育短信「初等教育みずうみ」, 138, 滋賀大学教育学部付属小学校: 30-31.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊（2009年8月19日）小学4年生「人の体のつくりと運動」－児童の理科離れに対応する博学連携－. 第59回日本理科教育学会全国大会, 日本理科教育学会主催, 宮城県仙台市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)「児童生徒の理科離れに対応する博・学・地域連携モデルの構築とその分析」(研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2009～2011年度).

総合研究・共同研究による印刷物

- Blakemore, R. J., Kupriyanova, E. K. and Grygier, M. J. (2010) Neotypification of *Drawida hattamimizu* Hatai, 1930 (Annelida: Oligochaeta: Megadrili: Moniligastridae) as a model linking DNA (COI) sequences to an earthworm type, with a response to the 'Can of Worms' theory of cryptic species. *Zookeys*. 41, Pensoft Publishers : 1-29.
- Chen, X., Hu, X. Kusuoka, Y. and Li, Z. (2010) Morphology, morphogenesis and gene sequence of a freshwater ciliate, *Pseudourostyla cristata* (Ciliophora, Urostyleloidae) from the ancient Lake Biwa, Japan. *European Journal of Protistology*. 46 (1), Elsevier : 43-60.
- Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2009) Morphological and molecular characterization of *Histiobalantium natans viridis* Kahl, 1931 (Ciliophora, Scuticociliatia). *European Journal of Protistology*. 45 (3), Elsevier : 193-204.
- 廣田昌昭・大塚泰介 (2009) 鳥取県千代川の礫付着珪藻. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 52-72.
- 金子有子・東 善広・辰己 勝・佐々木 寧・栗林 実・石綿進一・井上栄壮・小林 貞・石川可奈子・芳賀裕樹・西野麻知子 (2010) 政策課題研究 5 湖岸生態系の保全・修復および管理に関する政策課題研究—平成 19～20 年度 (2007～2008 年度) 中間報告, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター研究報告書, 5, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター : 55-85.
- Kihara, Y., Sahashi, Y. Arita, S. and Ohtsuka, T. (2009) Diatoms of Yamakado Moor in Shiga Prefecture, Japan. *Diatom*. 25, 日本珪藻学会 : 91-105.
- 牧野厚史・楊 平 (2009) 東アジア湖沼の環境問題と住民—日本と中国における湖畔の村の環境問題—. *21世紀東アジア社会学*, 2 : 56-74.
- 長澤和也 (2009) 日本産魚類に寄生するチョウ属エラオ類の目録 (1900-2009年), *日本生物地理学会会報*, 64, 日本生物地理学会 : 135-148.
- 大塚泰介 (2009) DAipo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) が指標するものは明らかになったか. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 8-14.
- Ohtsuka, T., Kato, S., Asai, K. and Watanabe, T. (2009) Checklist and illustrations of diatoms in Laguna de Bay, Philippines, with reference to water quality. *Diatom*, 25, 日本珪藻学会 : 134-147.
- Olesen, J. (2009) Phylogeny of Branchiopoda (Crustacea) – character evolution and contribution of uniquely preserved fossils. *Arthropod Systematics & Phylogeny*. 67 (1), Museum für Tierkunde, Dresden : 3-39.
- Oros, M., Scholz, T., Hanzelová, V. and Mackiewicz, J.S. (2010) Scolex morphology of monozoic cestodes (Caryophyllidea) from the Palaearctic Region: a useful tool for species identification. *Folia Parasitologica*. 56 (4), Institute of Parasitology, Biology Centre of the Academy of Sciences of the Czech Republic : 37-46.
- Schmidt-Rhaesa, A. and Sato, T. (2009) *Gordionus chinensis* (Villot, 1874) and *Gordionus kii* sp.nov. (Nematomorpha, Gordiida), new reports of the genus *Gordionus* in Japan. *Species Diversity*. 14 (1), 日本動物分類学会 : 61-67.
- Schmidt-Rhaesa, A., Nishi, H., Tanabe, A. S. and Urabe, M. (2009) New records of hair-worms (Nematomorpha: Gordiida) from Japan. *Species Diversity*. 14 (2), 日本動物分類学会. 131-135.
- Schwenter, M., Timms, B.V., Bastrop, R. and Richter, S. (2009) Phylogeny of Spinicaudata (Branchiopoda, Crustacea) based on three molecular markers – An Australian origin for *Limnadopsis*. *Molecular Phylogenetics and Evolution*. 53, Elsevier : 716-725.
- Smith, R.J. and Janz, H. (2009) Recent ostracods of the superfamilies Cytheroidea and Darwinuloidea (Crustacea) from Lake Biwa, a Japanese ancient lake. *Species Diversity*. 14 (3), 日本動物分類学会 : 217-241.
- Urabe, M. (2009) Morphological comparison of *Lophotaspis* from freshwater molluscs and turtles in Japan and China, with the correction of original description of *Lophotaspis orientalis* Faust and Tang, 1936 (Aspidogastrea: Aspidogasteridae). *Parasitology International*, 58, Elsevier : 255-257.
- Wall, A. (2009) Pourquoi étudier les thécamoebiens dans les sédiments du Lac Biwa au Japon? *Prix A'Doc de la Jeune Recherche en Franche-Comté 2009*, Presses universitaires de Franche-Comté : 121-135.
- Weeks, S.C., Chapman, E.G., Rogers, D.C., Senyo, M. and Hoeh, R. (2009) Evolutionary transitions among dioecy, androdioecy and hermaphroditism in limnadiid clam shrimp (Branchiopoda: Spinicaudata). *Journal of Evolutionary*

Biology, 22, European Society for Evolutionary Biology : 1781-1799.

Yamazaki, M., Ohtsuka, T., Kusuoka, Y., Maehata, M., Obayashi, H., Imai, K., Shibahara, F. and Kimura, M. (2010) The impact of nigorobuna (crucian carp) larvae/fry stocking and rice-straw application on the community structure of aquatic organisms in Japanese rice fields. *Fisheries Sciences*, 76(2), 日本水産学会 : 207-217.

楊 平 (2009) 水域的共同利用与管理—太湖和琵琶湖流域村落の個案研究—. *中国環境社会学論文集*, 2. 河海大学社会学系 : 528-533.

*編集者注：著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、アルファベット順に並べた。

2009 年度の研究活動をふりかえって

「琵琶湖博物館中長期基本計画」では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを研究の柱としてきた。特に、昨年度は琵琶湖博物館が行う研究課題の内容、位置づけ、方法等の指針を作成し、学芸職員全員の科学研究費申請も目標に掲げてきた。

前者は、「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」として2009年3月にとりまとめ、主に研究の領域、研究の体制、県の施策との関係、琵琶湖博物館での研究機能の4つの視点から検討を行ったところである。ただ、具体的な類例や方策が不十分であり、2009年度も引き続きその内容についての具体的検討を行い、2010年3月に「【参考】琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性（補足）」としてとりまとめた。

また、科学研究費については、20件の新規申請中7件が採択され、継続分を併せて15件となり、都道府県立の博物館としては全国トップクラスのものとなった。申請書類の内容精査を徹底的に行った結果であるが、一方で科研費の経理事務体制が問題となりつつある。今後とも全員申請と採択率の向上という目標に向かって努力するとともに、研究機関としての体制整備もさらに充実させていく必要があるし、間接経費等の支出ルール作りも求められるようになってきている。

研究発信は、学術論文21件、専門分野の著述28件、一般向けの著述57件、学会発表は40件であり、一般向けの著述を除いて前年を数では下回った。論文等による研究成果の発信数には依然として個人差があるが、少なくとも研究成果の公表や活用はあらゆる媒体や方法を使って行っていきたい。

また、本年度は、昨年度の「新琵琶湖学入門セミナー」に続き「新琵琶湖学専門セミナー」と題した一般向けの講座を開催した。博物館の閑散期にあたる12月から3月まで、計10日間にわたって、内部・外部の講師による講座で、毎回数十名の聴衆を集めた。今後、こうした人々が琵琶湖博物館を支える基礎単位となっていくと考えられ、さらに拡充していくため引き続き今後の研究成果公表等の企画が望まれる。

研究部長 用田政晴

琵琶湖博物館業績目録 第 14 号

2009 年度

平成 22 年（2010 年）5 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

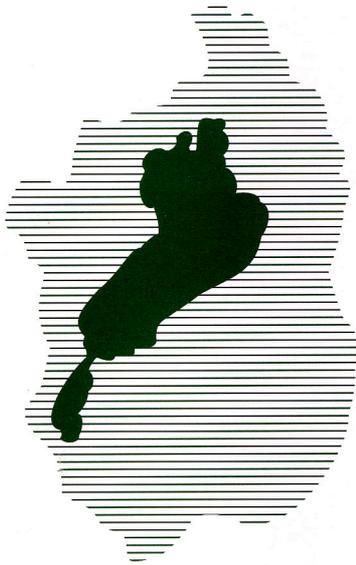
発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)

Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **14** Fiscal 2009



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM
1091 Oroshimo,Kusatsu,
Shiga 525-0001,Japan